



Simply Better Connections

RCMDP101U / RCMDVI101 /  
RCMVGA101 / RCMHD101U

1ローカル/リモート アクセス共有

1ポートKVM over IP

ユーザーマニュアル

#### 本書 日本語マニュアルについて

この日本語マニュアルはATEN International Co., Ltdが作成している英語版ユーザーマニュアルを、日本国内のお客様が製品をご使用になる上での便宜を図るため、ATENジャパン株式会社にて機械翻訳ベースで作成したドキュメントです。用語・表現等は公開前に人為的な修正を加えておりますが、若干の表記ゆれなどが残っている可能性がありますので、ご理解願います。

製品の取扱説明書としての整合性は英語版ユーザーマニュアルに準ずるものですが、万が一内容に不備・誤り等がございましたら、誠にお手数ですが、ATENジャパン株式会社までお問い合わせくださいますよう、お願い申し上げます。

## 適合性に関する宣言

---

### 連邦通信委員会(FEDERAL COMMUNICATIONS COMMISSION INTERFERENCE STATEMENT)

本製品は、FCC(連邦通信委員会)規則のPart15に準拠したデジタル装置 Class Aの制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則のPart15に準拠しています。動作は次の2つの条件を前提としています。(1)このデバイスが有害な干渉を引き起こさないこと、(2)このデバイスが、予想外の動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、すべての干渉を受け入れなければならないこと。

### FCCによる注意事項

本コンプライアンスに対する責任者による明確な承認を得ていない変更または改良を行った場合は、ユーザーの本装置を操作する権利を無効とします。

### 警告

この装置を居住地域で使用すると、電波干渉を引き起こす可能性があります。



### カナダ産業省による宣言

Class Aの本デジタル装置はカナダのICES-003に準拠しています。

**CAN ICES-003 (A) / NMB-003 (A)**

## RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令』、通称RoHS指令に準拠しております。

## ユーザー情報

---

### ユーザーの皆様へ

このマニュアルに記載されているすべての情報、ドキュメント、および仕様は、製造元から事前に通知されることなく変更される場合があります。製造業者は、本契約の内容に関して、明示的または黙示的に表明または保証を行わず、特定の目的のための商業性または適合性に関するいかなる保証も特に放棄します。このマニュアルに記載されている製造元のソフトウェアは、そのまま販売またはライセンスを受けています。購入後にプログラムに欠陥があることが判明した場合、購入者(メーカー、代理店、または販売店は除く)が、必要なすべてのサービス、修理、およびソフトウェアの欠陥に起因する付随的または派生的損害の全費用を負担するものとします。

このシステムの製造業者は、この装置に対する許可されていない変更によって引き起こされる無線および/またはTV干渉の責任を負いません。このような干渉を訂正することは、ユーザーの責任です。

製造業者は、動作前に正しい電圧設定が選択されていない場合には、このシステムの動作において被るいかなる損害に対しても責任を負いません。使用前に電圧設定が正しいことを確認してください。

## 同梱品

---

すべてのアイテムが正常に動作していることを確認してください。問題が発生した場合は、販売店にお問い合わせください。

### RCMVGA101

- ◆ RCMVGA101 KVM over IP × 1
- ◆ KVMケーブル (SPHD→VGA、PS/2、USB) × 1
- ◆ USB Type-A→USB Mini-Bケーブル × 1
- ◆ 電源アダプター × 1
- ◆ マウントキット × 1
- ◆ 制御ターミナルブロック × 1
- ◆ フットパッド (4pcs) × 1
- ◆ クイックスタートガイド × 1

### RCMDP101U

- ◆ RCMDP101U KVM over IP × 1
- ◆ DisplayPortケーブル × 1
- ◆ USB Type-A→USB Type-Bケーブル × 1
- ◆ USB Type-A→USB Mini-Bケーブル × 1
- ◆ 電源アダプター × 1
- ◆ マウントキット × 1
- ◆ 制御ターミナルブロック × 1
- ◆ フットパッド (4pcs) × 1
- ◆ クイックスタートガイド × 1

## **RCMDVI101**

- ◆ RCMDVI101 KVM over IP × 1
- ◆ KVMケーブル(DVI-D、USB、オーディオ) × 1
- ◆ USB Type-A→USB Mini-Bケーブル × 1
- ◆ 電源アダプター × 1
- ◆ マウントキット × 1
- ◆ フットパッド(4pcs) × 1
- ◆ クイックスタートガイド × 1

## **RCMHD101U**

- ◆ RCMHD101U KVM over IP × 1
- ◆ KVMケーブル(HDMI、USB、オーディオ) × 1
- ◆ USB Type-A→USB Mini-Bケーブル × 1
- ◆ 電源アダプター × 1
- ◆ マウントキット × 1
- ◆ フットパッド(4pcs) × 1
- ◆ クイックスタートガイド × 1

# 目次

---

|                             |      |
|-----------------------------|------|
| 適合性に関する宣言 .....             | i    |
| ユーザー情報 .....                | ii   |
| ユーザーの皆様へ .....              | ii   |
| 同梱品 .....                   | iii  |
| RCMVGA101 .....             | iii  |
| RCMDP101U .....             | iii  |
| RCMDVI101 .....             | iv   |
| RCMHD101U .....             | iv   |
| 目次 .....                    | v    |
| 本マニュアルについて .....            | xi   |
| マニュアル表記について .....           | xiii |
| 第1章 はじめに .....              | 1    |
| 概要 .....                    | 1    |
| 特長とメリット .....               | 3    |
| ハードウェア .....                | 3    |
| 管理 .....                    | 4    |
| 使いやすいインターフェース .....         | 5    |
| 高度なセキュリティ .....             | 5    |
| バーチャルメディア .....             | 6    |
| バーチャルリモートデスクトップ .....       | 6    |
| サポートされるビデオ解像度 .....         | 8    |
| システム要件 .....                | 9    |
| リモートユーザー側で使用するコンピューター ..... | 9    |
| サーバー .....                  | 9    |
| ケーブル .....                  | 10   |
| オペレーティングシステム .....          | 11   |
| ブラウザー .....                 | 12   |

|                                               |           |
|-----------------------------------------------|-----------|
| <b>製品各部名称</b> .....                           | <b>13</b> |
| RCMVGA101 フロントパネル .....                       | 13        |
| RCMVGA101 リアパネル .....                         | 14        |
| RCMVGA101 / RCMDP101U / RCMHD101U サイドパネル..... | 15        |
| RCMDP101U フロントパネル .....                       | 16        |
| RCMDP101U リアパネル .....                         | 17        |
| RCMDVI101 フロントパネル .....                       | 18        |
| RCMDVI101 リアパネル .....                         | 19        |
| RCMHD101U フロントパネル .....                       | 20        |
| RCMHD101U リアパネル .....                         | 21        |
| <b>第2章 ハードウェアのセットアップ</b> .....                | <b>22</b> |
| <b>マウント</b> .....                             | <b>22</b> |
| <b>セットアップ</b> .....                           | <b>25</b> |
| RCMVGA101 .....                               | 27        |
| RCMDVI101 .....                               | 28        |
| RCMDP101U.....                                | 29        |
| RCMHD101U .....                               | 30        |
| <b>DCEおよびDTEポート</b> .....                     | <b>31</b> |
| スイッチ&PC.....                                  | 31        |
| PC&タッチパネル .....                               | 31        |
| <b>マルチディスプレイのセットアップ</b> .....                 | <b>32</b> |
| RCMVGA101 .....                               | 32        |
| RCMDVI101 .....                               | 33        |
| RCMDP101U.....                                | 34        |
| RCMHD101U .....                               | 35        |
| <b>第3章 API関数</b> .....                        | <b>38</b> |
| <b>概要</b> .....                               | <b>38</b> |
| <b>APIセッションの開始</b> .....                      | <b>38</b> |
| アクセス管理 .....                                  | 39        |
| リモート監視 .....                                  | 41        |
| リモートアクセス.....                                 | 42        |
| OCR関数 .....                                   | 42        |

|                                |            |
|--------------------------------|------------|
| <b>第4章 ブラウザーによるログイン</b>        | <b>45</b>  |
| ログイン                           | 45         |
| メイン画面                          | 48         |
| <b>第5章 設定</b>                  | <b>49</b>  |
| はじめに                           | 49         |
| <b>基本設定</b>                    | <b>50</b>  |
| ユーザー管理                         | 50         |
| アカウントポリシー                      | 53         |
| セッション                          | 54         |
| メンテナンス                         | 55         |
| <b>詳細設定</b>                    | <b>60</b>  |
| デバイス情報                         | 60         |
| ネットワーク                         | 62         |
| ANMS                           | 67         |
| セキュリティ                         | 75         |
| コンソール管理                        | 86         |
| 日付/時刻                          | 94         |
| カスタマイズ                         | 96         |
| <b>設定</b>                      | <b>99</b>  |
| ユーザー設定                         | 99         |
| ログ                             | 101        |
| リモートコンソール                      | 102        |
| ダウンロード                         | 103        |
| バージョン情報                        | 103        |
| ビューワー                          | 104        |
| ログアウト                          | 104        |
| <b>第6章 リモートサーバーへのアクセス</b>      | <b>105</b> |
| はじめに                           | 105        |
| Web、Windows、およびJavaクライアントビューワー | 107        |



|                                     |            |
|-------------------------------------|------------|
| WindowsクライアントAP .....               | 108        |
| ダウンロード .....                        | 108        |
| 起動 .....                            | 108        |
| JavaクライアントAP .....                  | 111        |
| <b>第7章 Windowsクライアントビューワー .....</b> | <b>112</b> |
| Win/Javaクライアントのコントロールパネル .....      | 112        |
| コントロールパネルの機能 .....                  | 114        |
| マクロ .....                           | 116        |
| メッセージボード .....                      | 129        |
| バーチャルメディア .....                     | 132        |
| ウィンドウサイズの拡大/縮小 .....                | 137        |
| オンスクリーンキーボード .....                  | 138        |
| マウスポインターの種類 .....                   | 140        |
| マウスダイナシクモード .....                   | 141        |
| GUIを開く(設定) .....                    | 143        |
| コントロールパネルの設定 .....                  | 144        |
| Webクライアントのコントロールパネル .....           | 147        |
| 機能 .....                            | 147        |
| Webクライアントのビデオ設定 .....               | 149        |
| Webクライアントのオンスクリーンキーボード .....        | 150        |
| Webクライアントのマウスポインターの種類 .....         | 150        |
| バーチャルメディア .....                     | 151        |
| Webクライアントのマウスダイナシクモード .....         | 152        |
| <b>第8章 ローカルアクセス .....</b>           | <b>153</b> |
| ローカルコンソール .....                     | 153        |
| ローカルOSD .....                       | 155        |
| ラップトップUSBコンソール(LUC) .....           | 156        |
| <b>第9章 ログファイル .....</b>             | <b>159</b> |
| ログファイル画面 .....                      | 159        |
| <b>第10章 ログサーバー .....</b>            | <b>160</b> |

|                       |            |
|-----------------------|------------|
| <b>セットアップ</b>         | <b>160</b> |
| <b>起動</b>             | <b>160</b> |
| <b>メニューバー</b>         | <b>162</b> |
| 設定                    | 162        |
| イベント                  | 164        |
| オプション                 | 165        |
| ヘルプ                   | 166        |
| <b>ログサーバーのメイン画面</b>   | <b>167</b> |
| 概要                    | 167        |
| リストパネル                | 168        |
| 選択ユニットのログ表示パネル        | 168        |
| <b>付録</b>             | <b>169</b> |
| <b>安全にお使いいただくために</b>  | <b>169</b> |
| 全般                    | 169        |
| ラックへのマウント             | 172        |
| <b>IPアドレスの設定</b>      | <b>173</b> |
| IPインストーラー             | 173        |
| ブラウザ                  | 174        |
| AP Windowsクライアント      | 175        |
| <b>IPv6</b>           | <b>176</b> |
| リンクローカルアドレス           | 176        |
| IPv6ステートレス自動設定        | 177        |
| <b>ポートの転送</b>         | <b>178</b> |
| <b>キーボードエミュレーション</b>  | <b>179</b> |
| <b>シリアルポートのピンアサイン</b> | <b>180</b> |
| RJ-45→DB-9ケーブルのピン配列   | 181        |
| <b>信頼された証明書</b>       | <b>182</b> |
| 概要                    | 182        |
| 証明書のインストール            | 183        |
| 証明書のインストール完了          | 184        |

|                                               |            |
|-----------------------------------------------|------------|
| <b>自己署名(プライベート)証明書 .....</b>                  | <b>187</b> |
| ファイルのインポート .....                              | 188        |
| <b>トラブルシューティング .....</b>                      | <b>189</b> |
| 操作全般 .....                                    | 189        |
| Windows .....                                 | 191        |
| Java .....                                    | 192        |
| Sunシステム .....                                 | 193        |
| Macシステム .....                                 | 194        |
| ログサーバー .....                                  | 194        |
| <b>その他のマウス同期方法 .....</b>                      | <b>195</b> |
| Windows: .....                                | 195        |
| <b>対応バーチャルメディア .....</b>                      | <b>198</b> |
| Windowsクライアント Active Xビューワー/WinクライアントAP ..... | 198        |
| Javaアプレットビューワー/JavaクライアントAP .....             | 198        |
| <b>アドミニストレーターでログインできない場合 .....</b>            | <b>199</b> |
| <b>仕様 .....</b>                               | <b>200</b> |
| RCMVGA101 .....                               | 200        |
| RCMDVI101 .....                               | 201        |
| RCMDP101U .....                               | 202        |
| RCMHD101U .....                               | 204        |

# 本マニュアルについて

---

このマニュアルは、RCM KVM over IPを最大限に活用できるようにするために提供されています。このマニュアルでは、製品の取り付け・セットアップ方法、操作方法に関する情報を提供します。

このユーザーマニュアルでは、次のKVM over IPの機種について説明します：

| 型番        | 製品名                                           |
|-----------|-----------------------------------------------|
| RCMVGA101 | 1ローカル/リモート アクセス共有 1ポートVGA KVM over IP         |
| RCMDVI101 | 1ローカル/リモート アクセス共有 1ポートDVI KVM over IP         |
| RCMDP101U | 1ローカル/リモート アクセス共有 1ポートDisplayPort KVM over IP |
| RCMHD101U | 1ローカル/リモート アクセス共有 1ポートHDMI KVM over IP        |

マニュアルは下記のとおり構成されています。

**第1章 はじめに:**RCM KVM over IPについて説明します。特長、機能概要および製品各部名称について説明します。

**第2章 ハードウェアのセットアップ:**RCM KVM over IPを設定する方法について、順を追って説明します。

**第3章 API関数:**様々なシチュエーションやシステムにおいて、必要に応じて、Windows DLL経由でRCM KVM over IPにアクセスして設定できる便利なAPI関数を提供します。

**第4章 ブラウザーによるログイン:**WebブラウザからRCM KVM over IPにログインする方法について説明します。

**第5章 設定:**RCM KVM over IPの作業環境の設定に使用される管理手順について説明します。

**第6章 リモートサーバーへのアクセス:**リモートからRCM KVM over IPにアクセスする方法について説明します。

**第7章 Windowsクライアントビューワー:**Winクライアント、Java クライアント、およびWebクライアントビューワーのコントロールパネルの使用方法について説明します。

**第8章 ローカルアクセス:**RCM KVM over IPにローカルからアクセスする方法について説明します。

**第9章 ログファイル:**RCM KVM over IP で発生したイベントを、ログファイル・ユーティリティを使用して表示する方法を示します。

**第10章 ログサーバー:**ログサーバーのインストール方法および設定方法について説明します。

**付録:**RCM KVM over IPに関する仕様とその他の技術情報を提供します。

---

**注意:**

- ◆ 本書をよくお読みになり、設置・操作の手順に従い、本機や接続機器の破損を防止してください。
  - ◆ 本書の公開後に、製品の機能や特長が追加・改良・削除されることで、アップデートされる場合があります。最新のユーザーマニュアルについては、<http://www.aten.com/global/en/>をご覧ください。
-

## マニュアル表記について

このマニュアルでは、次の規則を使用します。

- [ ]      押すべきキーを示します。入力するキーを示します。例えば[Enter]はEnterキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl] + [Alt]のように表記してあります。
- 1.      番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。
- ◆      ◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。
- >      次に表示されるオプション(メニューやダイアログボックスなど)を選択することを示します。矢印は操作の手順を示します。例えば「スタート」>「実行」は「スタート」メニューを開き、「実行」を選択することを意味します。



重要な情報を示しています。

# 第1章

## はじめに

### 概要

---

RCM KVM over IPは、生産ラインのシステム専用設計された1ローカル/リモート アクセス共有 1ポートKVM over IPです。この製品は、生産ラインにあるPCまたはワークステーションのビデオ、オーディオ、マウス&キーボード、およびバーチャルメディアに対するアクセスをリモートコンソールから実現します。

RCMDVGA101、RCMDVI101、RCMDP101U、RCMHD101Uは、それぞれ1系統のVGA、DVI、4K DisplayPort、4K HDMI映像信号の伝送に対応しており、最適な画質のFPGAグラフィックスプロセッサを搭載しています。

RCM KVMスイッチは、ATEN専用のRCM APIと統合されており、OCRなどの多数の機能をユーザーに提供し、カスタマイズ可能なシステム統合と自動化を可能にします。

RS-232C DTE/DCE規格では、CPU COMおよびローカルコンソールCOMポートを使用したシリアル制御も提供します。

ユーザーフレンドリーな操作のために、フロントパネルのUSB Mini-BポートはラップトップUSBコンソール(LUC)ポートとして設計されています。ノートパソコンをLUCポートに接続するだけで、ユーザーは製品に接続されている任意のコンピューターにアクセスして、簡単にオンサイト管理を行うことができます。つまり、定期的なローカルメンテナンスに、追加のモニター、キーボード、およびマウスが必要ないということを意味します。さらに、RCM KVMスイッチのバーチャルメディア機能により、ユーザーはリモートコンソールから、診断テストの実行、ファイル転送、またはOS/アプリケーションの更新とパッチの適用といった作業を行うことができます。

シームレスな接続性を確保するために、RCM KVM over IPは、デュアルLANとデュアル電源機能を備えた設計になっており、生産ラインでの操作を円滑かつ効率的に保つことができます。本製品は、ローカルコンソールとリモートコンソール

ルの両方でマイクとスピーカーを使用することができます。

リモート管理を容易にするために、RCM KVM over IPは、Webクライアントビューワー機能でWebフレンドリーなKVM over IPアクセスをサポートしています。この機能は、主要なWebブラウザと互換性があり、Javaやブラウザのプラグインのインストールなしでブラウザから直接実行されます。JavaやWindowsのプラグインと同様に、ユーザーはデバイスに接続されたサーバー/PCにリモートでアクセスできますが、管理と操作を行うにあたり、より直接的でシンプルなアクセスオプションのメリットがあります。

さらに、RCM KVM over IPは、互換性のあるover IP機能非対応のATEN KVMスイッチやLCDコンソールを統合して、CS1768やCL3800などに対してover IP機能を提供するのにも使用できます。



## 特長とメリット

---

### ハードウェア

- ◆ コンパクトでスリムなデザインにより、使用スペースを最適化
- ◆ 画質向上のためのFPGAグラフィックプロセッサを搭載し、鮮明なビデオ表示のためのfpsスループットを強化
- ◆ over IP機能非対応のKVMスイッチ/LCDコンソールに、over IP機能を付加
- ◆ ローカルコンソールにはUSBキーボード/マウスの接続が可能
- ◆ フロントパネルのUSB Mini-Bポートは、ラップトップのUSBコンソール(LUC)ポートとして機能
- ◆ 冗長LANまたはデュアルIP操作用に10/100/1000Mbps NICを2枚搭載
- ◆ 電源バックアップ用のデュアル電源に対応
- ◆ マルチプラットフォーム対応 - Windows、Mac、Linux、Oracle社SPARC(Sun)、VT100ベースのシリアルデバイス
- ◆ バーチャルメディア対応
- ◆ 解像度 - 最大1920 × 1200@60Hzおよび4096 × 2160@30Hz(それぞれ、RCMVGA101/RCMDVI101/RCMDP101U/RCMHD101Uのローカルおよびリモートの各コンソール)
- ◆ オーディオ対応 - ローカル/リモートの両コンソールでマイクとスピーカーをサポート

---

### 注意:

1. 互換性のあるKVMスイッチの型番一覧については、製品のWebページにおける「互換製品一覧」セクションを参照してください。
2. Windows以外のOS専用に設計された機能を持つキーボード/マウスは多数あるため、本製品と互換性がなかったり、互換性に問題が生じたりする可能性があります。
3. カスケード接続されたKVMスイッチの機能によっては、RCM KVM

over IPの一部の機能がサポートされない場合があります。(例えば、バーチャルメディア非対応のKVMスイッチをカスケード接続した場合は、製品本体のバーチャルメディア機能はご利用いただけません。)

4. RCM DP101UのDisplayPortは、オーディオをサポートしていません。オーディオ信号は、3.5mmのオーディオポート経由でのみ送信することができます。
- 

## 管理

- ◆ シリアル制御用のRS-232C DTE/DCE規格に準拠
- ◆ ユーザーアカウントは最大64名作成可能 - 最大32ユーザーによる制御の同時共有に対応
- ◆ コンソールアクセス権限の管理機能
- ◆ セッション終了機能 - アドミニストレーターは実行中のセッションを終了可能
- ◆ イベントログおよびWindowsベースのログサーバー対応
- ◆ イベントログ - デバイスはすべてのイベントを記録し、検索可能なデータベースに書き込み可能
- ◆ 緊急度の高いシステムイベントはメールまたはSNMP trap、およびSyslogを介して管理者へと即時通知
- ◆ リモートからのファームウェアアップグレードが可能
- ◆ 内蔵シリアルビューワー、またはTelnetおよびSSHセッション用のサードパーティー製ソフトウェア(PuTTYなど)経由でアクセス可能
- ◆ アウトオブバンド機能 - ダイアルアップ接続を使用してシリアルポート経由でアクセス可能
- ◆ ポート共有モードにより複数ユーザーからのサーバーへの同時アクセスが可能
- ◆ ローカル/リモートの共有モードで、共有または排他でコンソールを操作する権限を簡単に設定可能
- ◆ ATEN KVM over IPコンソールステーション対応(製品Web ページにおけ

る「互換製品一覧」を参照)

- ◆ DDNS - DHCPサーバーの動的IPアドレスをホスト名に割り当てることで、動的IPアドレスをマッピング
- ◆ ユーザーアカウントおよび環境設定のインポート/エクスポートが可能
- ◆ ブラウザーのアクセス権限 - ブラウザー/http/httpsによるアクセスを許可/禁止できる追加のセキュリティー機能
- ◆ IPv6対応

## **使いやすいインターフェース**

- ◆ 統一された多言語インターフェースを提供するブラウザーベースのGUIにより、ユーザートレーニング時間を最小限に抑え、生産性を向上
- ◆ クライアント側はマルチプラットフォーム対応 - Windows、Mac OS X、Linux、Oracle社SPARC(Sun)
- ◆ 各種ブラウザーに対応 - IE、Firefox、Safari、Opera、Chrome
- ◆ Webテクノロジーだけを使ったブラウザーベースのUIにより、アドミニストレーターは事前にインストールされたJavaソフトウェアを必要とせずに管理タスクを実行可能
- ◆ バーチャルリモートデスクトップ画面はフルスクリーン表示、またはリサイズ可能なウィンドウ表示が選択可能
- ◆ クイック起動機能付きマジックパネル

## **高度なセキュリティー**

- ◆ スマートカード/CACリーダー対応
- ◆ 外部認証対応 - RADIUS、LDAP、LDAPS、MS Active Directory
- ◆ ブラウザーからのユーザーログインは、TLS 1.2暗号化通信およびRSA 2048ビット証明書でセキュリティーを確保
- ◆ キーボード/マウス、ビデオ、バーチャルメディアの各信号を個別に暗号化可能(56ビットDES、168ビット3DES、256ビットAES、128ビットRC4、ランダムより選択)
- ◆ IPアドレスやMACアドレスによるフィルタリング機能

- ◆ パスワード保護対応
- ◆ プライベートCA認証対応

## バーチャルメディア

- ◆ バーチャルメディア対応 – ファイルアプリケーション、OSのパッチ適用、ソフトウェアのインストール、および診断テストの作業が効率的に
- ◆ USBインターフェース対応サーバーでは、OSとBIOSの両方のレベルでバーチャルメディア機能が利用可能
- ◆ USB1.1およびUSB2.0のDVD/CDドライブ、USBマストレージデバイス、PCハードディスクドライブ、フォルダー、ISOイメージのマウントが可能

## バーチャルリモートデスクトップ

- ◆ Windowsクライアント – 製品に接続されたサーバーやPCのリアルタイム操作をWindowsコンピューターから実現するリモートデスクトップアプリケーション
- ◆ Javaクライアント – 製品に接続されたサーバーやPCのリアルタイム操作をWindows以外のコンピューターから実現するリモートデスクトップアプリケーション
- ◆ Webクライアント – 製品に接続されたサーバー/PCを任意のPCからリアルタイムで操作できるブラウザーベースのリモートデスクトップアプリケーション (HTML5使用)

---

### **注意:**

1. WebクライアントのHTML5機能を完全にサポートするには、IE、Firefox、Chrome、Opera、Edge、またはSafariの使用を推奨します。
2. WebクライアントにおけるHTML5機能のパフォーマンスを最適化するには、ブラウザーとRCMDP101U/RCMDVI101/RCMVGA101/RCMHD101Uのファームウェアが最新バージョンであることを確認してください。

- 
- ◆ 帯域制御機能 – ビデオ画質は帯域幅の変化に応じて自動調整。モノクロ色深度設定、データ圧縮率の閾値/ノイズ設定は環境に合わせて変更が可能

- ◆ フルスクリーン表示、またはリサイズ可能なウィンドウ表示が選択可能
- ◆ リモートユーザー間のコミュニケーションに活用できるメッセージボード搭載
- ◆ 多言語対応のオンスクリーンキーボード搭載
- ◆ マウスダイナシンク機能 – ローカル/リモートのマウスは自動的に同期
- ◆ 終了マクロ対応
- ◆ 接続機器にはBIOSレベルでのアクセスが可能

## サポートされるビデオ解像度

| 解像度                  | RCMVGA101 / RCMDVI101 | RCMDP101U / RCMHD101U |
|----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 4096 × 2160@30Hz     |                       | ●                     |
| 3840 × 2160@30Hz     |                       | ●                     |
| 2560 × 2048@30Hz     |                       | ●                     |
| 2560 × 1600@30Hz     |                       | ●                     |
| 2560 × 1440@30Hz     |                       | ●                     |
| 1920 × 1200@60Hz     | ●                     | ●                     |
| 1920 × 1080@60Hz     | ●                     | ●                     |
| 1680 × 1050@60Hz     | ●                     | ●                     |
| 1600 × 1200@60Hz     | ●                     | ●                     |
| 1600 × 900@60Hz      | ●                     | ●                     |
| 1440 × 900@60Hz      | ●                     | ●                     |
| 1400 × 1050@60Hz     | ●                     | ●                     |
| 1360 × 768@60Hz      | ●                     |                       |
| 1280 × 1024@60Hz     | ●                     | ●                     |
| 1280 × 1024@75Hz     | ●                     |                       |
| 1280 × 960@60Hz      | ●                     | ●                     |
| 1280 × 720@60Hz      | ●                     | ●                     |
| 1152 × 864@75Hz      | ●                     |                       |
| 1024 × 768@60/70Hz   | ●                     | ●                     |
| 1024 × 768@75/85Hz   | ●                     |                       |
| 800 × 600@56/60Hz    | ●                     | ●                     |
| 800 × 600@72/75/85Hz | ●                     |                       |
| 720 × 400@70Hz       | ●                     | ●                     |
| 640 × 480@60Hz       | ●                     | ●                     |
| 640 × 480@72/75/85Hz | ●                     |                       |

### 注意:

上記の表には、デフォルトでサポートされているデバイスのビデオ解像度が列挙されています。その他の解像度のサポートについては、販売店にお問い合わせください。

## システム要件

---

### リモートユーザー側で使用するコンピューター

リモートユーザー側で使用するコンピューター（クライアントコンピューター）とは、ユーザーがインターネット経由で離れた場所からスイッチにログインする際に使用するコンピューターのことを指します。これらのコンピューターには下記のハードウェア環境が必要です。

- ◆ 本製品へのアクセスに使用するコンピューターには、Pentium III 1GHz以上のプロセッサが搭載されたものをお使いください。また、画面解像度は1024×768以上に設定してください。PCにPentiumIV 2GHzが搭載されている場合であれば1Gb以上のRAMを搭載されていることを推奨します。
- ◆ ブラウザーはTLS1.2暗号化通信に対応したものをお使いください。
- ◆ ネットワーク転送速度は128kbps以上が必要です。
- ◆ ログサーバーを使用する場合は、Microsoft Jet OLEDB 4.0以降のドライバーをインストールしてください。

### サーバー

サーバーとはKVMケーブルを使用して製品本体に接続されているコンピューターのことを指します。これらのサーバーには下記のハードウェア環境が必要です。

- ◆ USB KVMケーブル接続の場合：USB Type-AポートとUSBホストコントローラー
- ◆ バーチャルメディア接続の場合：追加のUSB Type-AおよびUSBホストコントローラー

## ケーブル

- ◆ RCM KVM over IPをサーバーまたはKVMスイッチに接続するためのKVMケーブルは、このパッケージに付属しています。
- ◆ RCM KVM over IP用のKVMケーブルは、次の表に示すように、各種ケーブル長でラインナップしています：

| 型番        | ケーブル種類                      | 長さ    | ケーブル型番    |
|-----------|-----------------------------|-------|-----------|
| RCMVGA101 | PS/2-USB VGA KVM<br>ケーブル    | 1.2 m | 2L-5301UP |
|           |                             | 1.8 m | 2L-5302UP |
|           |                             | 3.0 m | 2L-5303UP |
| RCMDVI101 | USB DVI-D<br>シングルリンクKVMケーブル | 1.8 m | 2L-7D02U  |
|           |                             | 3.0 m | 2L-7D03U  |
|           |                             | 5.0 m | 2L-7D05U  |
| RCMDP101U | DisplayPortケーブル             | 1.8 m | 2L-7D02DP |
|           |                             | 3.0 m | 2L-7D03DP |
| RCMHD101U | HDMIケーブル                    | 1.8m  | 2L-7D02UH |

- ◆ KVMケーブルを追加でお求めの際には、販売店までお問い合わせください。
- ◆ RCM KVM over IPをLAN、WAN、またはインターネットに接続するには、Cat5e/6以上のEthernetケーブル(このパッケージには付属していません)を使用する必要があります。



## オペレーティングシステム

- ◆ RCM KVM over IPにログインするリモートユーザーのコンピュータでサポートされるOSは、Windows 2000以降、およびJava Runtime Environment (JRE) 6、Update 3以降 (Linux、Mac、Sunなど) を実行できるその他のシステムが含まれます。
- ◆ RCM KVM over IPに接続するサーバーでサポートされるOSを以下の表に示します：

| OS      |         | バージョン                          |
|---------|---------|--------------------------------|
| Windows |         | 2000以上                         |
| Linux   | RedHat  | 9.0、Fedora以降<br>RHEL AS4、RHEL5 |
|         | SUSE    | 10 / 11.1以降                    |
|         | Debian  | 3.1 / 4.0以降                    |
|         | Ubuntu  | 7.04 / 7.10以降                  |
| UNIX    | IBM AIX | 5L / V6以降                      |
|         | FreeBSD | 5.5 / 6.1 / 6.2以降              |
| Sun     | Solaris | 8 / 9 / 10以降                   |
| Mac     |         | OS10.1以降                       |

### 注意：

LinuxシステムでUSB2.0をサポートするには、Linuxカーネルが2.6以降である必要があります。

## **ブラウザ**

RCM KVM over IPにログインするユーザーは、次の対応ブラウザをお使いください:

| ブラウザ              | バージョン    |
|-------------------|----------|
| Internet Explorer | 8以降      |
| Chrome            | 4.0.3 以降 |
| Firefox           | 3.5.3 以降 |
| Safari            | 4.0.3 以降 |
| Opera             | 10.10以降  |

---

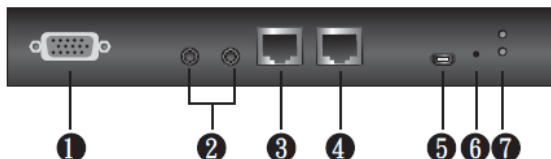
### **注意:**

Safariの詳細については、p.194「Macシステム」を参照してください。

---

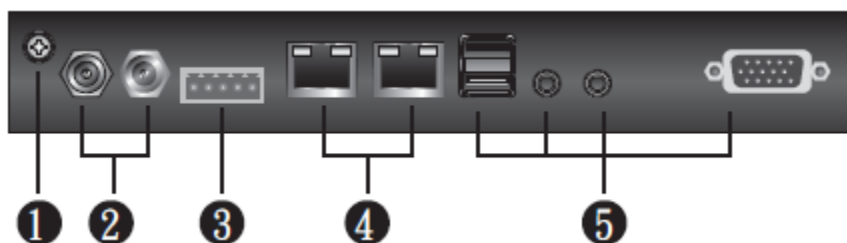
# 製品各部名称

## RCMVGA101 フロントパネル



| 番号 | 名称                                  | 説明                                                                                                                                                                                                                              |
|----|-------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | PC/KVM SPHD<br>ポート                  | <p>付属のKVMケーブルを使用して、PC/ワークステーションと本機をこのポート経由で接続します。</p> <p><b>注意:</b><br/>キーボードとマウスの信号伝送は、PS/2またはUSB接続を選択できます。</p>                                                                                                                |
| 2  | KVMオーディオポート                         | PC/サーバーの音声をこのポートに接続し、オーディオ信号を伝送します。                                                                                                                                                                                             |
| 3  | CPU COM<br>(RS-232C DTE)<br>ポート     | シリアルデータ通信機器(PCなど)をこのポートに接続します。詳細はp.31を参照してください。                                                                                                                                                                                 |
| 4  | ローカルコンソール<br>COM(RS-232C<br>DCE)ポート | シリアルデータ端末装置(タッチパネルなど)をこのポートに接続します。詳細はp.31を参照してください。                                                                                                                                                                             |
| 5  | ラップトップUSB<br>コンソール(LUC)<br>ポート      | <p>ノートパソコンのローカルアクセス (p.153「ローカルアクセス」参照)を行うには、付属のUSB Type-A→USB Mini-Bケーブルを使用してノートパソコンをこのポートに接続します。</p> <p>USB IO設定 (p.97「USB IO設定」参照) のモードがLUCに設定されていることを確認してください。</p> <p>なお、USB IO設定のモードがバーチャルメディアに設定されている場合、このポートは機能しません。</p> |
| 6  | リセットボタン                             | <ol style="list-style-type: none"> <li>リセットボタンを3秒以上押すと、本機を出荷時のデフォルト設定に戻します。</li> <li>リセットボタンを押したまま製品本体に電源を入れると、ファームウェアが工場出荷時のバージョンに戻ります。この操作はファームウェアアップグレードに失敗し、デバイスが操作不能になった場合にのみ実行してください。</li> </ol>                          |
| 7  | 電源LED                               | ユニットに電源が投入されると、緑色に点灯します。                                                                                                                                                                                                        |

## RCMVGA101 リアパネル



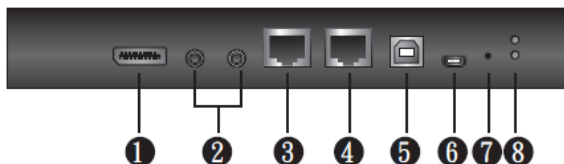
| 番号 | 名称           | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|----|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | グラウンドターミナル   | 適切な接地物に接続してください。                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 2  | 電源ジャック       | <p>付属の電源アダプターをAC電源に接続し、電源アダプターのケーブル部分を電源ジャックの1つに差し込みます。</p> <p>同様に、2つ目の電源アダプターを別のAC電源に差し込み、次に電源ケーブルの部分をユニットのもう1つの電源ジャックに差し込みます。</p> <p><b>注意:</b></p> <p>デュアル電源操作はオプションです。2つ目の電源はバックアップ用です。2つ目の電源アダプターは別途購入する必要があります。</p>                                               |
| 3  | 制御ターミナル      | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ リモートから再起動を行うには、NCターミナルとCターミナルをPC/サーバーに接続します。</li> <li>◆ デジタル入力通知を行うには、GNDターミナルとDIターミナルを入力デバイス(温度計、湿度センサーなど)に接続します。</li> </ul> <p><b>注意:</b></p> <p>入力デバイスの監視パラメーター(温度、湿度など)が設定されたしきい値を超えると、ユニットに1が送信されます。それ以外の場合は0が送信されます。</p> |
| 4  | LANポート       | Cat5e/6ネットワークケーブルを、アップリンク接続用としてこれらのポートに接続します。                                                                                                                                                                                                                           |
| 5  | ローカルコンソールポート | ローカルコンソール(USBキーボード、VGAモニター、USBマウス、マイク、スピーカー)のケーブルをこれらのポートに接続します。各コネクタは色分けされており、アイコンでマークされています。                                                                                                                                                                          |

RCMVGA101 / RCMDP101U / RCMHD101U サイドパネル



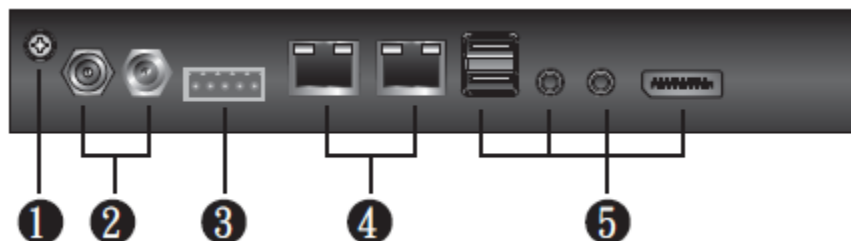
| 番号 | 名称    | 説明                                              |
|----|-------|-------------------------------------------------|
| 1  | 制御ポート | このポートは、別途購入できるオプションのIP-KVMアクセスコントロールボックスに接続します。 |

## RCMDP101U フロントパネル



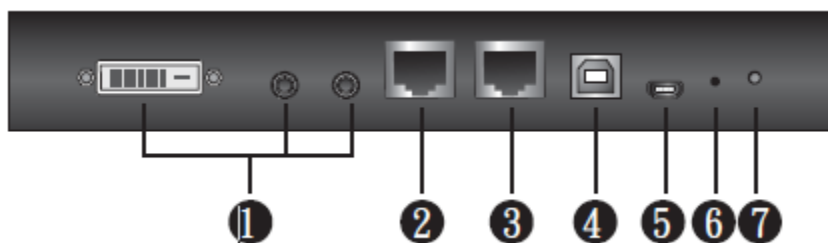
| 番号 | 名称                                    | 説明                                                                                                                                                                                                                           |
|----|---------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | PC/KVM<br>DisplayPortポート              | <p>付属のDisplayPortケーブルを使用して、PC/ワークステーションと本機をこのポート経由で接続します。</p> <p><b>注意:</b></p> <p>オーディオはRCMDP101UのDisplayPortではサポートされておらず、3.5mmオーディオポート経由でのみ転送できます。</p>                                                                     |
| 2  | KVMオーディオ<br>ポート                       | PC/サーバーの音声をこれらのポートに接続し、オーディオ信号を伝送します。                                                                                                                                                                                        |
| 3  | CPU COM (RS-232C<br>DTE) ポート          | シリアルデータ通信機器(PCなど)をこのポートに接続します。詳細はp.31を参照してください。                                                                                                                                                                              |
| 4  | ローカルコンソール<br>COM (RS-232C<br>DCE) ポート | シリアルデータ端末装置(タッチパネルなど)をこのポートに接続します。詳細はp.31を参照してください。                                                                                                                                                                          |
| 5  | KVM USB<br>Type-Bポート                  | 付属のUSBケーブル(USB Type-A→USB Type-B)を使用して、キーボードやマウスの信号伝送用にPC/サーバーをこのポートに接続します。                                                                                                                                                  |
| 6  | ラップトップUSB<br>コンソール(LUC)<br>ポート        | <p>ノートパソコンのローカルアクセス(p.153「ローカルアクセス」参照)を行うには、付属のUSB Type-A→USB Mini-Bケーブルを使用してノートパソコンをこのポートに接続します。</p> <p>USB IO設定(p.97「USB IO設定」参照)のモードがLUCに設定されていることを確認してください。</p> <p>なお、USB IO設定のモードがバーチャルメディアに設定されている場合、このポートは機能しません。</p> |
| 7  | リセットボタン                               | <ol style="list-style-type: none"> <li>リセットボタンを3秒以上押すと、本機を出荷時のデフォルト設定に戻します。</li> <li>リセットボタンを押したまま製品本体に電源を入れると、ファームウェアが工場出荷時のバージョンに戻ります。この操作はファームウェアアップグレードに失敗し、デバイスが操作不能になった場合にのみ実行してください。</li> </ol>                       |
| 8  | 電源LED                                 | ユニットの電源がONになると、緑色に点灯します。                                                                                                                                                                                                     |

## RCMDP101U リアパネル



| 番号 | 名称           | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|----|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | グラウンドターミナル   | 適切な接地物に接続してください。                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 2  | 電源ジャック       | <p>製品パッケージに同梱されている電源アダプターをAC電源に接続し、このアダプターのケーブル部分を任意の電源ジャックに接続します。</p> <p>同様に、2つ目の電源アダプターを別のAC電源に差し込み、次に電源ケーブルの部分をユニットのもう1つの電源ジャックに差し込みます。</p> <p><b>注意:</b></p> <p>デュアル電源操作はオプションです。2つ目の電源はバックアップ用です。2つ目の電源アダプターは別途購入する必要があります。</p>                                    |
| 3  | 制御ターミナル      | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ リモートから再起動を行うには、NCターミナルとCターミナルをPC/サーバーに接続します。</li> <li>◆ デジタル入力通知を行うには、GNDターミナルとDIターミナルを入力デバイス(温度計、湿度センサーなど)に接続します。</li> </ul> <p><b>注意:</b></p> <p>入力デバイスの監視パラメーター(温度、湿度など)が設定されたしきい値を超えると、ユニットに1が送信されます。それ以外の場合は0が送信されます。</p> |
| 4  | LANポート       | Cat5e/6ネットワークケーブルを、アップリンク接続用としてこれらのポートに接続します。                                                                                                                                                                                                                           |
| 5  | ローカルコンソールポート | ローカルコンソール(USBキーボード、DisplayPortモニター、USBマウス、マイク、スピーカー)のケーブルをこれらのポートに接続します。各コネクタは色分けされており、アイコンでマークされています。                                                                                                                                                                  |

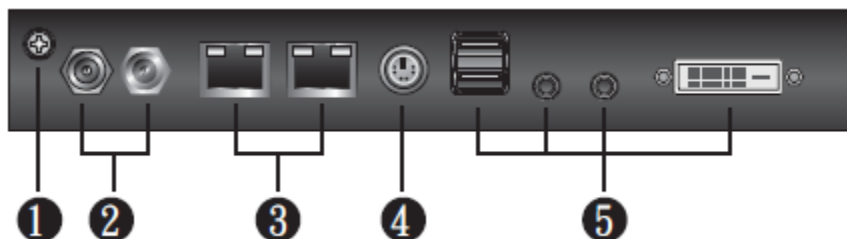
## RCMDVI101 フロントパネル



| 番号 | 名称                           | 説明                                                                                                                                                                                                                           |
|----|------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | PC/KVMポート                    | 付属のKVMケーブルを使用して、このポートを介して制御するPC/ワークステーションを接続します。                                                                                                                                                                             |
| 2  | CPU COM(RS-232C DTE)ポート      | シリアルデータ通信機器(PCなど)をこのポートに接続します。p.31「DCEおよびDTEポート」を参照してください。                                                                                                                                                                   |
| 3  | ローカルコンソールCOM(RS-232C DCE)ポート | シリアルデータ端末装置(タッチパネルなど)をこのポートに接続します。p.31「DCEおよびDTEポート」を参照してください。                                                                                                                                                               |
| 4  | USB Type-Bポート                | 付属のUSB Type-A→USB Type-Bケーブルを使用して、インストールするPC/ワークステーションにキーボード/マウスを接続します。                                                                                                                                                      |
| 5  | ラップトップUSBコンソール(LUC)ポート       | <p>ノートパソコンのローカルアクセス(p.153「ローカルアクセス」参照)を行うには、付属のUSB Type-A→USB Mini-Bケーブルを使用してノートパソコンをこのポートに接続します。</p> <p>USB IO設定(p.97「USB IO設定」参照)のモードがLUCに設定されていることを確認してください。</p> <p>なお、USB IO設定のモードがバーチャルメディアに設定されている場合、このポートは機能しません。</p> |
| 6  | リセットボタン                      | <ol style="list-style-type: none"> <li>リセットボタンを3秒以上押すと、本機を出荷時のデフォルト設定に戻します。</li> <li>リセットボタンを押したまま製品本体に電源を入れると、ファームウェアが工場出荷時のバージョンに戻ります。この操作はファームウェアアップグレードに失敗し、デバイスが操作不能になった場合にのみ実行してください。</li> </ol>                       |
| 7  | 電源LED                        | ユニットの電源がONになると、緑色に点灯します。                                                                                                                                                                                                     |

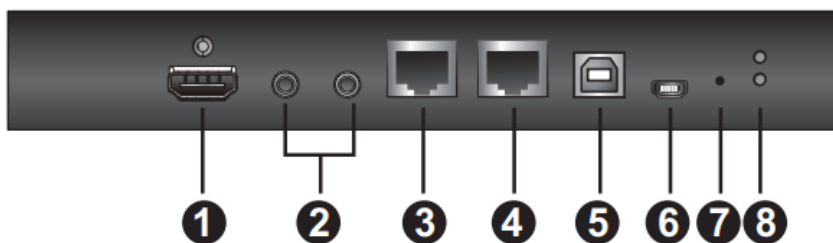


## RCMDVI101 リアパネル



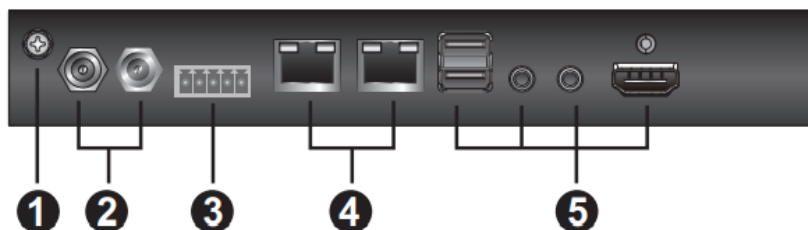
| 番号 | 名称           | 説明                                                                                                                                                                                                                                   |
|----|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | グランドターミナル    | 適切な接地物に接続してください。                                                                                                                                                                                                                     |
| 2  | 電源ジャック       | <p>製品パッケージに同梱されている電源アダプターをAC電源に接続し、このアダプターのケーブル部分を任意の電源ジャックに接続します。</p> <p>同様に、2つ目の電源アダプターを別のAC電源に差し込み、次に電源ケーブルの部分をユニットのもう1つの電源ジャックに差し込みます。</p> <p><b>注意:</b></p> <p>デュアル電源操作はオプションです。2つ目の電源はバックアップ用です。2つ目の電源アダプターは別途購入する必要があります。</p> |
| 3  | LANポート       | Cat5e/6ネットワークケーブルを、アップリンク接続用としてこれらのポートに接続します。                                                                                                                                                                                        |
| 4  | 制御ポート        | このポートは、別途購入できるオプションのIP-KVMアクセスコントロールボックスに接続します。                                                                                                                                                                                      |
| 5  | ローカルコンソールポート | ローカルコンソール (USBキーボード、DVIモニター、USBマウス、マイク、スピーカー) のケーブルをこれらのポートに接続します。各コネクタは色分けされており、アイコンでマークされています。                                                                                                                                     |

## RCMHD101U フロントパネル



| 番号 | 名称                                   | 説明                                                                                                                                                                                                                           |
|----|--------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | PC/KVM<br>HDMIポート                    | 付属のHDMIケーブルを使用して、PC/ワークステーションと本機をこのポート経由で接続します。                                                                                                                                                                              |
| 2  | KVMオーディオ<br>ポート                      | PC/サーバーの音声をこれらのポートに接続し、オーディオ信号を伝送します。                                                                                                                                                                                        |
| 3  | CPU COM (RS-232C<br>DTE)ポート          | シリアルデータ通信機器(PCなど)をこのポートに接続します。詳細はp.31を参照してください。                                                                                                                                                                              |
| 4  | ローカルコンソール<br>COM (RS-232C<br>DCE)ポート | シリアルデータ端末装置(タッチパネルなど)をこのポートに接続します。詳細はp.31を参照してください。                                                                                                                                                                          |
| 5  | KVM USB<br>Type-Bポート                 | 付属のUSBケーブル(USB Type-A→USB Type-B)を使用して、キーボードやマウスの信号伝送用にPC/サーバーをこのポートに接続します。                                                                                                                                                  |
| 6  | ラップトップUSB<br>コンソール(LUC)<br>ポート       | <p>ノートパソコンのローカルアクセス(p.153「ローカルアクセス」参照)を行うには、付属のUSB Type-A→USB Mini-Bケーブルを使用してノートパソコンをこのポートに接続します。</p> <p>USB IO設定(p.97「USB IO設定」参照)のモードがLUCに設定されていることを確認してください。</p> <p>なお、USB IO設定のモードがバーチャルメディアに設定されている場合、このポートは機能しません。</p> |
| 7  | リセットボタン                              | <ol style="list-style-type: none"> <li>リセットボタンを3秒以上押すと、本機を出荷時のデフォルト設定に戻します。</li> <li>リセットボタンを押したまま製品本体に電源を入れると、ファームウェアが工場出荷時のバージョンに戻ります。この操作はファームウェアアップグレードに失敗し、デバイスが操作不能になった場合にのみ実行してください。</li> </ol>                       |
| 8  | 電源LED                                | ユニットの電源がONになると、緑色に点灯します。                                                                                                                                                                                                     |

## RCMHD101U リアパネル



| 番号 | 名称           | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|----|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | グランドターミナル    | 適切な接地物に接続してください。                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 2  | 電源ジャック       | <p>製品パッケージに同梱されている電源アダプターをAC電源に接続し、このアダプターのケーブル部分を任意の電源ジャックに接続します。</p> <p>同様に、2つ目の電源アダプターを別のAC電源に差し込み、次に電源ケーブルの部分をユニットのもう1つの電源ジャックに差し込みます。</p> <p><b>注意:</b></p> <p>デュアル電源操作はオプションです。2つ目の電源はバックアップ用です。2つ目の電源アダプターは別途購入する必要があります。</p>                                    |
| 3  | 制御ターミナル      | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ リモートから再起動を行うには、NCターミナルとCターミナルをPC/サーバーに接続します。</li> <li>◆ デジタル入力通知を行うには、GNDターミナルとDIターミナルを入力デバイス(温度計、湿度センサーなど)に接続します。</li> </ul> <p><b>注意:</b></p> <p>入力デバイスの監視パラメーター(温度、湿度など)が設定されたしきい値を超えると、ユニットに1が送信されます。それ以外の場合は0が送信されます。</p> |
| 4  | LANポート       | Cat5e/6ネットワークケーブルを、アップリンク接続用としてこれらのポートに接続します。                                                                                                                                                                                                                           |
| 5  | ローカルコンソールポート | ローカルコンソール(USBキーボード、HDMIモニター、USBマウス、マイク、スピーカー)のケーブルをこれらのポートに接続します。各コネクタは色分けされており、アイコンでマークされています。                                                                                                                                                                         |

# ハードウェアのセットアップ



1. 機器の設置に際し重要な情報をp.169に記載しています。作業の前に、必ず目を通してください。
2. 今から接続するデバイスすべての電源がOFFになっていることを確認してください。コンピューターにキーボード起動機能がついている場合は、ここからも電源ケーブルを抜いてください。
3. マニュアル内の指示に従わずにセットアップを行うと、危険な状況に陥ったり、デバイスが損傷したりする可能性があります。
4. 本製品用の電源は同梱の電源アダプターによって供給されるように設計されています。DC配電ではありません。
5. 環境温度が高い場合は、注意してデバイスを操作してください。このような条件下では、デバイスの表面が過熱する可能性があります。例えば、環境温度が50°Cに近づくと、装置の表面温度が70°C以上になる場合があります。

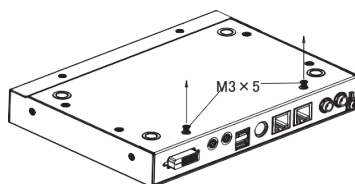
## マウント

---

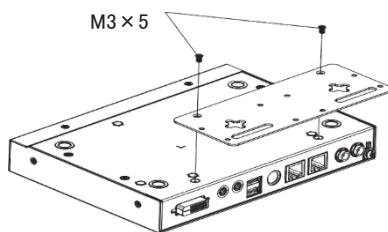
RCM KVM over IPは、大半の標準19インチラックに1Uサイズで取り付けたり、壁に取り付けたりすることができます。以下の図は、RCMDVI101を使用し例示されています。

### ブラケットの取り付け

1. 図のように、本体底面のネジを外してください：

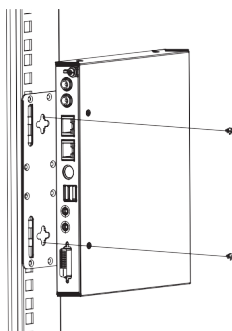


2. 前の手順で取り外したネジを使用してブラケットを固定してください。



## ラックへのマウント

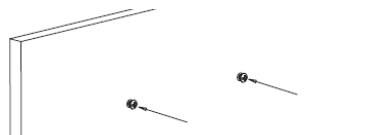
1. 取り付けブラケットのネジ穴をラックの穴に合わせてください。
2. ラックにマウント用ブラケットをネジ止めしてください。



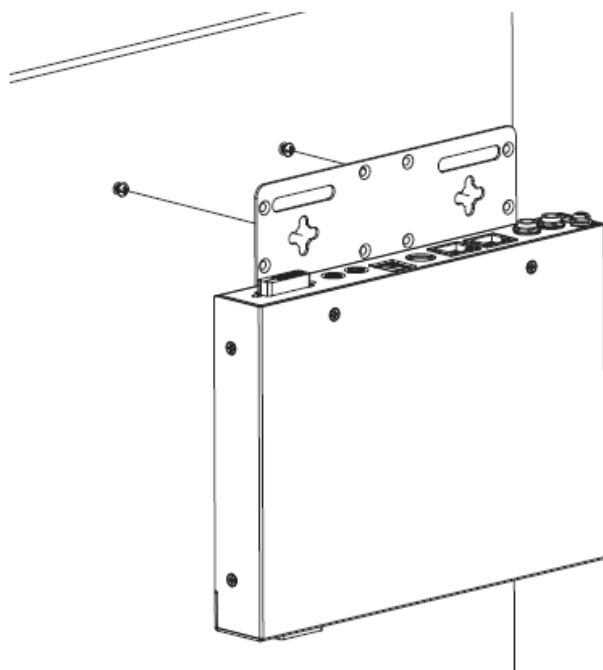
## 壁への取り付け

RCM KVM over IPは壁に引っ掛けることができます。

1. お使いのユニットを取り付ける壁に、マウントブラケットのハンガーキーホール用の吊りフックとして2本のネジを取り付けてください(取り付けの前に、壁にネジの位置に印を付ける必要がある場合があります)。次に示すように、ネジヘッドと鍵穴用の壁の間に十分なスペースを空けてください。



2. ユニートを、ブラケットのハンガー用鍵穴に合った吊りフックに掛けてください。



## セットアップ

---

以下の手順に従って、p.27以降の図(図内の番号は手順に対応)を参照しながら、取り付け作業を行ってください。

1. 本体のグラウンドターミナルを適切な接地物に接続してください。
2. キーボード、マウス、モニター、スピーカー、マイクをリアパネルのローカルコンソールポートに差し込んでください。
3. 付属のKVMケーブルを使用して、ユニットのPC/KVMポートとオーディオポートを、セットアップ対象となるサーバーまたはKVMスイッチのキーボード、ビデオ、マウス、スピーカー、マイクポートに接続してください。
4. (オプション)ラップトップUSBコンソール(LUC)機能を使用してローカルでアクセスする場合は、付属のUSB Type-A→USB Mini-Bケーブルを使用して、ノートパソコンのUSBポートをこの(LUC)ポートに接続してください。  
USB IO設定のモードがLUCになっていることを確認してください。p.97を参照してください。
5. (オプション)タッチパネルなどのシリアルデバイス(データ端末装置)を使用している場合は、ネットワークスイッチコンソールケーブルでローカルコンソールのCOM(RS-232C DCE)ポートに接続してください。
6. (オプション)PCなどのシリアルデバイス(データ通信機器)を使用する場合は、シリアルRS-232C DB-9→RJ-45 Cat5 Ethernetアダプターネットワークモデム/スイッチ/ルーターケーブルでCPU COM(RS-232C DTE)ポートに接続します。
7. ネットワークケーブルを製品本体のLANポートの1つに接続してください。
8. (オプション)デュアルLANで使用する場合は、2本目のネットワークケーブルをもう一方のLANポートに接続してください。
9. (オプション)RCMGA101/RCMDP101U/RCMHD101Uの場合、リモートから再起動を行うには、NCターミナルとCターミナルをサーバーまたはPCに接続してください。
10. (オプション)RCMVGA101/RCMDP101U/RCMHD101Uの場合、デジタル入力通知を行うには、GNDおよびDIターミナルを入力デバイス(温度計、湿度センサ

ーなど)に接続してください。

11. 付属の電源アダプターをAC電源に接続し、電源アダプターのケーブル部分をユニットの電源ジャックの1つに差し込んでください。これで、RCM KVM over IPの電源がONになります。
12. (オプション)デュアル電源操作を行うには、2つ目の電源アダプターを別のAC電源に差し込み、電源ケーブルをもう一方の電源ジャックに差し込んでください。

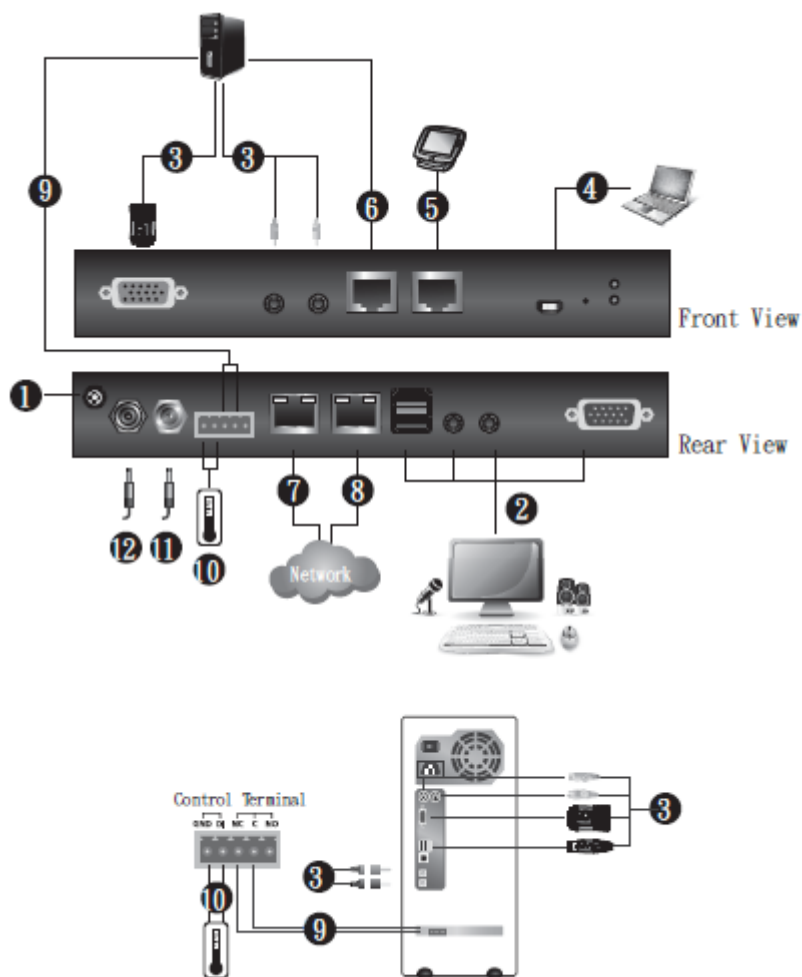
---

**注意:**

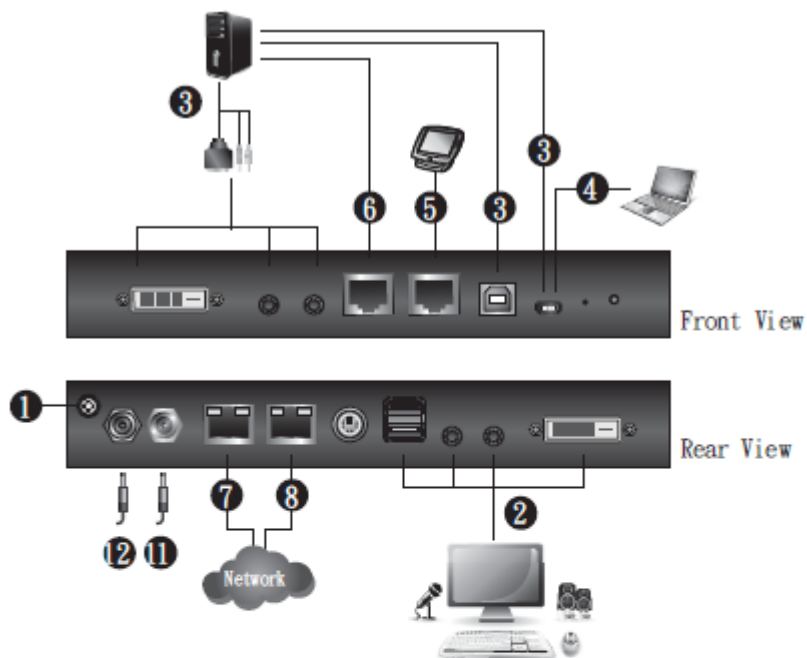
1. 2番目の電源接続は、電源バックアップとして機能します。2個目の電源アダプターは、ATENの販売代理店よりお求めください。
  2. 入力デバイスの監視パラメーター(温度、湿度など)が設定されたしきい値を超えると、ユニットに1が送信されます。それ以外の場合は0が送信されます。
-



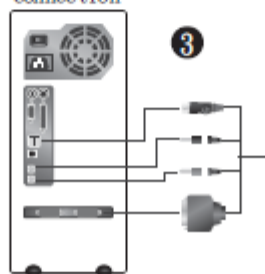
# RCMVGA101



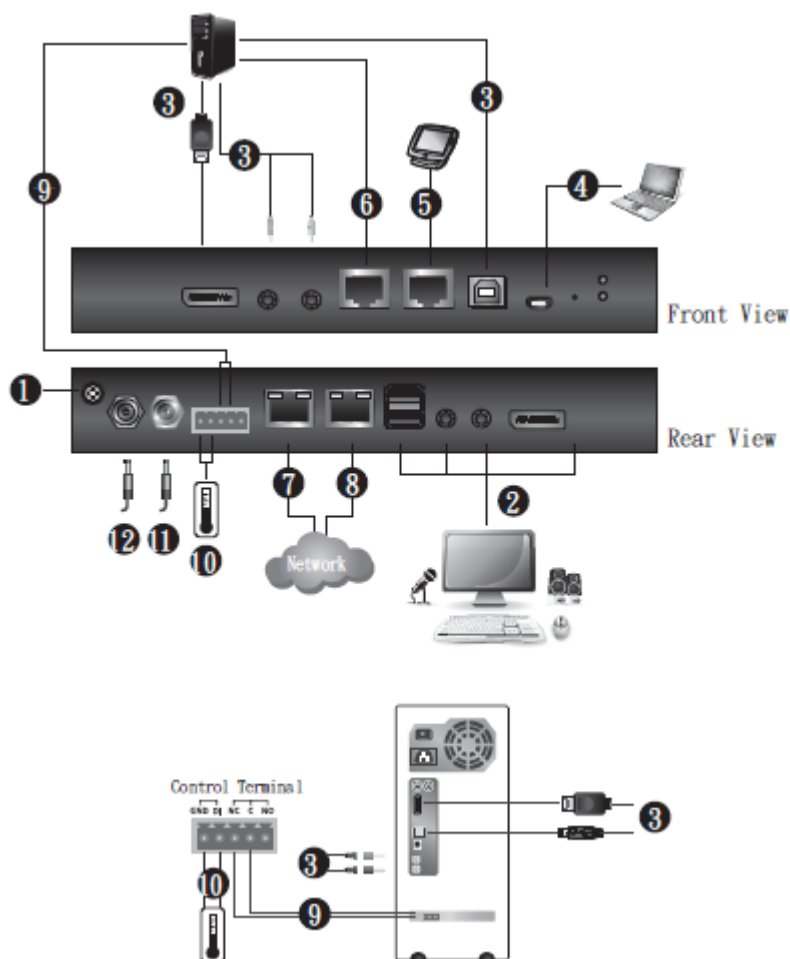
# RCMDVI101



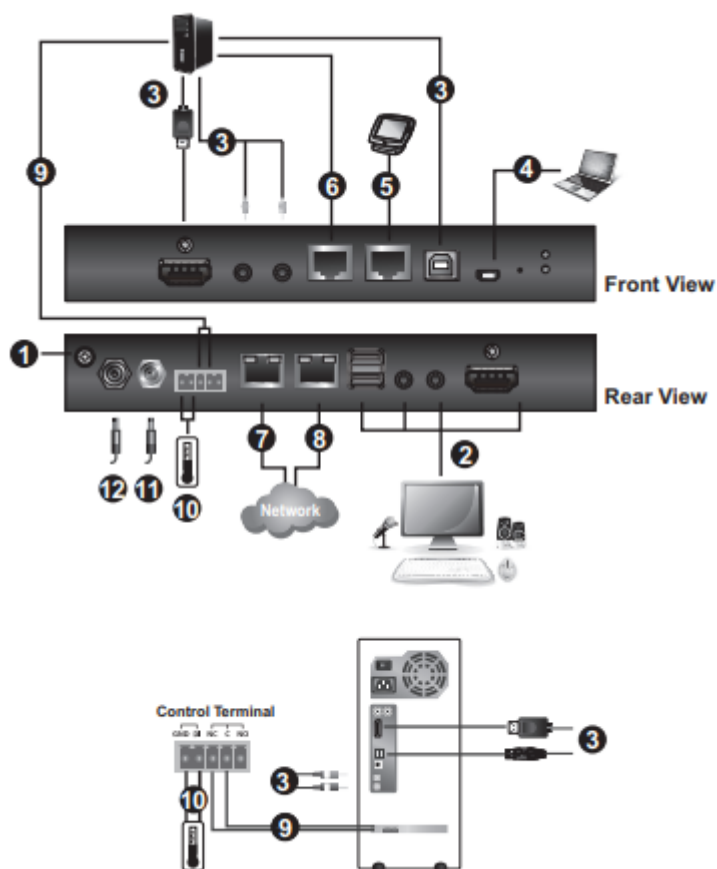
## USB KVM Cable Connection



## RCMDP101U



# RCMHD101U



## DCEおよびDTEポート

---

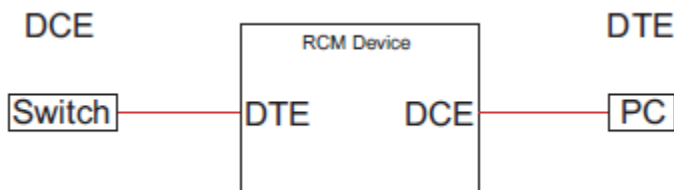
DCEポートとDTEポートの間には、異なる組み合わせのデバイスを接続できます。

例えば制御スイッチ機器からPCのCOMポートを通じて制御する場合、スイッチはDCEとして機能し、PCはDTEとして機能できます。したがって、スイッチをDTEポートに、PCをDCEポートに接続します。

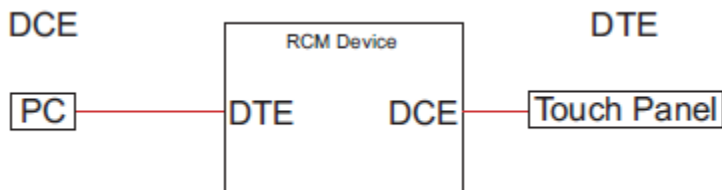
PCとタッチパネルの組み合わせを使用する場合、PCはDCEとして機能し、タッチパネルはDTEとして機能します。そのため、PCをDTEポートに、タッチパネルをDCEポートに接続します。

簡単な図を以下に示します：

### ネットワークスイッチ&PC



### PC&タッチパネル

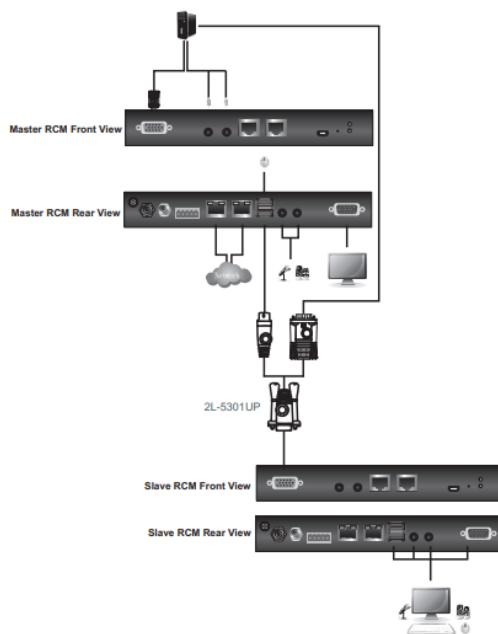


## マルチディスプレイのセットアップ

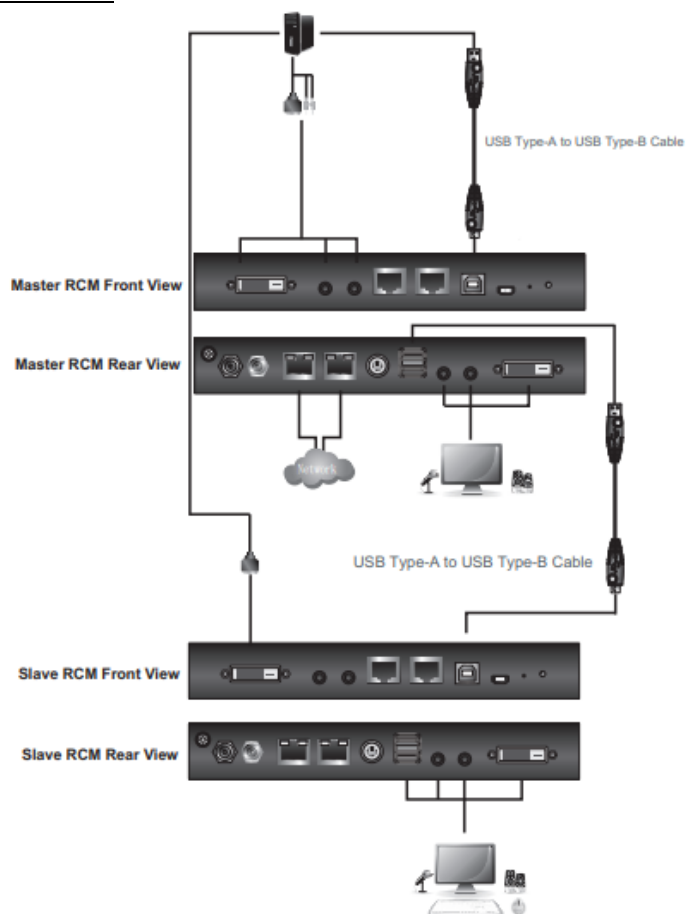
マルチディスプレイでセットアップする場合は、この機器構成でシステムを構築できるよう、RCM KVM over IPを2台ご用意ください。

- ◆ RCMVGA101: マスターとなるRCM KVM over IPのUSB Type-AポートとスレーブとなるRCM KVM over IPのUSB Type-Aポートを、USB KVMケーブル (2L-5301UP)で接続してください。
- ◆ RCMDVI101/RCMDP101U/RCMHD101U: 1本目のUSB Type-A→USB Type-Bケーブルで、マスターとなるRCM KVM over IPのKVM USB Type-BポートとPCを接続してください。そうしたら、2本目のUSB Type-A→USB Type-Bケーブルで、マスターとなるRCM KVM over IPのUSB Type-AポートとスレーブとなるRCM KVM over IPのKVM USB Type-Bポートを接続してください。

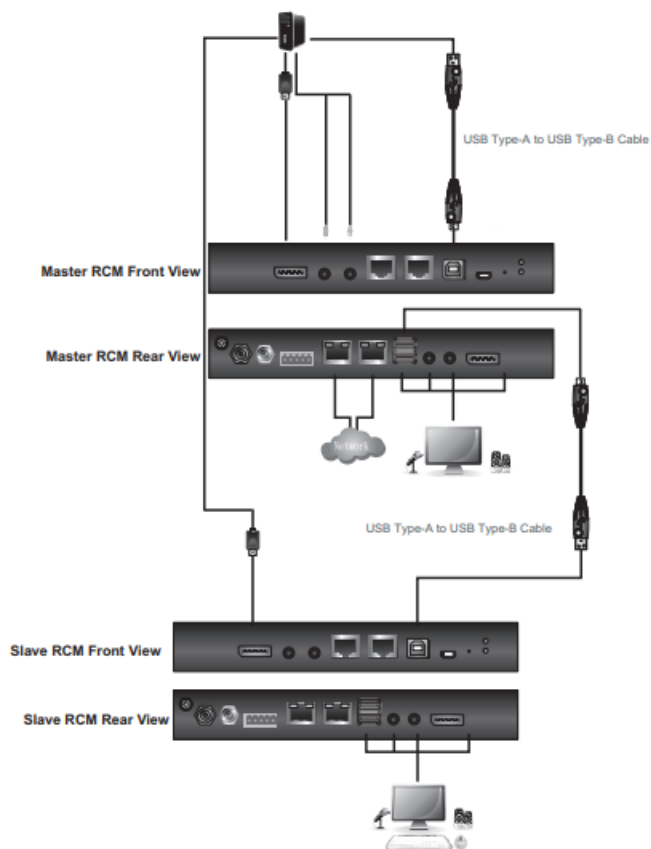
### RCMVGA101



## RCMDVI101

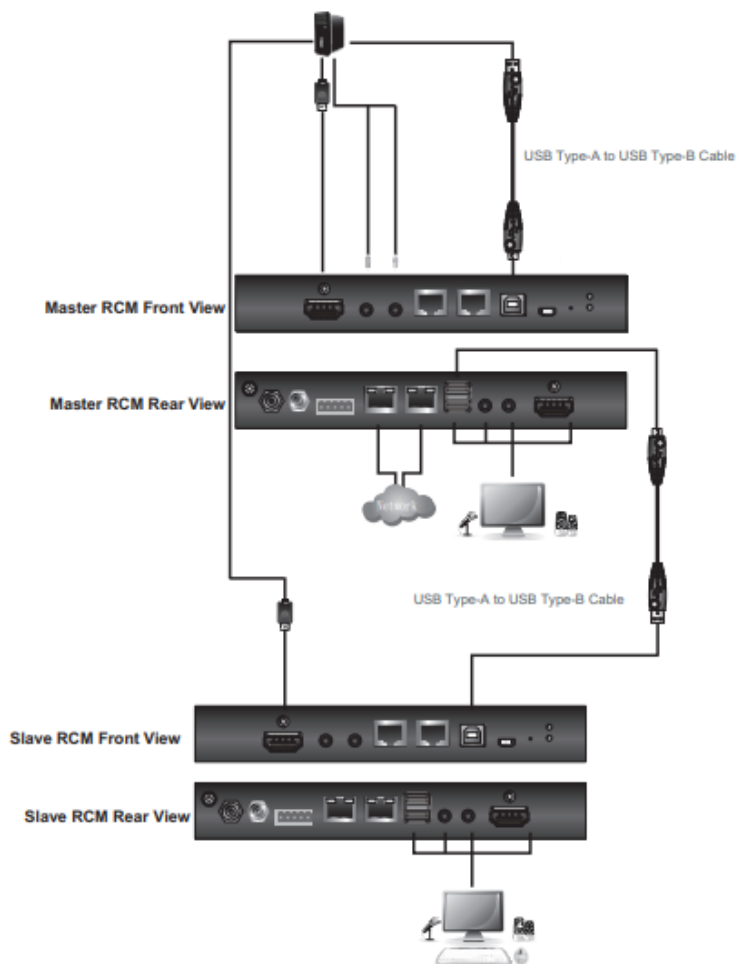


## RCMDP101U





## RCMHD101U



## マルチディスプレイの設定

セットアップが完了したら、「ターミナル」セクションに移動し、次のコマンドを実行してマスターRCM KVM over IPのデュアルクライアントとレイアウトの各モードを設定してください。詳細はp.58「ターミナル」を参照してください。

---

### 注意:

設定を行う必要があるのはマスターとなるRCM KVM over IPのみです。

---

### レイアウトモードの設定

お使いのマルチディスプレイにおける現在のレイアウトを確認するには、お使いのマスターRCM KVM over IPユニットの「ターミナル」セクションから、**msscreen**を実行し、**[Enter]**を押してください。

---

### 注意:

デュアルクライアントモードを有効にする前に、レイアウトモードの設定が完了していることを確認してください。

---

マルチディスプレイのレイアウトを変更するには、次のキーを指定して**msscreen**コマンドを実行し、**[Enter]**を押してください。サポートされるキーとその機能については、下表を参照してください。

| キー   | 機能                                    |
|------|---------------------------------------|
| h12t | ディスプレイは、ディスプレイ1と2の順番で水平および上揃えに設定されます。 |
| h12b | ディスプレイは、ディスプレイ1と2の順番で水平および下揃えに設定されます。 |
| h21t | ディスプレイは、ディスプレイ2と1の順番で水平および上揃えに設定されます。 |
| h21b | ディスプレイは、ディスプレイ2と1の順番で水平および下揃えに設定されます。 |
| v12r | ディスプレイは、ディスプレイ1と2の順番で垂直および右揃えに設定されます。 |
| v12l | ディスプレイは、ディスプレイ1と2の順番で垂直および左揃えに設定されます。 |
| v21r | ディスプレイは、ディスプレイ2と1の順番で垂直および右揃えに設定されます。 |
| v21l | ディスプレイは、ディスプレイ2と1の順番で垂直および左揃えに設定されます。 |

## デュアルクライアントモードの有効化

お使いのマスターRCM KVM over IPユニットの「ターミナル」セクションから、次のキーを指定して**enabledualclient**を実行し、[Enter]を押してください。サポートされるキーとその機能については、下表を参照してください。たとえば、デュアルクライアントモード2が有効になると、「デュアルクライアントモード2が有効です」というフィードバックがありますので、これを確認してください。

| キー | 機能                                                                            |
|----|-------------------------------------------------------------------------------|
| 0  | 1つのWindowsクライアントのウィンドウに2系統のビデオソースが表示されます。                                     |
| 1  | 最初のWindowsクライアントには1系統のビデオソースが表示され、2つ目のWindowsクライアントのウィンドウには別系統のビデオソースが表示されます。 |
| 2  | 2つのWindowsクライアントのウィンドウに2系統のビデオソースがそれぞれ表示されます。                                 |

## 第3章

# API関数

### 概要

---

この章では、32ビット/64ビットWindowsダイナミック・リンク・ライブラリ(DLL)に基づいてRCM KVM over IPへのアクセスや設定を行うのに最も一般的に使用されるAPI関数の一部について説明します。

---

#### 注意:

使用可能なRCM API関数および/またはDLL関連資料の完全なリストについては、最寄りの代理店にお問い合わせください。

---

### APIセッションの開始

---

RCMデバイスにAPI関数をインプリメントする前に、ユーザーはまず次のように入力してAPIセッションを開始する必要があります:

```
StartSession(<IPアドレス>,1,<ユーザーネーム>,<パスワード>)
```

例:

```
StartSession(192.168.0.60,1,administrator,password)
```

入力したら、[Enter]キー押してください。

APIセッションのID(SID)が返ってきます。これは、セッションを介してデバイスにAPI関数を実装するために必要です:

例: 4

---

#### 注意:

戻り値 < 0 はエラーを示します。

表示されたエラーの詳細については、エラーコード仕様書を参照するか、エラー説明検索機能を使用して関連する説明を探してください。p.44「エラー説明検索」を参照してください。

APIセッションを終了するには、次のように入力し、[Enter]キーを押してください:

EndSession(<SID>)

例: EndSession(4)

APIセッションの正常終了を表す0が返ってきます。

## アクセス管理

### ローカルコンソールアクセス

| 機能                         | 説明                    | 例                      |
|----------------------------|-----------------------|------------------------|
| DisableLocalConsole(<SID>) | ローカルコンソールアクセスを無効にします。 | DisableLocalConsole(4) |
| EnableLocalConsole(<SID>)  | ローカルコンソールアクセスを有効にします。 | EnableLocalConsole(4)  |

### リモートポートアクセス

| 機能                             | 説明                                                                    | 例                      |
|--------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|------------------------|
| LockClientLogin(<SID>)         | リモートポートへのリモートアクセスを禁止します。<br>戻り値'0' = 成功                               | LockClientLogin(4)     |
| UnlockClientLogin(<SID>)       | リモートポートへのリモートアクセスを許可します。<br>戻り値'0' = 成功                               | UnlockClientLogin(4)   |
| SetPortAccessMode(1,<アクセスモード>) | リモートポートに対するアクセスモードを設定します<br><br>0 = フルアクセス<br>1 = 参照のみ<br>2 = アクセスを拒否 | SetPortAccessMode(1,0) |

## アクセスコントロールボックスプッシュボタンの確認

| 機能                                  | 説明                                                                                 | 例                               |
|-------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------|
| GetLocalPushButtonStatus(<SID<br>>) | <p>ATENアクセスコントロールボックスと組み合わせて使用し、現在のプッシュボタンの状態を確認します。</p> <p>0 = 解放済<br/>1 = 押下</p> | GetLocalPushButtonStatus(<br>4) |

## リモート監視

以下の一連の機能は、遠隔監視するRCMデバイスの画像を取り込むために使用されます：

1. 次のように入力して、RCMデバイスから画像を取り込むためのパラメーター（その品質、幅、高さ、および時間間隔を含む）を設定してください：

SetCaptureParams(<SID>,1,<画質、20～95>,<画像幅、ピクセル単位>,<画像高さ、ピクセル単位>,1,<間隔、0～1000ms>)

| 機能例                                       | 戻り値    |
|-------------------------------------------|--------|
| SetCaptureParams(4,1,95,1920,1080,1,1000) | 0 = 成功 |

2. 最後のタイムインターバル以降にイメージに新しい更新/変更があるかどうかを確認するには、次のように入力してください：

GetCaptureStatus(<SID>,1)

| 機能例                   | 戻り値                         |
|-----------------------|-----------------------------|
| GetCaptureStatus(4,1) | 1 = 新しい更新/変更<br>0 = 更新/変更なし |

3. キャプチャーされた画像のバッファサイズを取得するには、次のように入力してください：

GetCaptureBufferSize(<SID>,1)

| 機能例                       | 戻り値                      |
|---------------------------|--------------------------|
| GetCaptureBufferSize(4,1) | > 0 = バッファサイズ<br>0 = 保留中 |

4. キャプチャーされた画像のデータを取得するには、次のように入力してください：

GetCaptureDat(<SID>,1,<画像のバッファへのポインター>,<バッファサイズ>,dw,dh)

| 機能例                                 | 戻り値      |
|-------------------------------------|----------|
| GetCaptureDat(4,1,00,2073600,dw,dh) | > 0 = 成功 |

## リモートアクセス

| 機能                   | 説明                      | 例                |
|----------------------|-------------------------|------------------|
| StartViewer(<SID>,1) | リモートアクセス用の内部ビューワーを開きます。 | StartViewer(4,1) |
| CloseViewer(<SID>,1) | リモートアクセス用の内部ビューワーを閉じます。 | CloseViewer(4,1) |

## OCR関数

### サンプル画像の比較

| 機能                                                                                    | 説明                                              | 例                                                       |
|---------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|---------------------------------------------------------|
| OCR_FastFindSamplePicture(<SID>, 1,<水平位置 x>,<垂直位置 y>,<幅>,<高さ>,<lpSampleFileName.bmp>) | デバイスのイメージの指定された領域をサンプルイメージと比較します。<br><br>0 = 成功 | OCR_FastFindSamplePicture(4,1,0,0,1920,1080,sample.bmp) |

### テキスト読込

| 機能                                                                                                                                                   | 説明                            | 例                                                                        |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|
| ReadTextFromZoneMemEx(<SID>,1,<水平位置x>,<垂直位置y>,<幅>,<高さ>,<テキストのメモリバッファーに対するポインター>,<メモリバッファーのサイズ>,<ocrsetting.iniに基づいたフォントタイプ>,<許可された曖昧さのしきい値:-1=自動検出>) | デバイスのイメージの指定した領域からテキストを取得します。 | OCR_ReadTextFromZoneMemEx(4,1,0,0,1920,1080,pointer,sizeoff(pointer),-1) |



その他のAPI関数

マウスモードの設定

| 機能                                            | 説明                    | 例                   |
|-----------------------------------------------|-----------------------|---------------------|
| SetMouseMode(<SID>,1,<br>マウスモード、0/1=マニュアル/自動) | マウスモードを手動または自動に設定します。 | SetMosueMode(4,1,1) |

リモートセッション情報の取得

| 機能                                          | 説明                                  | 例                                   |
|---------------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|
| GetSessionByPort(<SID>,1,lpBuf,<lpBufのサイズ>) | 現在RCMデバイスにアクセスしているセッションリスト情報を取得します。 | GetSessionByPort(4,1,lpBuf,1024*64) |

ユーザーアカウント単位でのセッションの強制終了

| 機能                                               | 説明                              | 例                                 |
|--------------------------------------------------|---------------------------------|-----------------------------------|
| KillSessionByName(<SID>,<ユーザーネーム>,<ユーザーネームのサイズ>) | 指定したユーザーが現在アクセスしているセッションを終了します。 | KillSessionByName(4,nicholas,8*2) |

リモートポートセッションの強制終了

| 機能                                            | 説明                                 | 例                               |
|-----------------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|
| KillSessionByPort(<SID>,1,<ポートリスト>,<ポートリスト長>) | リモートポートに現在アクセスしているすべてのセッションを終了します。 | KillSessionByPort(4,1,"¥x01",1) |

## アクセス拒否プロンプトメッセージの設定

| 機能                                                        | 説明                                              | 例                                           |
|-----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|---------------------------------------------|
| SetMessageByPort(<SID>, 1, <プロンプトメッセージ、最大30文字>, <メッセージ長>) | リモートポートへのアクセス権限がないユーザーに通知するためのプロンプトメッセージを設定します。 | SetMessageByPort(4, 1, access denied, 13*2) |

## エラー説明検索

| 機能                            | 説明                        | 例                      |
|-------------------------------|---------------------------|------------------------|
| GetErrorDescription(<エラーコード>) | 指定された戻りエラー値でエラーの説明を検索します。 | GetErrorDescription(9) |

RCM API機能の完全なリストについては、最寄りの代理店にお問い合わせください。

## 第4章

# ブラウザーによるログイン

RCM KVM over IPには、Webブラウザーまたは以下の方法でアクセスできます：

- ◆ WindowsクライアントまたはJavaクライアント (p.107「Web、WindowsおよびJavaクライアントビューワー」)
- ◆ WindowsまたはJavaアプリケーション (AP) プログラム (p.108「WindowsクライアントAP」またはp.111「JavaクライアントAP」参照)
- ◆ ラップトップUSBコンソール(LUC)ポート (p.156「ラップトップUSBコンソール(LUC)」参照)
- ◆ ローカルコンソール (p.153「ローカルコンソール」参照)

以降の章ではブラウザーベースの操作方法について説明します。

## ログイン

---

WebブラウザーからRCM KVM over IPを操作するには、次の手順に従って操作を行ってください：

1. ブラウザーを開き、アクセス対象となるRCM KVM over IPのIPアドレスを、ブラウザーのURLバーに入力してください。

DHCP環境でない場合のデフォルトIPアドレスは、192.168.0.60です。

---

### 注意：

1. セキュリティー上の理由から、管理者がログイン文字列を設定している可能性があります。その場合、ログインの際に、IPアドレスの後スラッシュを入れてから文字列を入力してください。次に例を示します。

192.168.0.100/RCM KVM over IP Switch

IPアドレスやログイン文字列がご不明な場合は、本機の管理者

にご相談ください。

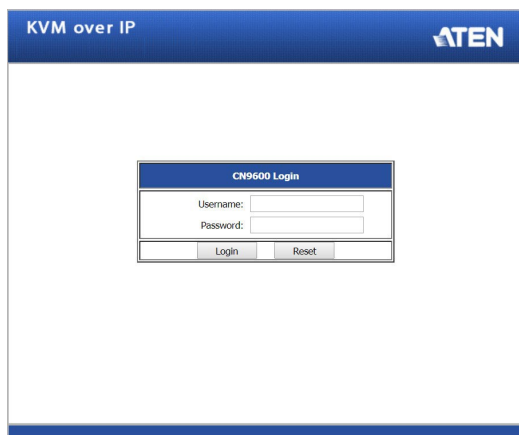
2. アドミニストレーターで、初めてログインする際に、RCM KVM over IP のIPアドレスを決定するには、様々な方法があります。詳しくは、p.169「付録」で説明します。

2. 「**セキュリティの警告**」画面が表示されたら、「**このWebサイトへ進む**」をクリックして証明書を受け入れてください。（詳細はp.182「信頼された証明書」参照）。別のセキュリティの警告に関するダイアログが表示されたら、その証明書を受け入れてください。

**注意：**

「**セキュリティの警告**」画面の形式は、ブラウザのバージョンによって異なります。

RCM KVM over IPのログイン画面が表示されます：



3. 有効なユーザーネームとパスワード（RCM KVM over IPの管理者が設定）を入力し、「**ログイン**」をクリックして操作を続行してください。

**注意：**

1. アドミニストレーターとして初回ログインを行う場合、デフォルトのアカウント（ユーザーネーム：administrator パスワード：password）でログインしてください。セキュリティ上の理由から、ログインパスワードの変更を求めるプロンプトが表示されます。このパスワード

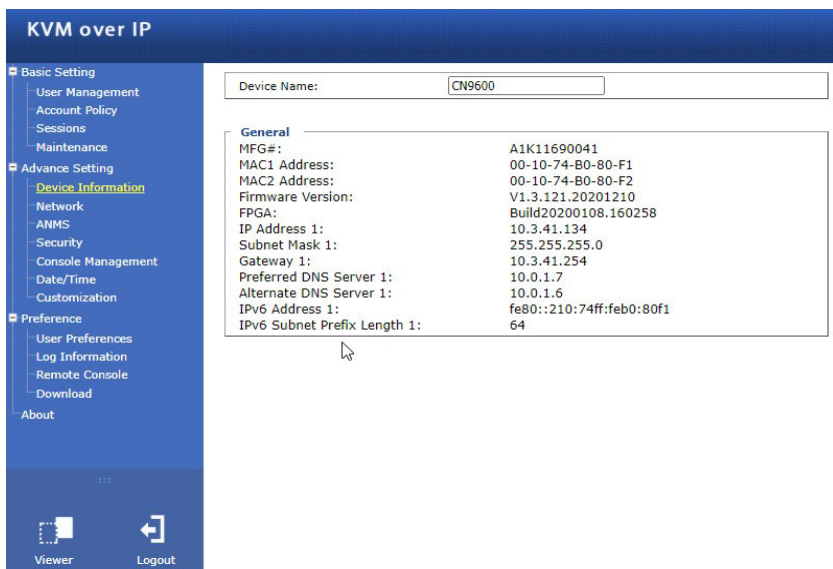
は、ログインパスワードとは異なるものに設定してください。

2. 無効なログインを指定した場合、認証ルーチンは「ユーザーネームまたはパスワードが無効です。再試行してください。」というメッセージを返します。このメッセージが表示された場合は、ユーザーネームとパスワードに注意して再度ログインしてください。
- 

ログインに成功すると、メイン画面が表示されます。

## メイン画面

正常にログインすると、RCM KVM over IPのメイン画面が表示されます：



メイン画面は、左パネルのユーザーメニューで構成され、ビューワーアイコン（JavaまたはWinクライアントビューワー起動用）と、メニューの下部にログアウトアイコンが表示されます。

---

### 注意：

ユーザーが操作権限を持っていない機能のメニューオプションは、表示されません。権限に関する詳細はp.50「ユーザー管理」を参照してください。

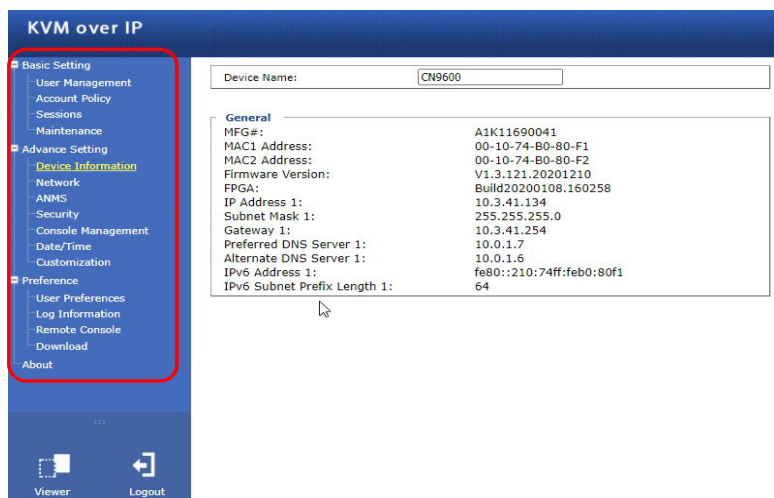
---

# 第5章

## 設定

### はじめに

RCM KVM over IPのWeb画面において、左側のパネルにあるリンクとアイコンで表される管理ユーティリティーは、デバイスの動作環境を構成するために使用されます。本章では、それぞれについて順に説明します。



#### 注意:

1. 各ダイアログボックスで設定内容を変更する場合は、最後に「保存」ボタンをクリックして設定を適用してください。
2. 一部の設定変更は、RCM KVM over IPのリセット後にのみ有効になります。変更を有効にするには、一旦ログアウトしてから再度ログインしてください。
3. 設定権限がない場合、管理設定ダイアログはご利用いただけません(p.50「ユーザー管理」参照)。

## 基本設定

以下のセクションでは、基本設定の画面について説明します。左パネルメニューの「ユーザー管理」、「アカウントポリシー」、「セッション」、および「メンテナンス」の各リンクをクリックすると、それぞれの画面を表示します。

### ユーザー管理

「ユーザー管理」画面では、RCM KVM over IPにユーザーアカウントを追加、編集、または削除したり、各アカウントの役割や権限を変更したりすることができます：

The screenshot shows the 'User Management' interface. On the left is a sidebar with a list of users: 'administrator' and 'test123'. The main area is titled 'User Information' and contains several sections:

- User Information:** Includes input fields for 'Username:', 'Password:', 'Confirm Password:', and 'Description:'.
- Role:** Features three radio buttons: 'Administrator', 'User', and 'Select' (which is currently selected).
- Permissions:** A section with a list of checkboxes for various permissions: 'Windows Client', 'Config', 'Telnet Client', 'Enable Virtual Media', 'Java Client', 'System Log', 'SSH Client', 'View only', and 'Force to Grayscale'. Below this list is a dropdown menu currently set to 'Read Only'.

### ユーザー情報

- ◆ **ユーザーネーム:**これはアカウントのユーザーネームです。
- ◆ **パスワード/パスワードの確認:**パスワードを変更する場合、新しいパスワードを入力し、確認のため、新しいパスワードを再入力します。
- ◆ **説明:**アカウントを説明する語句を入力してください。

### 役割

これにより、アドミニストレーターはアカウントに許可する権限を選択できます。

- ◆ **アドミニストレーター:**管理者レベルのアクセス権を付与します。  
「参照のみ」および「強制的にグレースケールにする」を除く、すべての操



作権限が付与されます(以下の権限を参照)。

- ◆ **ユーザー:**ユーザーレベルのアクセス権を付与します。WindowsクライアントおよびJavaクライアントの権限が付与されます(操作権限は下記参照)。
- ◆ **選択:**操作権限セクションから操作権限を選択して、アクセス権を個別に選択することができます。

## 許可

クリックすると、RCM KVM over IPの操作のその側面へのアクセスを許可/拒否する項目を有効/無効にします。

- ◆ **Windowsクライアント:**この項目にチェックを入れると、ユーザーはWindowsクライアントソフトウェア経由でRCM KVM over IPにアクセスできます。
- ◆ **設定:**この項目にチェックを入れると、ユーザーはRCM KVM over IPの動作環境の設定を定義したり変更したりすることができます。
- ◆ **Telnetクライアント:**この項目にチェックを入れると、ユーザーは指定したネットワークプロトコルを介してRCM KVM over IPにアクセスできます。
- ◆ **バーチャルメディアを有効にする:**この項目にチェックを入れると、ユーザーはRCM KVM over IPのバーチャルメディア機能を利用できます(詳細についてはp.132「バーチャルメディア」を参照)。ドロップダウンメニューを使用して、ユーザーに**読み取り/書き込み権限**と**読み取り権限のみ**のどちらがあるかを選択します。
- ◆ **Javaクライアント:**この項目にチェックを入れると、ユーザーはJavaクライアントソフトウェアを介してRCM KVM over IPにアクセスできます。
- ◆ **システムログ:**この項目にチェックを入れると、ユーザーはログファイルの内容を参照することができます。
- ◆ **SSHクライアント:**この項目にチェックを入れると、ユーザーはSSHセッション経由でRCM KVM over IPにアクセスできます。
- ◆ **参照のみ:**この項目にチェックを入れると、ユーザーはキーボードとマウスを操作できなくなります。

- ◆ **強制的にグレースケールにする:**この項目にチェックを入れると、リモート画面がグレースケールで表示されます。これにより、帯域幅が低い状態でI/O転送を高速化することができます。

項目に入力したら、RCM KVM over IPに適用するアクションをクリックしてください:

- ◆ リセット – クリックすると、入力欄を消去します。
- ◆ 追加 – クリックすると、RCM KVM over IPに新しいアカウントを追加します。
- ◆ 更新 – クリックすると、既存アカウントの設定を更新します。
- ◆ 削除 – クリックすると、選択したアカウントを削除します。

## アカウントポリシー

ユーザーネームとパスワードのパラメーターを設定します。

**Account Policy**

|                                                   |                                         |
|---------------------------------------------------|-----------------------------------------|
| Minimum Username Length:                          | <input type="text" value="6"/>          |
| Minimum Password Length:                          | <input type="text" value="6"/>          |
| Password Must Contain At Least                    | <input type="checkbox"/> One Upper Case |
|                                                   | <input type="checkbox"/> One Lower Case |
|                                                   | <input type="checkbox"/> One Number     |
| <input type="checkbox"/> Disable Duplicate Login  |                                         |
| <input type="checkbox"/> Enforce Password History | <input type="text" value="2"/>          |

- ◆ ユーザーネーム最小文字数: ユーザーネームに必要な最小文字数(0~20)を入力します(デフォルトは6文字)。
- ◆ 最小パスワード長: パスワードに必要な最小文字数(0~20)を入力します(デフォルトは6)。
- ◆ パスワードには以下が必須: パスワードに含める文字(1文字以上の大文字、1文字以上の小文字、および/または1文字以上の数字)をチェックボックスで選択してください。

---

### 注意:

このポリシーは、ポリシーの有効後に作成されたユーザーアカウントと、既存のユーザーアカウントに対するパスワードの変更にのみ影響します。

- ◆ 同一アカウントによる二重ログインを許可しない場合は、「二重ログインを無効にする」の項目にチェックを入れてください。これにより、ユーザーが同じアカウントで同時にログインできなくなります。
- ◆ パスワードの再作成が要求されたときにユーザーが同じパスワードを使用できないようにするには、「パスワード履歴を強制する」の項目にチェックを入れてください。テキストボックスには、以前のパスワードを再度使用するために必要となるパスワードの変更回数を入力してください。

## セッション

「セッション」画面において、アドミニストレーターは現在RCM KVM over IPにログインしているすべてのユーザーを表示し、各セッションに関する情報を提供します。

| Username      | IP          | Login Time             | Client  | Category      | Devices | Ports |
|---------------|-------------|------------------------|---------|---------------|---------|-------|
| administrator | 10.3.41.102 | 2013/03/21<br>02:51:12 | Browser | Administrator | None    |       |

各項目の詳細は下表のとおりです。

- ◆ 「IP」列には、ログインしているユーザーのIPアドレスが表示されます。
- ◆ 「クライアント」列は、RCM KVM over IP(ブラウザー、WinクライアントAP、JavaクライアントAPなど)への接続に使用されるユーザーを意味します。
- ◆ 「カテゴリ」列には、ログインユーザーのユーザータイプ(アドミニストレーター、ユーザー、選択)が表示されます(ユーザータイプの詳細はp.108「ダウンロード」参照)。

この画面では、アドミニストレーターが選択したユーザーを強制的にログアウトさせることもできます。これを実行するには、対象となるユーザーを選択し、「セッション終了」ボタンをクリックしてください。

画面を更新するには、「再読み込み」をクリックしてください。

## メンテナンス

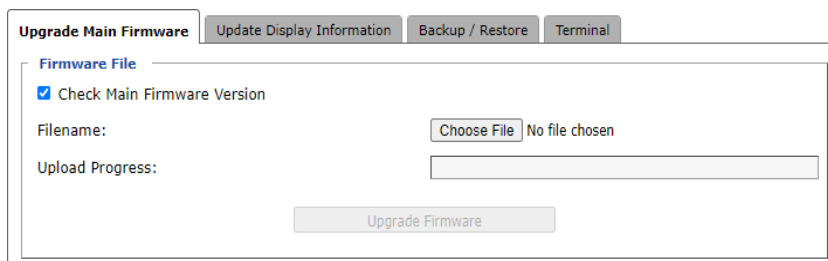
「メンテナンス」画面において、アドミニストレーターはRCM KVM over IPのファームウェアをアップグレードしたり、RCM KVM over IPの構成設定をバックアップ/復元したり、ターミナルを使用してユニットの設定を構成したりすることができます。

### メインファームウェアのアップグレード

RCM KVM over IPファームウェアの新しいバージョンが利用可能になると、弊社のWebサイト(<http://www.aten.com/jp/ja/>)からダウンロードできます。このサイトで、最新のファームウェアや関連情報を定期的にご確認ください。

ファームウェアをアップグレードする場合は、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. 弊社Webサイトから本製品の新しいファームウェアファイルをダウンロードし、お使いのコンピューターのハードディスクの適当な場所に保存してください。
2. ブラウザーを開いて、RCM KVM over IPにログインし、左パネルメニューの「メンテナンス」をクリックして、次のように「ファームウェアファイル」ダイアログボックスを表示します:



3. 「参照」ボタンをクリックして、新しいファームウェアが保存されているフォルダーに移動し、ファームウェアファイルを選択してください。
4. 「ファームウェアのアップグレード」ボタンをクリックしてください。

「ファームウェアバージョンを確認する」の項目にチェックが入っている場合、アップグレードを実行すると、現在のファームウェアレベルがアップグレードファイルのファームウェアレベルと比較されます。現在インストールされているバージョンの方が新しい場合、処理を中止するという内容のメッセージがダイ

アログに表示されます。

---

**注意:**

古いファームウェアをインストールする場合は、「ファームウェアのアップグレード」ボタンをクリックする前に「ファームウェアバージョンを確認する」の項目からチェックを外してください。

---

- アップロードが完了すると、システムアップグレードの進捗状況を示すメッセージが画面に表示されます。
- システムのアップグレードが完了すると、現在のユーザーは自動的にログアウトされ、システムがすぐに再起動することをユーザーに通知します。

---

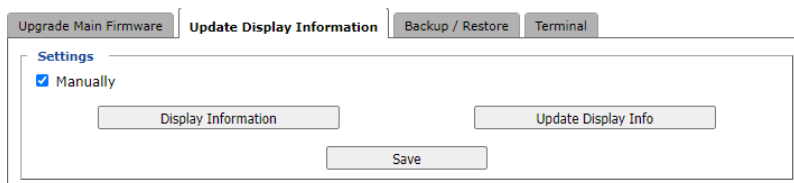
**注意:**

再ログインする場合は、しばらく経ってから操作を行ってください。

---

## ディスプレイ情報の更新

「ディスプレイ情報の更新」画面には、使用するビデオディスプレイとモニターの情報が表示されます。また、ユーザーはビデオ解像度を変更することができます。



- ◆ **ディスプレイ情報:** クリックすると、ビデオディスプレイの情報が表示されます。
- ◆ **ディスプレイ情報の更新:** クリックすると、ビデオディスプレイの解像度を変更します。
- ◆ **保存:** クリックすると、変更を有効にします。

## バックアップ/リストア

「バックアップ/リストア」画面では、RCM KVM over IPの設定とユーザープロファイル情報をバックアップすることができます。バックアップされたユーザーアカウントと設定情報は「リストア」セクションに保存されます。RCM KVM over IPで現在設定されている情報は、復元する情報に置き換えられます。

The screenshot shows the 'Backup / Restore' tab in a web interface. It features two main sections: 'Backup' and 'Restore'. The 'Backup' section includes a password input field and a 'Backup' button. The 'Restore' section includes a filename input field with a 'Browse...' button, a password input field, and three radio buttons for selection: 'Select All' (which is selected), 'User Account', and 'User Select'. Below the radio buttons is an 'Options' section with two columns of checkboxes. The first column contains 'Device Information', 'ANMS', 'OBC', and 'Customization'. The second column contains 'Network', 'Security', 'Date/Time', and 'Account'. All checkboxes are checked. A 'Restore' button is located at the bottom of the 'Restore' section.

バックアップを作成する場合は、以下の手順に従って操作を行ってください。

1. (オプション)「パスワード」の項目に、ファイルのパスワードを入力してください。

---

### 注意:

パスワードを設定する場合、ファイルの復元の際にこのパスワードが必要になりますので、忘れないように記録しておいてください。

---

2. 「バックアップ」ボタンをクリックしてください。
3. ブラウザーからファイルの操作が要求された場合は、「保存」を選択し、お使いのコンピューターのドライブの適当な場所に保存してください。

---

### 注意:

RCM KVM over IPは、そのすべてのバックアップファイルを「sysconfig.cfg」として保存します。複数のファイルにバックアップを行いたい場合は、保存する際に別名をつけて保存してください。

---

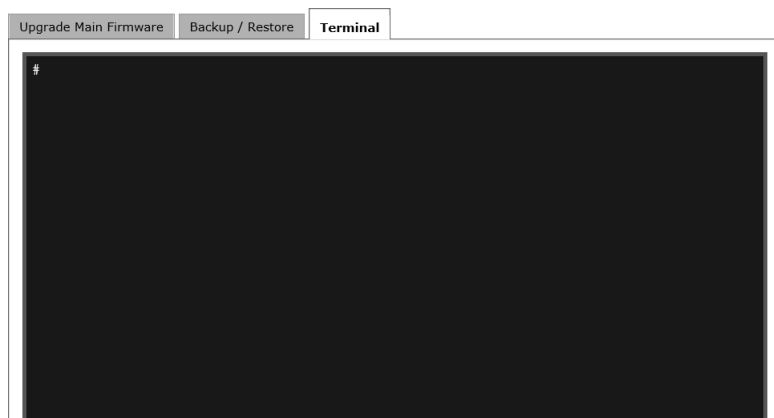
バックアップの内容をリストアする場合は、以下の手順で操作してください。

1. バックアップを作成時にパスワードが設定されていた場合は、このパスワードと同じ文字列を「パスワード」欄に入力してください。パスワードが設定されていない場合は、空白のままで構いません。
2. 「参照」ボタンをクリックして、ファイルを選択してください。
3. 復元したいバックアップの内容を選択してください。
  - ◆ すべての設定情報を復元する場合は、「すべて選択」を選択してください。
  - ◆ ユーザーアカウント情報のみを復元する場合は、「ユーザーアカウント」を選択してください。
  - ◆ バックアップファイルに保存された内容のうち、復元する対象となる部分を個別に選択したい場合は、「ユーザー選択」を選択し、対象項目をチェック/チェック解除してください。
4. 項目を選択したら、「リストア」ボタンをクリックしてください。

ファイルがリストアされると、処理に成功したという内容のメッセージが表示されます。

## ターミナル

「ターミナル」セクションでは、ターミナルコマンドを使用してユニットを設定することができます。





## ■ リモート再起動用リレーターミナル

RCMGA101/RCMDP101Uのみ、ノーマルクローズ (NC) またはノーマルオープン (NO) のリレーターミナルを設定する場合は、対応するコマンドを下に入力して、[Enter]を押してください:

- ◆ **setrelaycontrol 0**: NC-Cを導通状態、NO-Cを非導通状態にします。
- ◆ **setrelaycontrol 1**: NC-Cを非導通状態、NO-Cを導通状態にします。
- ◆ **setrelaycontrol r**: 現在の状態 (0または1)を読み出します。

## ■ デジタル入力

RCMDVI101/RCMDP101U/RCMHD101Uの場合のみ、接続されている入力デバイスの状態を確認するには、**getdigitalin**と入力し、[Enter]を押してください。

入力デバイスの監視パラメーターが設定したしきい値を超えた場合、1を返します。それ以外の場合は0を返します。Normally closed: 設定可能なコマンドをさらに表示する場合は、**help**と入力して[Enter]を押してください。

---

### 注意:

これらの制御ターミナル機能は、Puttyなどのサードパーティー製ユーティリティをサポートしていません。

---

## 詳細設定

次のセクションでは、デバイス情報、ネットワーク、ANMS、セキュリティ、コンソール管理、日付/時刻、カスタマイズ画面など、詳細設定の対象となる管理ユーティリティについて説明します。

### デバイス情報

「デバイス情報」画面には、RCM KVM over IPのステータスに関する情報が表示されます。この画面ではデバイス名を変更することができます。

|                                                  |                          |
|--------------------------------------------------|--------------------------|
| Device Name: <input type="text" value="CN9600"/> |                          |
| <b>General</b>                                   |                          |
| MFG#:                                            | A1K11690041              |
| MAC1 Address:                                    | 00-10-74-B0-80-F1        |
| MAC2 Address:                                    | 00-10-74-B0-80-F2        |
| Firmware Version:                                | V1.3.121.20201210        |
| FPGA:                                            | Build20200108.160258     |
| IP Address 1:                                    | 10.3.41.134              |
| Subnet Mask 1:                                   | 255.255.255.0            |
| Gateway 1:                                       | 10.3.41.254              |
| Preferred DNS Server 1:                          | 10.0.1.7                 |
| Alternate DNS Server 1:                          | 10.0.1.6                 |
| IPv6 Address 1:                                  | fe80::210:74ff:feb0:80f1 |
| IPv6 Subnet Prefix Length 1:                     | 64                       |

### 全般

- ◆ **デバイス名:** 複数のRCM KVM over IPを持つシステムを管理しやすくするために、それぞれに名前を付けることができます。RCM KVM over IPの名前(最大16文字)を入力し、「保存」をクリックしてください。
- ◆ **MAC(1,2)アドレス:** RCM KVM over IPのMACアドレスがここに表示されます。
- ◆ **ファームウェアバージョン/FPGA:** RCM KVM over IPの現在のファームウェアバージョンとビルド日を示します。RCM KVM over IPのファームウェアの新しいバージョンは、入手可能になったときに当社のWebサイトからダウンロードできます(p.55「メインファームウェアのアップグレード」を参照)。この番号を参照すると、Webサイトで使用可能な新しいバージョンがあるかどうかを確認することができます。
- ◆ **IPアドレス:** RCM KVM over IPのIPv4 (32ビット)アドレスを表示します(レガシー形式)。
- ◆ **サブネットマスク:** IP接続用のサブネットマスクです。

- ◆ **ゲートウェイ**:これはRCM KVM over IPのゲートウェイアドレスです。
- ◆ **IPv6アドレス/IPv6サブネット プレフィックス長**:RCM KVM over IPのIPv6(128ビット)アドレスを表示します(新形式)。詳細はp.176「IPv6」を参照してください。

## ネットワーク

「ネットワーク」画面は、RCM KVM over IPのネットワーク環境を指定するために使用されます。

**IP Installer**  
☐ Enabled      ☒ View Only      ☐ Disabled

**Service Ports**

|          |      |
|----------|------|
| Program: | 9000 |
| HTTP:    | 80   |
| HTTPS:   | 443  |
| SSH:     | 22   |
| Telnet:  | 23   |

☒ Redundant NIC  
1000M Network Adapter 1

**IPv4 Settings**

IP Address:  
☐ Obtain IP address automatically [DHCP]  
☒ Set IP address manually [Fixed IP]

|                  |               |
|------------------|---------------|
| IP Address:      | 172.17.17.21  |
| Subnet Mask:     | 255.255.255.0 |
| Default Gateway: | 172.17.17.254 |

DNS Server:  
☒ Obtain DNS server address automatically  
☐ Set DNS server address manually

|                       |          |
|-----------------------|----------|
| Preferred DNS server: | 10.0.1.6 |
| Alternate DNS server: | 10.0.1.7 |

**IPv6 Settings**

IP Address:  
☒ Obtain IPv6 address automatically [DHCP]  
☐ Set IPv6 address manually [Fixed IP]

|                       |    |
|-----------------------|----|
| IPv6 Address:         |    |
| Subnet Prefix Length: | 64 |
| Default Gateway:      |    |

DNS Server:  
☒ Obtain DNS server address automatically  
☐ Set DNS server address manually

|                       |  |
|-----------------------|--|
| Preferred DNS server: |  |
| Alternate DNS server: |  |

Network Transfer Rate: 99999 KBps

**DDNS**  
☐ Enable  
Host Name:   
DDNS:   
Username:   
Password:   
DDNS Retry Time:  hour

## IPインストーラー

IPインストーラーは、RCM KVM over IPにIPアドレスを割り当てるための外部Windowsベースのユーティリティです。IPインストーラーの用途に応じて、「有効」、「参照のみ」、「無効」のいずれかのラジオボタンをクリックしてください。IPインストーラーの詳細については、p.63を参照してください。

---

### 注意:

1. 「参照のみ」を選択すると、IPインストーラーのデバイスリストにRCM KVM over IPが表示されますが、IPアドレスを変更することはできません。
  2. セキュリティ上の理由から、IPインストーラーの使用後には、この項目を「参照のみ」または「無効にする」に設定することを強く推奨します。
- 

## サービスポート

RCM KVM over IPが各種ネットワークサービスに使用するポートを指定します。

- ◆ **プログラム:** WindowsクライアントとJavaビューワー、およびWindowsとJavaクライアントAPプログラムからRCM KVM over IPに接続するためのポート番号です。デフォルトでは9000に設定されています。
  - ◆ **HTTP:** ブラウザーによるログインで使用するポート番号です。デフォルトでは80に設定されています。
  - ◆ **HTTPS:** セキュリティで保護されたブラウザーによるログインで使用するポート番号です。デフォルトでは443に設定されています。
  - ◆ **SSH:** セキュアシェルログインで使用するポートです。デフォルトでは22に設定されています。
  - ◆ **Telnet:** セキュアなコンソールログインでのアクセスに使用するポートです。デフォルトでは23に設定されています。
- 

### 注意:

1. すべてのサービスポートの有効な値は1~65535です。

2. これらのポートはそれぞれ固有のポートを割り当て、項目間で値が重複しないように設定してください。
  3. ファイアーウォールがない場合（イントラネット上など）、これらの数がどのように設定されていても影響はないため、問題ありません。
- 

ファイアーウォールが使用されている場合、管理者はファイアーウォールの設定で許可されたポート番号を製品側でも設定する必要があります。デフォルト以外のポートが設定されている場合、ユーザーはログイン時にIPアドレスの一部としてポート番号を指定する必要があります。そうでない場合、無効なポート番号（またはポート番号なし）が指定されていると、RCM KVM over IPは見つかりません。

## 冗長NIC

冗長NICは、プライマリー接続に障害が発生した場合に別のネットワークアダプターに切り替えることで、RCM KVM over IPが常にオンラインになるようにします。

- ◆ 2番目のIPアドレスにセカンダリーLANポートを使用する場合は、冗長NICにチェックを入れてください。
- ◆ 2番目のIPアドレスにセカンダリーLANポートを使用する場合は、冗長NICにチェックを入れないでください。ドロップダウンメニューを使用して、「1000Mネットワークアダプター2」を選択してから、そのIPとDNSアドレスを設定してください。

## IPv4設定

RCM KVM over IPは、起動時にIPアドレスを動的に割り当てるか（DHCP）、固定IPアドレスを割り当てることができます。

- ◆ 動的IPアドレス割り当ての場合は、「IPアドレスを自動的に取得する」ラジオボタンを選択します。（デフォルト設定です）
- ◆ 固定IPアドレスを指定するには、「IPアドレスを手動で設定する」ラジオボタンを選択し、IPアドレスを入力してください。

---

**注意:**

1. 「IPアドレスを自動的に取得する」の項目を選択し、スイッチのIPアドレスをDHCPで自動的に取得する場合、製品は起動後にDHCPサーバーからのIPアドレスの割り当てを待機します。1分経過してもアドレスが取得されない場合は、工場出荷時のデフォルトIPアドレス192.168.0.60へと自動的に戻ります。
  2. RCM KVM over IPが、DHCPを使用してネットワークアドレスを割り当てるネットワーク上にあり、そのIPアドレスを確認する必要がある場合は、IPインストーラーを使用できます。詳細についてはp.173「IPアドレスの設定」を参照してください。
- 

RCM KVM over IPは、DNSサーバーアドレスを自動的に割り当てるか、固定アドレスを指定できます。

- ◆ DNSサーバーのアドレスを自動的に割り当てる場合は、「**DNSサーバーアドレスを自動的に取得する**」のラジオボタンを選択してください。
- ◆ DNSサーバーの固定アドレスを指定する場合は、「**以下のDNSサーバーアドレスを使用する**」のラジオボタンを選択し、必要な情報を入力してください。

---

**注意:**

代替DNSサーバーアドレスの指定はオプションです。

---

## IPv6設定

RCM KVM over IPは、起動時にIPv6アドレスを動的に割り当てるか(DHCP)、固定IPv6アドレスを割り当てることができます。

- ◆ 動的 IPv6アドレスを割り当てる場合は、「**IPアドレスを自動的に取得する**」のラジオボタンを選択してください。(デフォルト設定です)
- ◆ 固定IPアドレスを指定するには、「**IPv6アドレスを手動で設定する**」ラジオボタンを選択し、IPアドレスを入力してください。

RCM KVM over IPは、DNSサーバーアドレスを自動的に割り当てるか、固定アドレスを指定できます。

- ◆ DNSサーバーのアドレスを自動的に割り当てる場合は、「**DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する**」のラジオボタンを選択してください。
- ◆ 固定アドレスを指定するには、「**次のDNSサーバーのアドレスを使用する**」ラジオボタンを選択し、必要な情報を入力してください。

---

**注意:**

代替DNSサーバーアドレスの指定はオプションです。

---

## ネットワーク転送速度

この設定では、RCM KVM over IPがリモートコンピューターにデータを転送する速度を設定することで、データ転送ストリーミングのサイズをネットワークトラフィック条件に合わせて調整できます。範囲は4～99999Kilobytes/秒 (KBps) です。

## DDNS

DDNSは、DHCPサーバーによって割り当てられた動的IPアドレスをホスト名にマッピングします。RCM KVM over IPは、一定の時間間隔でDDNSサーバーをそのIPアドレスで更新できます。RCM KVM over IPのDDNS機能を有効にするには、次の手順に従って操作を行ってください:

1. 「**有効にする**」の項目にチェックを入れてください。
2. DDNSサービスプロバイダーに登録したホスト名を入力してください。
3. リストをドロップダウンして、登録するDDNSサービスを選択してください。
4. DDNSサービスの認証に使うユーザーネームとパスワードを入力してください。
5. 「DDNS再試行時間」欄に、RCM KVM over IPがDDNSサーバーを更新するまでに待機する時間数を入力してください。



## ANMS

「ANMS」(Advanced Network Management Settings)画面では外部システムからのログイン認証および権限管理に関するセットアップを行います。これは複数のセクションに分かれており、各内容については、後続のセクションで説明します。

### イベントの宛先

このセクションでは、SMTP、ログサーバー、SNMPトラップ、およびSyslogサーバーの設定を行います。

| Event Destination                                                     | Authentication                            |
|-----------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------|
| <b>SMTP Settings</b>                                                  |                                           |
| <input type="checkbox"/> Enable report from the following SMTP Server |                                           |
| SMTP Server:                                                          | <input type="text"/>                      |
| Service Port:                                                         | <input type="text" value="25"/>           |
| <input type="checkbox"/> My server requires secure connection (SSL)   |                                           |
| <input type="checkbox"/> My server requires authentication            |                                           |
| Account Name:                                                         | <input type="text"/>                      |
| Password:                                                             | <input type="password"/>                  |
| From:                                                                 | <input type="text"/>                      |
| To:                                                                   | <input type="text"/>                      |
| <input type="checkbox"/> Report IP Address                            |                                           |
| <input type="checkbox"/> Report system reboot                         |                                           |
| <input type="checkbox"/> Report user login                            |                                           |
| <input type="checkbox"/> Report user logout                           |                                           |
| <b>Log Server</b>                                                     |                                           |
| <input type="checkbox"/> Enable                                       |                                           |
| MAC Address:                                                          | <input type="text" value="000000000000"/> |
| Service Port:                                                         | <input type="text" value="9001"/>         |
| <b>SNMP Trap</b>                                                      |                                           |
| <input type="checkbox"/> Enable                                       |                                           |
| Server IP:                                                            | <input type="text"/>                      |
| Service Port:                                                         | <input type="text" value="162"/>          |
| <b>Syslog Server</b>                                                  |                                           |
| <input type="checkbox"/> Enable                                       |                                           |
| Server IP:                                                            | <input type="text"/>                      |
| Service Port:                                                         | <input type="text" value="514"/>          |

## ■ SMTP設定

RCM KVM over IPからユーザーに対してSMTPサーバー経由で電子メールレポートを送るようするには、次の手順に従って操作を行ってください：

1. 「**次のSMTPサーバーからのレポートを有効にする**」の項目を有効にし、SMTPサーバーのIPアドレスとサービスポートをそれぞれ入力してください。
2. お使いのSMTPサーバーにSSL接続が必要な場合は、「**サーバーはセキュアな接続(SSL)が必要**」の項目にチェックを入れてください。
3. サーバーで認証が必要な場合は、「**サーバー認証が必要**」の項目にチェックを入れて、「**アカウント名**」と「**パスワード**」の各欄にお使いの環境に適した値を設定してください。
4. レポートの差出人となるメールアドレスを「**From**」欄に入力してください。

---

### 注意：

「From」欄に設定できるメールアドレスは1つだけです。また、アドレスは半角英字64文字以内で設定してください。

---

5. レポートの宛先となるメールアドレスを「**To**」欄に入力してください。

---

### 注意：

複数の宛先にレポートを配信する場合は、アドレスをセミコロンで区切ってください。また、アドレス全体で半角英字256文字以内になるように設定してください。

---

6. レポートに含める情報にチェックマークを入れてください。
  - ◆ IPアドレスを報告
  - ◆ システム再起動を報告
  - ◆ ユーザーログインを報告
  - ◆ ユーザーログアウトを報告

## ■ ログサーバー

RCM KVM over IPでは、ログインや内部ステータス・メッセージなどの重要な操作が、ログサーバー内の自動生成されたログファイルに保持されます。ログサーバーのセットアップの詳細については、第10章「ログサーバー」を参照してください。ログファイルについては、p.160で説明します。

ログサーバー機能を有効にする場合は「有効」にチェックを入れ、ログサーバーを実行するコンピューターの**MACアドレス**と**サービスポート**を指定してください。ログサーバーはログの詳細をリッスンします。

---

### 注意:

有効なポート範囲は1～65535です。デフォルトでは9001に設定されています。このポート番号は、プログラムポートで使用される番号とは異なるポートを指定してください(p.63「サービスポート」参照)。

---

## ■ SNMPトラップ

SNMPトラップイベントを通知するには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. 「**SNMPエージェントを有効にする**」の項目にチェックを入れてください。
2. SNMPトラップイベントの通知先となるコンピューターの**サーバーIP**と**サービスポート**を入力してください。ポート番号の有効な値の範囲は1～65535です。デフォルトは162です。

---

### 注意:

送信の対象となるSNMPトラップのイベントは、システム電源投入とログイン失敗、およびシステムリセットです。

---

## ■ Syslogサーバー

RCM KVM over IPで発生するすべてのイベントを記録し、Syslogサーバーに書き込むには、次の手順に従って操作を行ってください：

1. 「有効にする」の項目にチェックを入れてください。
2. SyslogサーバーのサーバーIPとサービスポートを入力してください。ポート番号の有効な値の範囲は1～65535です。デフォルトは514です。

## 認証

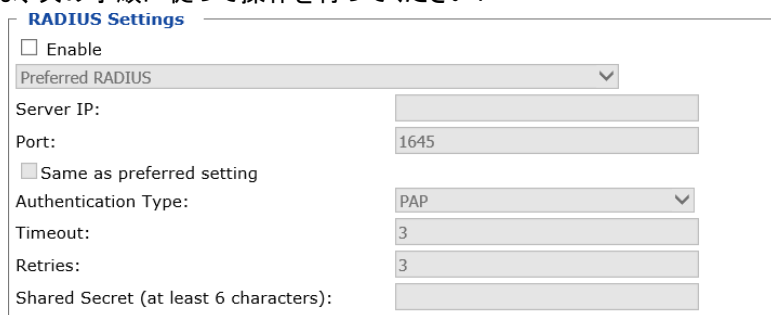
RCM KVM over IPは、外部プログラムを介したログイン認証と承認を可能にします。

この画面では、RADIUS、LDAP、およびCCデバイス統合管理を設定できます。

RCM KVM over IPのデバイス認証の代わりにRADIUS、LDAP、CC認証を使用する場合は、「**デバイス認証を無効にする**」を有効にしてください。このオプションを選択すると、RCM KVM over IPでローカルにログイン認証が無効になります。

### ■ RADIUS設定

RADIUSサーバーを介してRCM KVM over IPの認証と承認を許可するには、次の手順に従って操作を行ってください：



The image shows a 'RADIUS Settings' configuration window. It contains the following fields and options:

- ☐ Enable
- Preferred RADIUS (dropdown menu)
- Server IP: (text input field)
- Port: (text input field with value 1645)
- ☐ Same as preferred setting
- Authentication Type: (dropdown menu with value PAP)
- Timeout: (text input field with value 3)
- Retries: (text input field with value 3)
- Shared Secret (at least 6 characters): (text input field)

1. 「**有効にする**」の項目にチェックを入れてください。
2. ドロップダウンメニューをクリックして、優先RADIUSまたは代替RADIUSを設定する対象を選択してください。
3. サーバーの**IPアドレス**と**ポート番号**を入力してください。
4. 代替RADIUS(タイプ、タイムアウト、再試行、シークレット文字列)が優先と同じ場合は、「**優先設定と同じ**」を有効にしてください。
5. 「**タイムアウト**」欄で、RCM KVM over IPがRADIUSサーバーの応答を待機してからタイムアウトするまでの時間を秒単位で設定してください。

6. 「**再試行**」の項目に、RADIUSサーバーを使ったログインの再試行可能回数を設定してください。
7. 「**共有シークレット**」欄に、RCM KVM over IPとRADIUSサーバー間の認証に使用する文字列を入力します。

## ■ LDAP設定

LDAPまたはLDAPSによる認証および承認を可能にするには、Active DirectoryのLDAPスキーマを拡張し、RCMDVI101またはRCMVGA101/RCMDP101U/RCMHD101U-iKVM50userProfileまたはiKVM57-userProfileの属性名を個人クラスのオプション属性として追加する必要があります。

ユーザーは、「ターミナル」画面で`get`コマンドを実行することで、ユニットの属性名を見つけることができます。p.58を参照してください。

LDAPサーバーを設定するには、以下の手順を完了する必要があります。

1)Windowsサーバーサポートツールのインストール、2)Active Directoryスキーマスナップインのインストール、3)Active Directoryスキーマの拡張と更新

The screenshot shows the 'AD/LDAP Settings' window. It has a title bar with the text 'AD/LDAP Settings'. Inside, there is a checkbox for 'Enable'. Below it is a dropdown menu for 'Preferred LDAP'. Then there are input fields for 'Server IP:' and 'Port:' (with a default value of 0). There are two checkboxes: 'Same as preferred setting' and 'Server requires secure connection(SSL)'. Below these are input fields for 'Timeout:' (with a default value of 0), 'Admin DN:', 'Admin Name:', 'Password:', and 'Search DN:'.

LDAP/LDAPS経由でRCM KVM over IPの認証と権限設定を許可するには、次の表の情報を参照してください。

| 項目        | アクション                                                                      |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------|
| 有効にする     | LDAP/LDAPSによる認証および権限設定を行う場合は、この項目にチェックを入れてください。                            |
| 優先/代替LDAP | ドロップダウンメニューをクリックして、優先LDAPまたは代替LDAPを選択してください。                               |
| サーバーIP    | サーバーのIPアドレスとポート番号を入力してください。デフォルトのポート番号は、LDAPでは389、LDAPSでは636にそれぞれ設定されています。 |
| ポート       |                                                                            |
| タイムアウト(秒) | RCM KVM over IPがLDAPまたはLDAPSサーバーの応答を待機してからタイムアウトするまでの時間を秒単位で設定します。         |

|              |                                                                                                 |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アドミニストレーターDN | この項目はLDAPまたはLDAPSサーバーの管理者にご確認の上、設定してください。以下、設定例です。<br><br>cn=LDAPAdmin,ou=cn9600,dc=aten,dc=com |
|--------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|

| 項目          | アクション                                                                                                                                                                      |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アドミニストレーター名 | RCM KVM over IPの管理者ユーザーのグループ名を入力します。                                                                                                                                       |
| パスワード       | LDAPアドミニストレーターのパスワードを入力してください。                                                                                                                                             |
| サーチDN       | 検索ベースの識別名を設定してください。これはユーザーネームの検索を開始するDNS名です。<br><br>「認証を有効にする」がチェックされていない場合、この項目には、RCM KVM over IPのAdmin Groupが作成されるエントリーを含める必要があります。設定する値についてはLDAP/LDAPSサーバー管理者までご相談ください。 |

- ◆ RADIUSおよびLDAP設定には、次のキーワードを使用します。**su/[ユーザーネーム]** - ユーザーネームは、ローカルアカウントに存在する実際のユーザーアカウントを指定してください。
- ◆ RCMDVI101とRCMDGA101/RCMDP101U/RCMHD101Uでは、それぞれ**iKVM50-userProfile**と**iKVM57-userProfile**をLDAP属性として、**su/[ユーザーネーム]**を属性値として使用します。

## ■ CC管理の設定

CC (Control Center) サーバーを介したRCM KVM over IPの認証を許可するには、「CCサーバーのIPアドレスとリッスンするポートを有効にする」を有効にして、該当する項目に入力してください。

**CC Management**

☒ Enable  
Server IP:  Port:

### 注意:

「authentication」(認証)とはログインユーザーの信頼性を判断することを、また、「authorization」(権限設定)とはユーザーに対してデバイスの各種機能の使用権限を定義することを、それぞれ指しています。

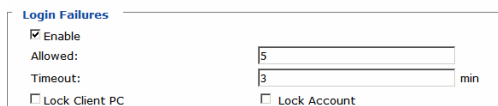


## セキュリティ

「セキュリティ」画面では、RCM KVM over IPへのアクセスを制御し、ログイン障害ポリシー、フィルター設定、暗号化設定、セキュリティレベル、動作モード、プライベート証明書および証明書署名要求を設定できます。

### ログイン失敗

セキュリティを強化するために、「ログイン失敗」セクションでは、ユーザーのログイン失敗を処理する際に適用されるポリシーを設定することができます。



|                                            |                                       |
|--------------------------------------------|---------------------------------------|
| Login Failures                             |                                       |
| <input checked="" type="checkbox"/> Enable |                                       |
| Allowed:                                   | 5                                     |
| Timeout:                                   | 3 min                                 |
| <input type="checkbox"/> Lock Client PC    | <input type="checkbox"/> Lock Account |

各項目の意味は以下のとおりです。

- ◆ ログイン失敗ポリシー: RCM KVM over IPが適用するログイン失敗ポリシーを選択します。

**クライアントPCのロック** - この項目を有効にすると、許可されている失敗回数を超えた後、ログインを試みるコンピューターが自動的にロックアウトされます。このコンピューターからのログインは拒否されます。デフォルトではこの項目が無効になっています。この機能はクライアントコンピューターのIPアドレスに基づいて処理されています。IPアドレスが変更されると、そのコンピューターはロックされなくなります。

**アカウントのロック** - この項目にチェックが入っていると、ログイン連続試行回数を超えてしまった場合に、そのアカウントは自動的に締め出され、失敗したユーザーネームとパスワードからのログインは拒否されてしまいます。デフォルトではこの項目が無効になっています。

- ◆ **許可** - リモートコンピューターからのログイン連続試行可能回数を設定します。デフォルトでは5回に設定されています。
- ◆ **タイムアウト** - ログイン連続試行回数を超えてしまった場合、次のログインを行うのに待機しなければならない時間(分)を設定します。デフォルトでは3分に設定されています。

---

## 注意:

「ログイン失敗」の項目を設定していないと、ユーザーは無制限で何度でもログインを試行することが可能になってしまいます。セキュリティ上の理由から、この機能を有効にし、ロックアウトポリシーを有効にすることを推奨します。

---

## フィルター

IPおよびMACフィルターは、接続を試みるコンピューターのIPアドレスおよび/またはMACアドレスに基づいて、RCM KVM over IPへのアクセスを制御します。フィルターはIP、MAC各フィルターともそれぞれ最大で100項目作成することができます。フィルターの設定が行われると、IPフィルターは上部のリストボックスに、MACフィルターは下部のリストボックスにそれぞれ表示されます。

The screenshot shows a window titled "Filter" with two sections for configuring filters. The top section is for IP filters, featuring a checkbox for "Enable IP Filter", radio buttons for "Include" (selected) and "Exclude", a large empty list box, and three buttons: "Add", "Modify", and "Delete". Below this is a "Login String:" label followed by an empty text input field. The bottom section is for MAC filters, featuring a checkbox for "Enable MAC Filter", radio buttons for "Include" and "Exclude" (selected), a large empty list box, and three buttons: "Add", "Modify", and "Delete".

IPおよび/またはMACによるフィルタリングを有効にするには、「IPフィルターを有効にする」または「MACフィルターを有効にする」の項目にチェックを入れてください。

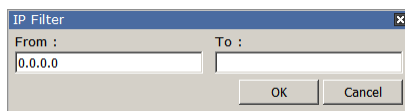
- 「含む」ボタンを選択すると、フィルター範囲内のすべてのアドレスがアクセスを許可され、それ以外のアドレスはすべて拒否されます。
- 「除く」ボタンを選択すると、フィルター範囲内におけるすべてのアドレスからのアクセスが拒否されますが、その他のアドレスはすべて許可され

ます。

## ■ フィルター項目の追加

IPアドレスのフィルター項目は以下の手順で追加してください。

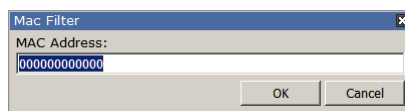
1. 「追加」ボタンをクリックし、フィルタリングの対象となるIPアドレスの範囲を入力したら「OK」をクリックしてください。



2. 他にもフィルター項目がある場合は、上記手順の操作を繰り返して設定してください。

MACアドレスのフィルター項目は以下の手順で追加してください。

1. 「追加」ボタンをクリックしてください。次のようなダイアログボックスが表示されます。



2. ダイアログボックスでMACアドレスを入力したら、「OK」ボタンをクリックしてください。
3. フィルタリングする追加のMACアドレスに対して、これらの手順を繰り返してください。

---

### 注意:

IPフィルターとMACフィルターの間に競合がある場合(コンピューターのIPアドレスがIPフィルターによって許可されている一方で、MACアドレスがMACフィルターによって除外されている場合など)、そのコンピューターのアクセスはブロックされます。つまり、どちらかのフィルターがブロックされていると、設定内容にかかわらず、そのコンピューターからのアクセスがブロックされるということになります。

---

## ■ フィルターの変更

フィルターを変更する場合は、対象となる項目をフィルターリストボックスから選択して、「**変更**」ボタンをクリックしてください。フィルター追加時に表示されるものと同様のダイアログボックスが表示されますので、古いアドレスを削除して新しいアドレスに変更してください。

## ■ フィルターの削除

フィルターを削除する場合は、対象となる項目をフィルターリストボックスから選択して、「**削除**」ボタンをクリックしてください。

また、「フィルター」セクションでは、ユーザーがブラウザーを使用してRCM KVM over IPにアクセスするときに(IPアドレスの後に)追加する必要があるログイン文字列を指定できます。次に例を示します。

192.168.0.126/RCM KVM over IP Switch

- ◆ 以下の文字は使用可能です。

0-9 a-z A-Z ~ ! @ \$ % ^ & \* ( ) \_ + ' - = [ ] { } ; ' < > , . |

- ◆ 以下の文字は使用できません:

- ◆ % " : / ? # ¥ [スペース]
- ◆ 複合文字(É Ç Ì … など)

---

### 注意:

1. IPアドレスと文字列の間にはスラッシュが必要です。
  2. ここでログイン文字列が指定されていない場合、誰でもIPアドレスのみを使用してRCM KVM over IPのログイン画面にアクセスできます。これにより、お使いのシステムの安全性が低下することになります。セキュリティ上の理由から、この文字列を定期的に変更することを推奨します。
-

## 暗号化

本製品では、キーボード/マウス、ビデオ、バーチャルメディアデータの各信号を柔軟に暗号化できるオプションを提供しており、いずれの信号もそれぞれDES、3DES、AES、RC4、ランダムを自由に組み合わせて設定することができます。

| Encryption                   |                               |                              |                              |                                 |
|------------------------------|-------------------------------|------------------------------|------------------------------|---------------------------------|
| Keyboard/Mouse               |                               |                              |                              |                                 |
| <input type="checkbox"/> DES | <input type="checkbox"/> 3DES | <input type="checkbox"/> AES | <input type="checkbox"/> RC4 | <input type="checkbox"/> Random |
| Video                        |                               |                              |                              |                                 |
| <input type="checkbox"/> DES | <input type="checkbox"/> 3DES | <input type="checkbox"/> AES | <input type="checkbox"/> RC4 | <input type="checkbox"/> Random |
| Virtual Media                |                               |                              |                              |                                 |
| <input type="checkbox"/> DES | <input type="checkbox"/> 3DES | <input type="checkbox"/> AES | <input type="checkbox"/> RC4 | <input type="checkbox"/> Random |

暗号化を有効にすると、システムのパフォーマンスに影響します。暗号化を有効にしないと、最高のパフォーマンスが得られますが、暗号化を有効にすると、悪影響が大きくなります。暗号化を有効にする場合は、パフォーマンスに与える影響を一読の上、お使いの環境に最適な設定を行ってください。注意点は下記のとおりです。

- ◆ パフォーマンスに与える影響が最も少ない暗号化はRC4で、その後はDES、3DES、またはAESの順に影響が大きくなります。
- ◆ 複数の暗号化を組み合わせて使う場合、最もシステムに与える影響が小さい組み合わせはRC4とDESです。

## セキュリティーレベル

セキュリティーを強化するために、「高」、「中高」、「中」または「カスタム」のラジオボタンを選択してください。

**Security Level**

☐ High

☐ Medium-high

☒ Medium

☐ Custom:

☒ Enable ICMP service

☐ Enable Telnet service

☒ Enable SSH session

☒ Enable HTTP session

☒ Enable HTTPS session

TLS 1.0,1.1,1.2 ▼

Note: you can use either HTTP or HTTPS to log in. If you disable both of them, you can use Client AP to log in.

1. 高 – SSHv2、HTTPS(TLS v1.2)を除く、すべてのサービスを無効にします。
2. 中高 – SSHv2、HTTPからHTTPSへのリダイレクト、HTTPS(TLS v1.2)、ICMPを有効にします。
3. 中 – SSHv2を有効にし、HTTPをHTTPS、HTTPS(TLS v1.0、1.1、1.2)、ICMPにリダイレクトします(デフォルト)
4. カスタム – 次のセキュリティーオプションから適用したい項目にチェックを入れてください。
  - ◆ ICMPサービスを有効にする
  - ◆ Telnetサービスを有効にする
  - ◆ SSHセッションを有効にする
  - ◆ HTTPセッションを有効にする
  - ◆ HTTPSセッションを有効にする(「TLS1.2」、「TLS1.0,1.1,1.2」のいずれかから選択)

## 動作モード

このセクションでは動作モードのパラメーターを設定します。

### Working Mode

- ☐ Enable FIPS
- ☒ Enable Multiuser Operation
- ☒ Enable Virtual Media Write
- ☐ Disable Authentication

- ◆ FIPSセキュリティ規格では「**FIPSを有効する**」の項目にチェックを入れてください。デフォルトでは**無効**に設定されています。
- ◆ 複数のユーザーが同一のRCM KVM over IPに同時ログインできるようにするには、「**マルチユーザーによる操作を有効にする**」の項目にチェックを入れてください。デフォルトでは**有効**に設定されています。
- ◆ 「**バーチャルメディア書き込みを有効にする**」の項目にチェックを入れると、ユーザーシステムのリダイレクトされたバーチャルメディアデバイスから、リモートサーバーにデータを送信できるだけでなく、リモートサーバーからデータを書き込むこともできます。デフォルトでは**有効**に設定されています。
- ◆ 「**認証を無効にする**」の項目にチェックを入れると、ユーザーのログイン認証を行いません。ユーザーは、ユーザーネームとパスワードの組み合わせを入力するだけで、RCM KVM over IPに管理者としてアクセスできます。デフォルトでは**無効**に設定されています。

---

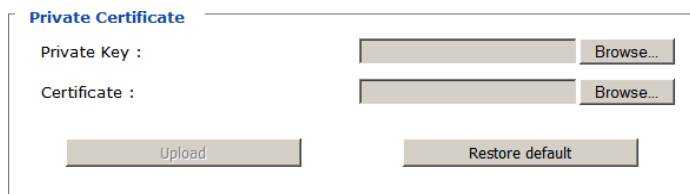
### 注意:

この設定を有効にすることは、セキュリティ面において極めて危険な影響を及ぼすことがありますので、特別な環境以外では設定しないようにしてください。

---

## プライベート証明書

SSL接続でログインすると、ユーザーが意図するサイトにログインしようとしているかどうかを検証するために署名済み証明書が使われます。デフォルトのATEN証明書をを使うのではなく、このセクションで自分のプライベート暗号キーと署名済み証明書を扱うように設定することで、セキュリティを強化することができます。

A screenshot of a web interface titled "Private Certificate". It contains two rows of input fields. The first row is labeled "Private Key :" and the second row is labeled "Certificate :". Each row has a text input field followed by a "Browse..." button. At the bottom of the form, there are two buttons: "Upload" on the left and "Restore default" on the right.

プライベート証明書を発行するには、自己署名された証明書を作成する方法と、サードパーティーの証明局(CA)によって署名された証明書をインポートする方法の2つの方法があります。

### 自己署名済み証明書の作成

独自の自己署名証明書を作成する場合は、無料ユーティリティー(openssl.exe)- Web経由でダウンロード可能です。OpenSSLを使って独自のプライベートキーとSSL証明書を作成する方法の詳細については、p.18「自己署名(プライベート)証明書」を参照してください。

### CA署名済みSSLサーバー証明書の取得

セキュリティを強化するために、サードパーティーの認証局(CA)によって署名された証明書を使うことを推奨します。サードパーティーによって署名された証明書を取得する場合は、認証局のWebサイトにアクセスし、SSL証明書を申請してください。認証局から証明書が送られて来たら、この証明書をお使いのコンピューターの適当なフォルダーに保存してください。

### プライベート証明書のインポート

プライベート証明書をインポートする場合は、下記の手順に従って操作し



てください。

1. 「**プライベートキー**」の右側にある「**参照**」ボタンをクリックして、プライベート暗号キーのファイルがあるフォルダーに移動し、このファイルを選択してください。
2. 「**証明書**」の右側にある「**参照**」ボタンをクリックして、証明書のファイルがあるフォルダーに移動し、このファイルを選択してください。
3. 「**アップロード**」ボタンをクリックして操作を完了してください。

---

**注意:**

プライベート暗号キーと署名済証明書は同時にインポートしてください。

---

## 証明書署名要求

証明書署名要求のセクションでは、CA署名済みSSLサーバー証明書の取得とインストールを自動的に行います。

Certificate Signing Request

Certificate :

Browse...

Create CSR

Get CSR

Upload

Remove CSR

この操作を実行するには、次の手順に従って操作を行ってください。

- 1. 「CSRの作成」をクリックしてください。下図のようなダイアログボックスが表示されます。

Certificate Signing Request

Country (2 letter code):

State or Province:

Locality:

Organization:

Unit:

Common Name:

Email Address:

Create

Close

- 2. お使いの環境で有効な値を、項目に入力してください。下記に例を示します：

| 情報         | 例                                                                                                                                       |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 国(2文字のコード) | TW                                                                                                                                      |
| 州または都道府県   | Taiwan                                                                                                                                  |
| 市区町村       | Taipei                                                                                                                                  |
| 組織         | Your Company, Ltd.                                                                                                                      |
| 部署         | Techdoc Department                                                                                                                      |
| コモンネーム     | mycompany.com<br>ここには証明書を有効にしたいサイトのドメイン名を正確に入力する必要があります。例えば、サイトのドメイン名が「www.mycompany.com」で、「mycompany.com」だけしか入力なかった場合、この証明書は有効にはなりません。 |
| メールアドレス    | administrator@yourcompany.com                                                                                                           |

3. フォームへの入力(全項目への入力が必要)が完了したら、「作成」をクリックしてください。

ここで提供した情報に基づく自己署名証明書は、RCM KVM over IPの内部に保存されます。

4. 「CSRを取得する」をクリックし、証明書ファイル(csr.cer)をお使いのコンピュータの適当なフォルダーに保存してください。

これは、署名済みSSL証明書の申請の際にサードパーティーの認証局へ提出が必要となるファイルです。

5. 認証局から証明書が送られて来たら、この証明書をお使いのコンピュータの適当なフォルダーに保存してください。「参照」をクリックしてファイルを見つけ、「アップロード」をクリックしてRCM KVM over IPに保存してください。

---

**注意:**

ファイルをアップロードすると、RCM KVM over IPはファイルをチェックして、指定された情報が引き続き一致しているかどうかを確認します。もし、一致しているのであれば、このファイルを受け入れます。一致しなければこのファイルを拒否します。

---

証明書を削除する場合(ドメイン名の変更などにより新しい証明書に置き換える場合)は、「CSRを削除」をクリックしてください。

## コンソール管理

このセクションでは、OOBC (Out of Band Configuration) またはシリアル接続を介して RCM KVM over IP コンソールを開く方法について説明します。

### OOBC

この機能を使用するには、シリアルデバイスを CPU COM (RS-232C DTE) ポートに接続する必要があります。

RCM KVM over IP に LAN ベースの方法でアクセスできない場合は、製品本体のモデムポート経由でアクセスできます。PPP (モデム) 動作を有効にするには、「**帯域外アクセスを有効にする**」の項目にチェックを入れてください。

OOBC (COM CPU) Serial Console (COM CPU)

**PPP Settings**

☐ Enable Out of Band Access

**Dial Back**

☐ Enable Dial Back

☒ Enable Fixed Number Dial Back

Phone Number:

☐ Enable Flexible Dial Back

Use dial back phone number for the Username

Password:

**Dial Out**

☐ Enable Dial Out

**ISP Settings**

Phone Number:

Account Name:

Password:

**Dial Out Schedule**

☒ Every:   :

☐ Daily at:  :

PPP online time:  minute(s)

**Emergency Dial Out**

☒ PPP stays online until network recovery

☐ PPP online time:  minute(s)

**Dial Out Mail Configuration**

SMTP Server IP Address:

Service Port:

☐ SMTP server requires secure connection (SSL)

☐ SMTP server requires authentication

Account Name:

Password:

Email From:

To:

## ■ PPP設定

アウトオブバンドアクセスを有効にすると、「**ダイヤルバックを有効にする**」と「**ダイヤルアウトを有効にする**」の各項目が使用可能になります。内容については、以下のセクションで説明します。

### ダイヤルバック

この機能を有効にすると、本製品はダイヤルイン中の通話を切断し、次のオプションに従ってダイヤルバックを行います。

**Dial Back**  
☐ Enable Dial Back  
☒ Enable Fixed Number Dial Back  
Phone Number:   
☒ Enable Flexible Dial Back  
Use dial back phone number for the Username  
Password:

- ◆ **固定番号ダイヤルバックを有効にする:**有効にすると、RCM KVM over IPは着信コール中にモデムをハングアップし、「電話番号」欄で電話番号が指定されているモデムにダイヤルバックします。

「**電話番号**」欄に、RCM KVM over IPがダイヤルバックするモデムの電話番号を入力してください。

- ◆ **フレキシブルダイヤルバックを有効にする:**有効にすると、RCM KVM over IPはユーザーに便利なモデムにダイヤルバックします。

「**パスワード**」欄に、ユーザーが指定する必要があるパスワードを入力してください。

RCM KVM over IPのモデムに接続する場合、ユーザーは、RCM KVM over IPがダイヤルバックするモデムの電話番号をユーザーネームとして指定し、パスワードのパスワード欄に設定されているパスワードを指定します。

## ダイヤルアウト

ダイヤルアウト機能を使用する場合は、ISP（インターネットサービスプロバイダー）と契約を結び、このISPで発行されたアカウントに対して、モデム経由でダイヤルアップ接続してください。ダイヤルアウトを有効にする項目の説明を以下の表に示します。

**Dial Out**

☒ Enable Dial Out

**ISP Settings**

Phone Number:

Account Name:

Password:

**Dial Out Schedule**

☒ Every:

☐ Daily at:  :

PPP online time:  minute(s)

**Emergency Dial Out**

☒ PPP stays online until network recovery

☐ PPP online time:  minute(s)

**Dial Out Mail Configuration**

SMTP Server IP Address:

Service Port:

☒ SMTP server requires secure connection (SSL)

☐ SMTP server requires authentication

Account Name:

Password:

Email From:

To:

- ◆ **ISP設定:**ISPへの接続に使用する電話番号、アカウント名（ユーザーネーム）、パスワードを指定します。
- ◆ **ダイヤルアウトスケジュール:**この項目は、RCM KVM over IPがISP接続経由でダイヤルアウトする時間を設定します。
  - 「繰り返し」では、1～4時間ごとに定時で実行するように設定できます。
    - ◆ （例えば）「2時間おき」を選択した場合、RCM KVM over IPは00:00から2時間おきにダイヤルアウトを開始します。

- ◆ RCM KVM over IPを固定スケジュールでダイヤルアウトしない場合は、リストから「しない」を選択してください。
- 「毎日」のラジオボタンを選択すると、指定された時刻に日次でダイヤルアウト接続を行います。時刻の時と分をセミコロンで区切り、「hh:mm」のフォーマットで設定してください。
- 「PPPオンライン時間」欄では、セッションが終了し、モデムとの接続を切断するまでISP接続のオンライン状態を持続する時間を設定します。0を設定すると、常にオンラインになります。
- ◆ **緊急ダイヤルアウト**: RCM KVM over IPがネットワークから切断された場合、またはネットワークがダウンした場合、この機能はISPダイヤルアップ接続を介して本機をオンラインにします。
  - 「ネットワークが回復するまでPPPはオンライン状態を維持」を選択した場合、ネットワークが回復するか、スイッチが再接続するまで、ISPへのPPP接続はオンラインのままになります。
  - 「PPPオンライン時間」を選択すると、ISPへの接続は指定された時間後に終了します。0を設定すると、常にオンラインになります。
- ◆ **ダイヤルアウトメール設定**: このセクションでは、RCM KVM over IPのポートに接続されているデバイスで発生した問題の電子メール通知を提供します。

---

#### 注意:

このメール通知機能は、社内のメールサーバーではなくISPのメールサーバーを使って処理を行うため、SMTP設定での通知機能とは若干異なります。

---

- 「SMTPサーバーIPアドレス」欄にSMTPサーバーのIPv4アドレス、IPv6アドレス、またはドメイン名を入力し、「サービスポート」欄に対応するポートを入力してください。
- サーバーにSSL接続する必要がある場合は、「SMTPサーバーはセキュアな接続が必要」の項目にチェックを入れてください。
- サーバーで認証が必要とされる場合は、「SMTPサーバーは認証

が必要」にチェックを入れて、認証に適切なアカウントネームとパスワードを該当欄に入力してください。

- 「Email From」欄に、SMTPサーバーの責任者またはアドミニストレーターと同等の権限を持ったユーザーのメールアドレスを入力してください。
- 「To」欄に、宛先となるメールアドレスを入力してください。複数のアドレスに送信する場合は、コンマまたはセミコロンでアドレスを区切ってください。



## シリアルコンソール

この機能を使用するには、シリアルデバイスをローカルコンソールCOM (RS-232C DCE)ポートに接続する必要があります。

RCM KVM over IPが接続されたシリアルデバイスと対話するように構成するには、「ポートのプロパティ設定」でデバイスのパラメーターと一致するようにパラメーターを設定する必要があります。

OOBC    **Serial Console(COM1)**

Port Property Settings:

Bits per second: 115200    Data bits: 8

Parity: None    Stop bits: 1

Flow control: None

☐ Enable Serial Port Bypass

**Port Alert Settings:**

Alert String 1:

Alert String 2:

Alert String 3:

Alert String 4:

Alert String 5:

Alert String 6:

Alert String 7:

Alert String 8:

Alert String 9:

Alert String 10:

接続したシリアルコンソールデバイスで使用している値に合致するものを選択してください。RCM KVM over IPがサポートするポートのプロパティ設定は、次のとおりです:

- ◆ **ボーレート:** ポートのデータ転送速度を設定します。選択肢は300～115200です(すべてを表示するには、ドロップダウンメニューを使用してください)。この設定は、シリアルコンソールデバイスのボーレート設定に合わせてください。デフォルト値は115200(大半のシリアルデバイスにおける基本設定)です。
- ◆ **データビット:** データ1文字を転送するのに使用されるビット数を設定します。設定できる値は、7または8です。この設定は、シリアルコンソールデバイスのデータビット設定に合わせてください。デフォルトでは(大半

のシリアルコンソールデバイスにおけるデフォルト設定である)8に設定されています。

- ◆ **パリティ:**このビットは、送信データの整合性をチェックします。設定できる値は、「無」、「奇数」、「偶数」です。この設定は、シリアルコンソールデバイスのパリティ設定に合わせてください。デフォルトでは「無」に設定されています。
- ◆ **ストップビット:**文字が送信されたことを示すものです。この設定は、シリアルコンソールデバイスのストップビット設定に合わせてください。設定できる値は、1または2です。デフォルトでは、(大半のシリアルコンソールデバイスにおけるデフォルト設定である)1に設定されています。
- ◆ **フローコントロール:**データフローの制御方法を選択できます。設定できる値は、「無」、「ハードウェア」、「XON/XOFF」です。この設定は、シリアルコンソールデバイスにおけるフローコントロールの設定に合わせてください。デフォルトでは「無」に設定されています。

---

**注意:**

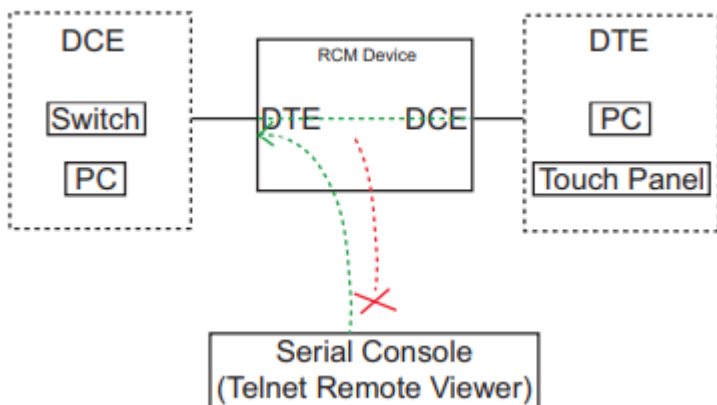
「無」は9600以下のボーレートでのみサポートされます。ボーレートが9600を超える場合は、「ハードウェア」または「XON/XOFF」を選択してください。

---

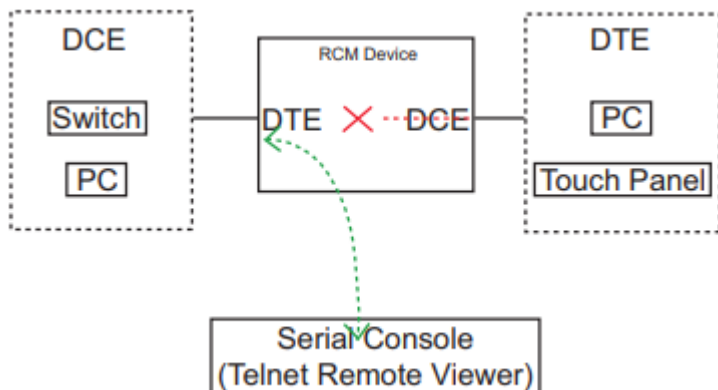
- ◆ **シリアルポートバイパスを有効にする:**シリアルポートバイパスを有効にする場合はチェックを入れ、無効にする場合はチェックを外してください。この機能を有効にすると、接続されたDTEデバイスがDCEデバイスを制御(ローカル制御)することが可能になり、シリアルコンソール制御(リモート制御)がシリアルデータを受信しなくなります。

シリアルポートバイパスの有効/無効を説明する簡単な図を示します：

### シリアルポートのバイパスを有効にする場合(ローカル制御)



### シリアルポートのバイパスを無効にする場合(リモート制御)



---

#### 注意：

RCMシリーズでは、「シリアルポートバイパスを有効にする」モードが常に有効に設定されています。「ポート警告設定」は無効になります。

---

- ◆ **ポート警告設定**: 最大10種類のイベントを指定できます(例: Power On)。「警告文字列(1~10)」欄に入力してください。

## 日付/時刻

「日時」ダイアログ画面は、RCM KVM over IPの時刻パラメーターを設定します：

**Time Zone**

(GMT-12:00) Eniwetok Kwajalein

☐ Daylight Savings Time

**Date**

March < 2013 >

March 2013

| Su | Mo | Tu | We | Th | Fr | Sa |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 3  | 4  | 5  | 6  | 7  | 1  | 2  |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 31 |    |    |    |    |    |    |

**Time**

20 : 32 : 03

Set

**Network Time**

☒ Enable auto adjustment

Preferred time server

AU | ntp1.cs.mu.OZ.AU

☐ Preferred custom server IP

☐ Alternate time server

AU | ntp1.cs.mu.OZ.AU

☐ Alternate custom server IP

Adjust time every 1 days

Adjust Time Now

パラメーターは下記を参考にしながら設定してください。

## タイムゾーン

- ◆ ドロップダウンメニューを使用して、現在地に最も近い都市を選択してください。
- ◆ この場所が属している国または地域がサマータイムを導入している場合は、「サマータイム」の項目にチェックを入れてください。

## 日付/時刻

- ◆ ドロップダウンリストから適切な月を選択してください。
- ◆ 前の年に移動する場合は「<」を、次の年に移動する場合は「>」をそれぞれクリックしてください。

- ◆ カレンダーから適切な日をクリックしてください。
- ◆ 時刻は24時間制で「HH:MM:SS」のフォーマットで入力してください。
- ◆ 設定内容を保存する場合は「**設定**」ボタンをクリックしてください。

## ネットワーク時刻

時刻をネットワークタイムサーバーに自動同期させる場合は、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. 「**自動調整を有効にする**」の項目にチェックを入れてください。
2. ドロップダウンメニューをクリックして、希望のタイムサーバーをタイムサーバーリストから選択してください。  
- または -  
「**優先カスタムサーバーIP**」を有効にして、チェックしたタイムサーバーのIPアドレスを入力します。
3. 代替タイムサーバーを設定する場合は、「**代替タイムサーバー**」の項目にチェックを入れて、手順2の要領で代替タイムサーバーに関するパラメーターを設定してください。
4. 時刻同期を行う間隔となる日数を、「**n日おきに調整する**」の項目に入力してください。
5. 時刻調整をすぐに実行する場合は、「**今すぐ時刻調整**」ボタンをクリックしてください。

## カスタマイズ

このセクションでは、さらにカスタマイズ可能なオプションについて説明します。

|                                                                  |  |
|------------------------------------------------------------------|--|
| <b>Mode</b>                                                      |  |
| <input type="checkbox"/> Force All to Grayscale                  |  |
| <input checked="" type="checkbox"/> Enable Client AP Device List |  |

|                        |               |
|------------------------|---------------|
| <b>USB IO Settings</b> |               |
| OS:                    | Win           |
| Language:              | US English    |
| Mode:                  | Virtual Media |

|                        |               |
|------------------------|---------------|
| <b>Multiusers Mode</b> |               |
| Multiusers Mode:       | Share         |
| Occupy Timeout:        | 3 sec (0-255) |

|                   |      |
|-------------------|------|
| <b>Exit Macro</b> |      |
|                   | None |

|                                        |                                       |
|----------------------------------------|---------------------------------------|
| <b>Reset</b>                           |                                       |
| <input type="checkbox"/> Reset on exit | <button>Reset Default Values</button> |

## モード

「すべてグレースケールに強制表示」の項目にチェックを入れると、この機能を有効にします。有効にすると、RCM KVM over IPに接続されているすべてのクライアントのリモート表示がグレースケールに変更されます。これにより、帯域幅が低い状況でI/O転送を高速化することができます。

「アプリケーションのデバイス一覧を有効にする」の項目にチェックを入れると、この機能を有効にします。有効にすると、WinクライアントまたはJavaクライアントAPを使用するとき、ユニットがサーバーリストで検出可能になります (p.108「起動」参照)。この機能を無効にすると、サーバーリストでユニットが検出不能になりますが、接続は可能です。

## USB IO設定

**OS:** 接続ポートのサーバーが使用しているOSを設定します。オプションはWin、Mac、Sun、その他です。デフォルトはWinです。

**言語:** 接続ポートのサーバーが使用しているOSの言語を設定します。利用可能な項目を参照するにはリストをドロップダウンしてください。デフォルトは英語(US)です。

**モード:** ドロップダウンメニューでは、システムでバーチャルメディアを受け入れるかどうか(詳細についてはp.132「バーチャルメディア」を参照)、またはLUCポート経由でローカルラップトップUSBコンソール(LUC)にアクセスするかどうか(p.156「ラップトップUSBコンソール(LUC)」参照)を選択できます。

## マルチユーザーモード

**マルチユーザーモード:** 複数のユーザーがログインした際にどのようにポートがアクセスされるかを、下記のように設定します。

- ◆ **排他:** ポートに最初に切り替えたユーザーは、そのポートに対して排他的に制御することができます。他のユーザーはこのポートを参照することができません。
- ◆ **占有:** 最初にポートに切り替えたユーザーが操作を独占できますが、他のユーザーもそのポートのビデオ出力を参照することができます。
- ◆ **共有:** 複数のユーザーで同時にポートを共有して操作することができます。ユーザーからの入力はキューに格納され、古いものから順に実行されます。この設定でお使いの場合、ユーザーはメッセージボード機能を使うことで、共有ポートにおけるキーボードとマウス、またはキーボード/マウス/ビデオ操作の競合を避けることができます(p.129「メッセージボード」参照)。

**占有タイムアウト:** ここで指定した時間内にユーザー入力がない場合、制御権は解放され、次にマウスまたはキーボードを使用したユーザーに転送されます。

## 終了マクロ

ドロップダウンメニューをクリックして、使用するユーザー作成のシステム終了マクロを選択したら、「**保存**」をクリックしてください。終了マクロの作成の詳細については、p.123「システムマクロ」を参照してください。

## リセット

「**デフォルト値のリセット**」をクリックして、RCM KVM over IPをデフォルトのシステム設定にリセットします。

ログアウト後にデバイスを再起動する場合は、「**終了時にリセット**」の項目にチェックを入れてください。



## 設定

次のセクションでは、ユーザー設定、ログ情報、リモートコンソール、ダウンロード画面など、このセクションで説明する管理ユーティリティについて説明します。

### ユーザー設定

「ユーザー設定」画面では、デバイスのパスワードおよび各種パラメーター（言語、OSD、ログアウトタイムアウト、ビューワーなど）を設定することができます。

Settings

Language: English

OSD Hotkey: [Scroll Lock] [Scroll Lock]

Logout Timeout: 30 min

☐ Launch viewer after login

Viewer:

- #1 Web Client
- #2 Win Client
- #3 Java Client

Save

Old Password:

New Password:

Confirm Password:

Change Password...

#### ■ 言語

ドロップダウンメニューをクリックして、インターフェースの表示言語を選択してください。

#### ■ OSDホットキー

OSD機能呼び出すキーボードの組み合わせを選択してください。

#### ■ ログアウトタイムアウト

セッションがアイドル状態の場合、ここで設定した時間によって、RCM KVM over IPがセッションを終了するまでの待機時間が決まります。

#### ■ ビューワー

リモートサーバーのディスプレイを参照するときに使用するビューワーの検出順序を選択してください。

- ◆ 変更を有効にするには、「**保存**」をクリックしてください。

## ■ パスワード

以下の欄を使用して、パスワードを変更してください。

- ◆ **旧パスワード**: 旧パスワードを入力してください。
- ◆ **新パスワード**: 新パスワードを入力してください。
- ◆ **確認用パスワード**: 新パスワードをもう一度入力してください。設定内容を適用するには、「**パスワードの変更**」をクリックしてください。

## ログ

RCM KVM over IPは、そのスイッチで発生したすべてのイベントをログに記録します。リセットすると、すべてのログがクリアされます。ログを参照するには「**ログ情報**」をクリックしてください：

| Time                                     | Severity | User          | Log Information                                                                              |
|------------------------------------------|----------|---------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 2019/12/18 09:58:12                      | Least    | System        | OP: User administrator from 10.3.41.138 (94-C6-91-9B-2F-4D) attempting to login via browser. |
| 2019/12/18 09:27:46                      | Least    | System        | OP: User administrator from 10.3.41.138 (94-C6-91-9B-2F-4D) attempting to login via browser. |
| 2019/12/17 18:34:23                      | Least    | System        | OP: Session of user administrator (10.3.41.138 94-C6-91-9B-2F-4D) has expired.               |
| 2019/12/17 18:33:34                      | Least    | System        | OP: Session of user administrator (10.3.41.138 94-C6-91-9B-2F-4D) has expired.               |
| 2019/12/17 18:20:52                      | Least    | System        | OP: Session of user administrator (10.3.41.138 94-C6-91-9B-2F-4D) has expired.               |
| 2019/12/17 18:18:51                      | Least    | System        | OP: User administrator from 10.3.41.138 (94-C6-91-9B-2F-4D) attempting to login via browser. |
| 2019/12/17 14:44:30                      | Least    | System        | OP: Session of user administrator (10.3.200.41 00-08-E3-FF-FC-04) has expired.               |
| 2019/12/17 14:39:05                      | Least    | System        | OP: User administrator from 10.3.200.41 (00-08-E3-FF-FC-04) attempting to login via browser. |
| 2019/12/17 09:45:05                      | Least    | System        | OP: User administrator from 10.3.41.138 (94-C6-91-9B-2F-4D) attempting to login via browser. |
| 2019/12/17 09:45:13                      | Least    | System        | OP: User administrator from 10.3.41.138 (94-C6-91-9B-2F-4D) attempting to login via browser. |
| 2019/12/16 18:34:58                      | Least    | System        | OP: Session of user administrator (10.3.41.138 94-C6-91-9B-2F-4D) has expired.               |
| 2019/12/16 18:31:57                      | Least    | System        | OP: Session of user administrator (10.3.41.138 94-C6-91-9B-2F-4D) has expired.               |
| 2019/12/16 11:02:59                      | Least    | System        | OP: User administrator from 10.3.41.138 (94-C6-91-9B-2F-4D) attempting to login via browser. |
| 2019/12/16 10:46:37                      | Least    | System        | OP: Session of user administrator (10.3.41.55 E0-D8-55-C1-19-34) has expired.                |
| 2019/12/16 10:43:41                      | Least    | System        | OP: User administrator from 10.3.41.55 (E0-D8-55-C1-19-34) attempting to login via browser.  |
| 2019/12/16 09:47:55                      | Least    | System        | OP: User administrator from 10.3.41.138 (94-C6-91-9B-2F-4D) attempting to login via browser. |
| 2019/12/13 18:36:19                      | Least    | System        | OP: Session of user administrator (10.3.41.138 94-C6-91-9B-2F-4D) has expired.               |
| 2019/12/13 18:38:12                      | Least    | System        | OP: Session of user administrator (10.3.41.138 94-C6-91-9B-2F-4D) has expired.               |
| 2019/12/13 18:08:27                      | Least    | administrator | SYS: User administrator backup system configuration.                                         |
| 2019/12/13 17:34:11                      | Least    | administrator | DM: User administrator modified account policy.                                              |
| 2019/12/13 17:23:08                      | Least    | administrator | DM: User administrator modified account policy.                                              |
| 2019/12/13 16:38:03                      | Least    | administrator | UM: User administrator deleted user adminst account.                                         |
| 2019/12/13 16:37:51                      | Least    | administrator | UM: User administrator create account for user adminst2                                      |
| 2019/12/13 16:37:43                      | Least    | administrator | UM: User administrator create account for user adminst                                       |
| 2019/12/13 16:12:45                      | Least    | System        | OP: User administrator from 10.3.41.138 (94-C6-91-9B-2F-4D) attempting to login via browser. |
| 2019/12/13 15:05:13                      | Least    | System        | OP: User administrator from 10.3.41.138 (94-C6-91-9B-2F-4D) attempting to login via browser. |
| 2019/12/13 15:04:49                      | Least    | System        | OP: User administrator from 10.3.41.138 (94-C6-91-9B-2F-4D) logged out via browser.          |
| 2019/12/13 14:35:19                      | Least    | System        | OP: Session of user administrator (10.3.200.111 00-08-E3-FF-FC-04) has expired.              |
| 2019/12/13 11:39:13                      | Least    | System        | OP: Session of user administrator (10.3.41.124 1A-2B-3C-4D-67-DB) has expired.               |
| 2019/12/13 11:16:12                      | Least    | administrator | SYS: End session for user administrator.                                                     |
| <input type="button" value="Clear Log"/> |          |               |                                                                                              |

最大1024のイベントがログファイルに保持されます。新しいイベントが記録されると、リストの一番下に書き込まれます。ログファイルに1024件のイベントが記録された後に新しいイベントが記録されると、リスト内の最も古いイベントは破棄されます。

---

### 注意：

（直近の1024件だけでなく）発生したすべてのイベントの記録を保持して参照するには、ログサーバーAPプログラムを設定してください。詳細はp.160「ログサーバー」を参照してください。

---

ログファイルを消去するには、画面の右下にある「**ログのクリア**」アイコンをクリックしてください。

## リモートコンソール

このセクションでは、リモートコンソール関連の設定オプションについて説明します。

### リモートコンソールプレビュー

この画面のプレビューには、サーバーの表示のスナップショットが次のように表示されます。



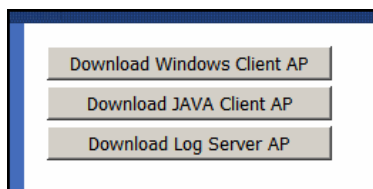
リモートディスプレイのスナップショットを更新するには、「更新」をクリックしてください。

### Telnetビューワー

シリアルコンソールが有効で、ユーザーがTelnetのアクセス権限を持っている場合、リモートコンソール画面に「Telnetクライアントを開く」ボタンが表示されます。組み込みのTelnetクライアントAPを起動するには、このボタンをクリックしてください。

## ダウンロード

ダウンロード画面では、スタンドアロン版のWindowsクライアントAP、JavaクライアントAPおよびログサーバーAPをダウンロードすることができます。

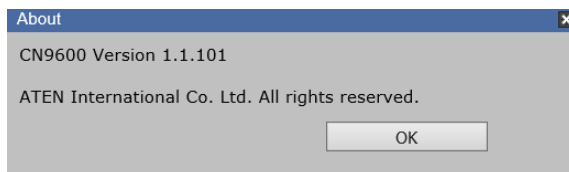


1. ダウンロードしたいAPのボタンをクリックしてください。
2. 画面の指示に従ってインストールを完了し、デスクトップにプログラムのアイコンを置いてください。
  - ◆ WindowsクライアントAPおよびJavaクライアントAPに関する詳細は、p.105「第6章 リモートサーバーへのアクセス」を参照してください。
  - ◆ ログサーバーAPに関する詳細は、p.160「第10章 ログサーバー」を参照してください。

## バージョン情報

---

「バージョン情報」をクリックすると、RCM KVM over IPの現在のファームウェアバージョンと著作権情報が表示されます。



## ビューワー

---

「ビューワー」アイコンをクリックすると、リモートクライアント(Webクライアント、Winクライアント、またはJavaクライアント)が呼び出され、リモートサーバーが別のウィンドウに表示されます。

「ビューワー」アイコンをクリックしてから1、2秒後に、リモートサーバーのデスクトップがPC上のウィンドウとして表示されます。表示されるビューワーのタイプは、環境設定と使用しているブラウザのタイプによって異なります。

## ログアウト

---

RCM KVM over IPの動作環境の設定が完了したら、「ログアウト」アイコンをクリックしてください。これにより、RCM KVM over IPのGUIからログアウトします。

# リモートサーバーへのアクセス

## はじめに

---

リモートサーバーには、ローカルシステムと同じようにアクセスすることができます。ウィンドウが表示されると、リモートサーバーがこのウィンドウ内に表示されます。

- ◆ ウィンドウを最大化したり、枠をドラッグしてウィンドウのサイズを変更したり、スクロールバーを使用して画面内を移動したりすることができます。
- ◆ [Alt] + [Tab]キーでローカルプログラムとリモートプログラムを切り替えることができます。

---

### 注意:

1. ネットラグのため、キー入力の表示が少し遅れることがあります。また、クリックする前に、リモートマウスがローカルマウスに追いつくまで少し時間がかかる場合があります。
  2. ネットラグ、あるいはローカルマシン上の処理能力不足により、画像（特に動画）の画質が劣化する場合があります。
- 

リモートサーバーへのアクセス方法はいくつかあります。以下に一覧を示します:

1. WebブラウザGUIから直接アクセスする**Windowsクライアントビューワー**。詳細については、p.107「Web、WindowsおよびJavaクライアントビューワー」を参照してください。
2. WebブラウザGUIから直接アクセスする**Windowsビューワー**。詳細については、p.107「Web、WindowsおよびJavaクライアントビューワー」を参照してください。

3. WebブラウザGUIから直接アクセスする**Javaビューワー**。詳細については、p.107「Web、WindowsおよびJavaクライアントビューワー」を参照してください。
4. **WindowsクライアントビューワーAP**(ブラウザ不使用)。リモートサーバーへのアクセス方法とビューワーの使用方法については、WindowsクライアントAP(p.108)およびWindowsクライアントビューワー(p.112)をそれぞれ参照してください。
5. **JavaクライアントビューワーAP**(ブラウザ不使用)。リモートサーバーへのアクセス方法については、p.111「JavaクライアントAP」を参照してください。操作方法はWindowsクライアントビューワーと同じであるため、ビューワーのインターフェースの操作については、p.112「Windowsクライアントビューアー」を参照してください。

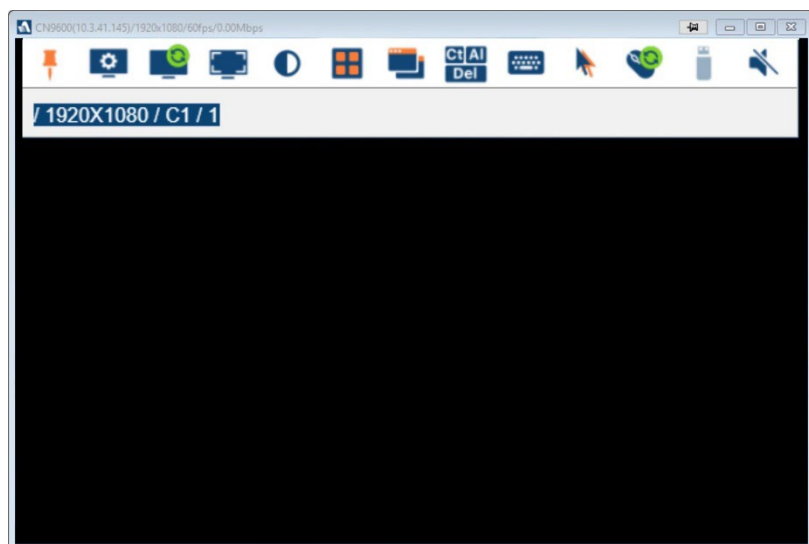
WindowsクライアントAPおよびJavaクライアントAPをWeb GUIからダウンロードする方法の詳細については、p.108「ダウンロード」を参照してください。



## Web、Windows、およびJavaクライアントビューワー

---

Web、Windows、およびJavaクライアントビューワーは、Webブラウザからアクセスできます。Web設定画面にログインしたら(p.45参照)、左パネルメニューのビューワーアイコンをクリックしてください。1～2秒後、リモートサーバーのデスクトップがデスクトップ上のウィンドウとして表示されます：



リモートサーバーの操作やアクセスは、コントロールパネルから行います。アクセス/コントロール情報については、p.112「Win/Javaクライアントのコントロールパネル」を参照してください。

デフォルトでは、Webクライアントビューワーが使用されます。

環境設定の順序を変更すると(p.99「ユーザー設定」参照)、別のクライアントビューワーが使用される場合があります。

# WindowsクライアントAP

---

WindowsクライアントAPは、ブラウザの設定画面を介さずにWindowsクライアントにアクセスできるWindowsクライアントプログラムです。

## ダウンロード

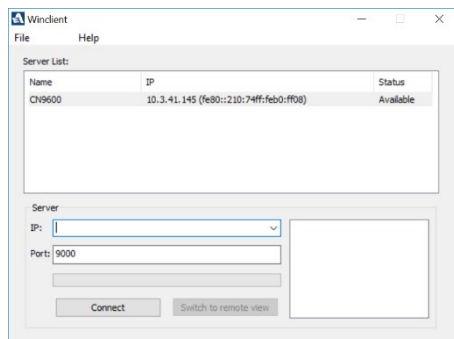
スタンドアロンのWindowsクライアントプログラムをダウンロードするには、次の手順で操作を行ってください。

1. Web GUIで、ダウンロード画面に移動してください。詳細については、p.108「ダウンロード」を参照してください。
2. 「WindowsクライアントAPをダウンロード」ボタンをクリックしてください。
3. ファイルを使い勝手の良い場所に保存するか、デスクトップにショートカットを作成してください。

## 起動

APの初回実行時には、WindowsクライアントAPを右クリックし、「アドミニストレーターとして実行」をクリックして起動してください。

Windowsクライアントの接続画面は下図のとおりです。また、各コンポーネントについては次の表で説明します。



| 項目        | 説明                                                                                                                                                                             |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| サーバーリスト   | RCM KVM over IPのWindowsクライアントプログラムを実行すると、ユーザーのローカルLANセグメントでRCM KVM over IPユニットが自動的に検索され、見つかったものがこのボックスに一覧表示されます。ユニットにアクセスする場合は、対象となるデバイスをダブルクリックして接続してください。                    |
| サーバー      | 接続したいRCM KVM over IPが離れた場所にある場合、LAN上には見つかりません。ご自身でIPアドレスとポートを入力してください。<br><br>ポート番号がご不明な場合は、本機の管理者にご確認ください。<br>接続対象となるユニットのIPアドレスとポート番号を指定したら、「 <b>接続</b> 」をクリックして接続を開始してください。 |
| 接続        | RCM KVM over IPへの接続を開始します。                                                                                                                                                     |
| 切断        | これらのボタンは、RCM KVM over IPにログインするとアクティブになります。詳しくはp.110を参照してください。                                                                                                                 |
| リモート表示に切替 |                                                                                                                                                                                |
| メッセージパネル  | 「サーバー」セクションの右側にある空白のボックスには、サーバー接続の現在の状態が表示されます。                                                                                                                                |

1. ユニットのダブルクリックしてください。RCM KVM over IPがユニットに接続されると、ログインウィンドウが表示されます：

2. 有効なユーザーネームとパスワードを入力し、「OK」をクリックして操作を続行してください。

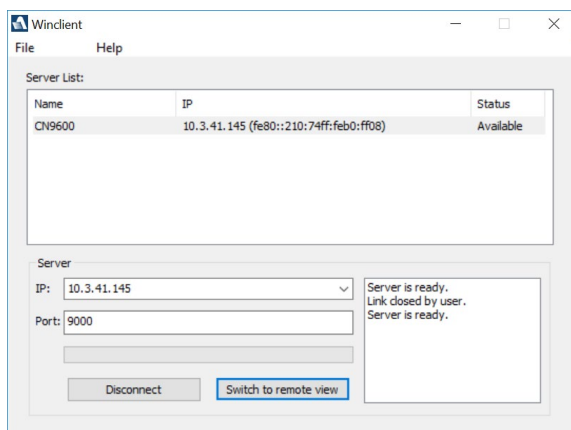
---

### 注意：

デフォルトのユーザーネームは「administrator」、パスワードは「password」です。

---

ログインに成功すると、接続画面に戻ります。



このとき、2つのボタンがアクティブになります。説明は下表のとおりです。

| ボタン       | アクション                                                                                                                                                                                                          |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 切断        | RCM KVM over IPへの接続を切断します。                                                                                                                                                                                     |
| リモート表示に切替 | 場合によっては、管理者がユーザーにブラウザーを使ってRCM KVM over IPに接続させたくないことがあります。リモートビューに切り替えると、ブラウザーベースのWindowsクライアントで表示されるものと同じリモートサーバーのデスクトップを含むウィンドウがユーザーのデスクトップで開かれるため、この問題が解決されます。操作の詳細については、「第7章 Windowsクライアントビューワー」を参照してください。 |

3. 「リモート表示に切替」をクリックして、リモートサーバーにアクセスしてください。

リモートアクセスのインターフェースについては、p.112「Win/Javaクライアントのコントロールパネル」を参照してください。

## JavaクライアントAP

---

JavaクライアントAPは、RCM KVM over IPにすべてのプラットフォームからアクセスできるようにするために提供されるAPプログラムです。これは、WindowsクライアントAPと同様に、ブラウザの設定画面を経由せずにJavaクライアントにアクセスできるプログラムです。

JRE 6 Update 3以降がインストールされているシステムであれば接続可能です。Javaは、Java Webサイト(<http://java.sun.com>)から無償でダウンロードできます。

Javaクライアントの接続画面とその操作手順は、WindowsクライアントAPと同じです。詳細はp.108「Windowsクライアント AP」を参照してください。

JavaクライアントAPを使用したリモートサーバーの制御/アクセスもWindowsクライアントと同じであるため、アクセス/制御情報については、p.112「Win/Javaクライアントのコントロールパネル」を参照してください。

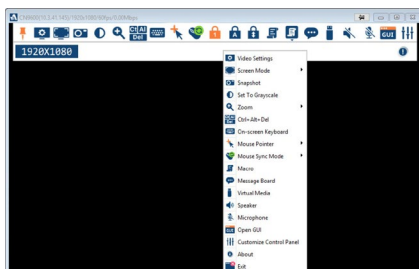
WinクライアントとJavaクライアントのコントロールパネルは似ていますが、それぞれの違いを以下に説明します:

- コントロールパネルは、画面の上部または下部中央で非表示になっている場合があります(デフォルトは上部)。これはマウスポインターを重ねると表示されます。



- 112

- ◆ パネルは2行で構成されます。
- ◆ 2行目には、リモートデスクトップのビデオ解像度、ユーザーが使用しているバス、およびコントロールパネルツールバーのメニュースタイルバージョン用にクリックできる情報ボタンが表示されます(下記参照)。
- ◆ メニュー形式のコントロールパネルは、2行目の領域を右クリックすることでも表示できます。このメニューでは、スクリーンモード、ズーム、マウスポインターの種類、およびマウス同期モードのオプションを選択できます。これらの機能については、以降のセクションで説明します。



## コントロールパネルの機能

コントロールパネルの機能を以下の表に示します。

| アイコン                                                                                | 機能                                                                                                                                                                 |
|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    | これはトグルボタンです。クリックすると、コントロールパネルを常に他の画面要素の上に表示します。もう一度クリックすると、通常の状態に戻します。                                                                                             |
|    | クリックすると、「ビデオオプション」ダイアログボックスを表示します。(詳細は p.126「ビデオ設定」を参照してください)。                                                                                                     |
|    | フルスクリーンモードとウィンドウモードを交互に切り替えます。                                                                                                                                     |
|    | クリックすると、リモート画面のスナップショット(画面キャプチャー)を取得します。スナップショットに関するパラメーターの設定方法については p.146「スナップショット」を参照してください。                                                                     |
|    | クリックすると、リモート画面の表示をカラーとグレースケールで交互に切り替えます。                                                                                                                           |
|    | <p>クリックすると、リモートディスプレイウィンドウの表示倍率を調整したり、ウィンドウサイズを調整したりできます。</p> <p><b>注意:</b></p> <p>機能はウィンドウモード(フルスクリーンモードがOFF)でのみ使用できます。詳細については、p.137「ウィンドウサイズの拡大/縮小」をご参照ください。</p> |
|  | クリックすると、[Ctrl] + [Alt] + [Delete]の信号がリモートシステムに送信されます。                                                                                                              |
|  | クリックすると、オンスクリーンキーボード(p.138参照)を起動します。                                                                                                                               |
|  | <p>クリックすると、マウスポインターの種類を選択します。</p> <p><b>注意:</b></p> <p>このアイコンは、選択されたマウスポインターの種類に応じて変わります(p.140「マウスポインターの種類」参照)。</p>                                                |



| アイコン                                                                                | 機能                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    | <p>クリックすると、マウスの自動同期と手動同期を交互に切り替えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆「自動」を選択すると、アイコンに緑色のマークが表示されます。</li> <li>◆「手動」を選択すると、アイコンに赤色のマークが表示されます。</li> </ul> <p>この機能に関する詳細については、p.141「マウスダイナシクモード」をご参照ください。</p>                                                                                                                                                         |
|    | <p>これらのアイコンは、リモートコンピューターにおける[Num Lock]、[Caps Lock]、[Scroll Lock]各キーの状態を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ ロック状態がONの場合、LEDは明るいオレンジ色に点灯します。</li> <li>◆ ロック状態がOFFの場合、LEDは鈍い青色になります。</li> </ul> <p>アイコンをクリックすると、状態を切り替えます。</p> <p><b>注意:</b><br/>これらのアイコンとローカルキーボードのアイコンは同期しています。アイコンをクリックすると、それに応じてキーボードの対応LEDが変化します。同様に、キーボードのロックキーを押すと、アイコンの色がそれに応じて変化します。</p> |
|    | <p>クリックすると、「マクロ」ダイアログボックスを表示します(詳細はp.116「マクロ」を参照)。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|    | <p>メッセージボード(p.129参照)を起動します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|    | <p>クリックすると、「バーチャルメディア」ダイアログボックスを表示します。バーチャルメディアのデバイスがポートにマウントされると、アイコンが変わります。詳細については、p.132「バーチャルメディア」を参照してください。</p> <p><b>注意:</b><br/>この機能が無効、または利用不可の状態になると、このアイコンはグレーで表示されます。</p>                                                                                                                                                                                           |
|  | <p>クリックすると、スピーカーの電源をONまたはOFFにします。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
|  | <p>クリックすると、マイクの電源をONまたはOFFにします。ローカルコンソールに接続されているマイクが有効になると、このアイコンがグレー表示になり、機能しなくなります。ローカルコンソールOSDからマイクとスピーカーを有効/無効にするには、p.155「ローカルOSD」を参照してください。</p> <p><b>注意:</b><br/>ローカルコンソールに接続されているマイクは、リモートコンソールに接続されているマイクよりも優先されます。</p>                                                                                                                                               |

| アイコン                                                                              | 機能                                                                     |
|-----------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------|
|  | クリックすると、ビューワベースの設定にアクセスします (p.143「GUIを開く(設定)」を参照)。                     |
|  | クリックすると、「コントロールパネルの設定」ダイアログを表示します。コントロールパネルの設定の詳細については、p.144を参照してください。 |

## マクロ

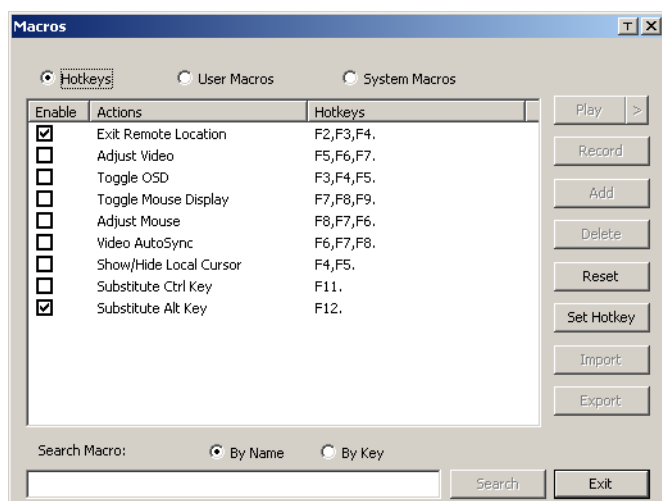


「マクロ」アイコンは、「マクロ」ダイアログボックスの3つの機能(ホットキー、ユーザーマクロ、システムマクロ)にアクセスすることができます。

これらの機能については、以下のセクションで説明します。

## ホットキー

コントロールパネルのアイコンをクリックして実行されるアクションは、キーボードから入力されたホットキーで直接実行することができます。「ホットキー」ラジオボタンを選択すると、アクションを実行するホットキーを設定することができます。アクションは左側に、また、そのアクションを行うホットキーはその右側に、それぞれ表示されます。アクション名の左側のチェックボックスを使用してホットキーの有効/無効を設定してください。



デフォルトのホットキーの組み合わせでは不都合が生じる場合は、下記の手順でホットキーを変更することができます。

1. 対象となるアクションをリストから選択し、「**ホットキーの設定**」をクリックしてください。
2. 選択したファンクションキーを1つずつ押してください。押されたキーの名前が「**ホットキー**」欄に表示されます。
  - ◆ キー入力の順番が同じでなければ、同一ファンクションキーを複数のアクションに使用することができます。
  - ◆ ホットキーの設定を取り消す場合は「**キャンセル**」ボタンをクリックしてください。また、アクションの「**ホットキー**」欄を消去するには「**クリア**」ボタンをクリックしてください。
3. マクロキーの順番を入力し終わったら、「**保存**」ボタンをクリックしてください。

ホットキーの設定をすべてデフォルト値にリセットするには、「**リセット**」ボタンをクリックしてください。

ホットキーアクションの内容は下表のとおりです。

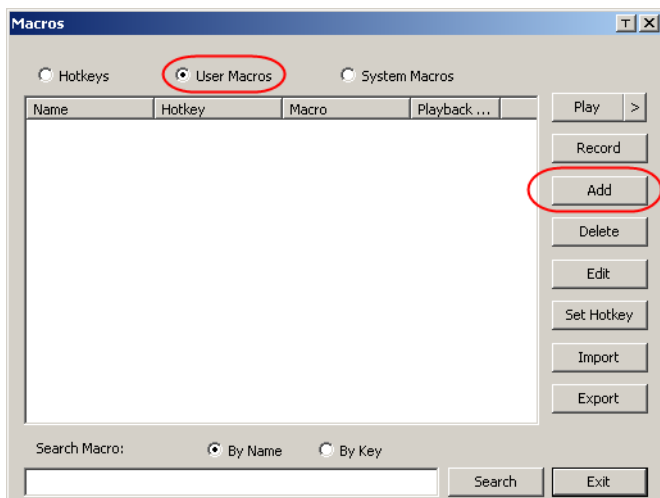
| アクション        | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|--------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| リモート操作の終了    | リモートビューを終了します。これは、コントロールパネルの「終了」アイコンをクリックするのと同じです。デフォルトでは、[F2][F3][F4]に設定されています。                                                                                                                                                                                         |
| ビデオの調整       | 「ビデオ設定」ダイアログボックスを表示します。これは、コントロールパネルの「ビデオ設定」アイコンをクリックするのと同じです。デフォルトでは[F5][F6][F7]に設定されています。                                                                                                                                                                              |
| コントロールパネルの切替 | コントロールパネルの <b>ON</b> と <b>OFF</b> を切り替えます。デフォルトでは[F3][F4][F5]に設定されています。                                                                                                                                                                                                  |
| マウス表示の切替     | ローカルとリモートの2つのマウスポインターが表示されて操作しづらい場合は、この機能を使用して、機能しない方のマウスポインターを最小化することで見やすくすることができます。この機能はトグル式であるため、同じホットキーを再度入力するとマウス表示を元の設定に戻します。これは、コントロールパネルの「マウスポインター」アイコンをクリックし、「ドット」ポインターの種類を選択するのと同じです。デフォルトでは[F7][F8][F9]に設定されています。<br><b>注意:</b><br>Javaコントロールパネルにはこの機能がありません。 |

| アクション           | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|-----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| マウスの調整          | これにより、ローカルとリモートのマウスの動きが同期されます。デフォルトでは[F8][F7][F6]に設定されています。                                                                                                                                                                                                                     |
| ビデオの自動同期        | この組み合わせは、自動同期操作を実行します。これは、コントロールパネルの「ビデオの自動同期」アイコンをクリックするのと同じです。デフォルトでは[F6][F7][F8]に設定されています。                                                                                                                                                                                   |
| ローカルカーソルの表示/非表示 | ローカルマウスのポインターの表示のONとOFFを切り替えます。これは、コントロールパネルにある「マウスポインター」アイコンから「無」ポインタータイプを選択するのと同じです。デフォルトでは[F4][F5]に設定されています。                                                                                                                                                                 |
| 代替Ctrlキー        | ローカルコンピュータが[Ctrl]キーの組み合わせをキャプチャーし、ホットキーがリモートシステムに送信されない場合は、[Ctrl]キーの代わりとして使用するファンクションキーを指定することでリモートシステムに送信することができます。例えば、[F11]キーを[Ctrl]キーの代わりに使用する場合、[F11] + [5]と入力すると、リモートシステムでは[Ctrl] + [5]キーが押されたことになります。デフォルトでは[F11]に設定されています。                                               |
| 代替Altキー         | 基本的にキーボードの入力はキャプチャーされ、リモートシステムへ送られますが、[Alt] + [Tab]と[Ctrl] + [Alt] + [Del]はローカルコンピュータでのみ動作します。リモートシステムに対して[Alt] + [Tab]と[Ctrl] + [Alt] + [Del]の機能を実行したい場合には、任意のファンクションキーを[Alt]キーの代わりに設定することができます。例えば、[F12]を代替キーにした場合、[F12] + [Tab]と[Ctrl] + [F12] + [Del]と入力します。デフォルトのキーはF12です。 |

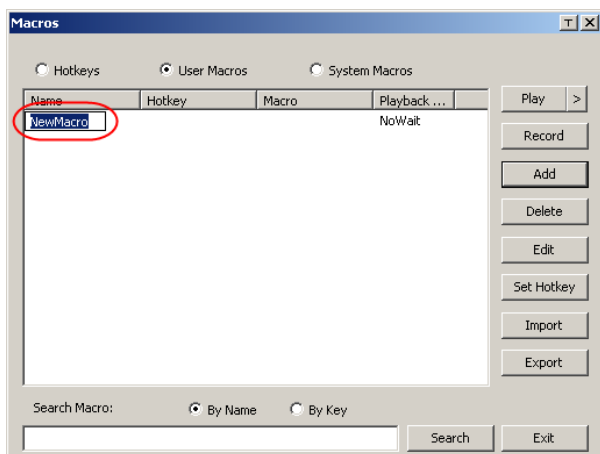
## ユーザーマクロ

ユーザーマクロは、リモートサーバーで特定のアクションを実行するのに使用されます。マクロを作成するには以下の手順に従って操作を行ってください。

1. 「ユーザーマクロ」ラジオボタンを選択し、「追加」ボタンをクリックしてください。

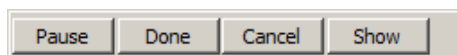


2. 新しいマクロはデフォルトで「New Macro」という名前で作成されますので、必要であれば、ダイアログボックスでこの名前を変更してください。



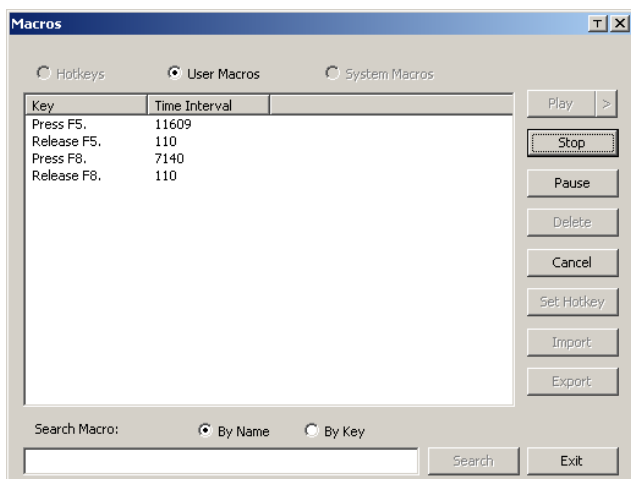
3. 「記録」をクリックしてください。

ダイアログボックスが終了すると、下図のような小さいパネルが画面左上に表示されます。



4. マクロのキーを押してください。

- ◆ マクロの記録を一時停止する場合は、「一時停止」ボタンをクリックしてください。再開するには、もう一度「一時停止」をクリックします。
- ◆ 「表示」をクリックするとダイアログが立ち上がり、作成したすべてのキー入力と、それぞれに要した時間が一覧表示されます。



- ◆ 「キャンセル」をクリックすると、すべてのキー入力を取り消します。
- ◆ 入力が完了したら「停止」をクリックしてください。これは、手順5の「完了」をクリックするのと同じです。

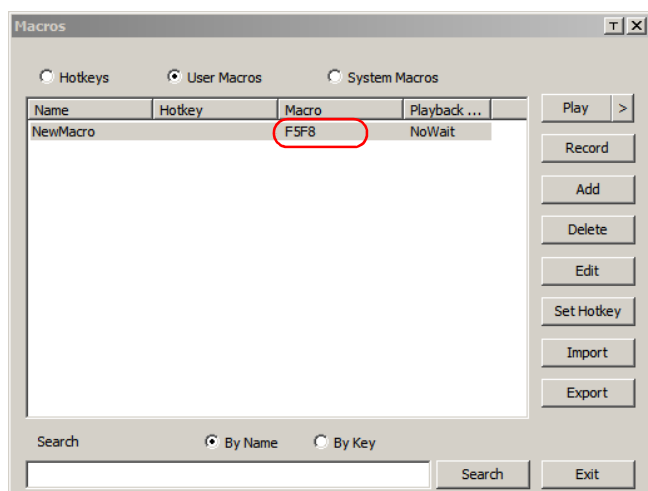
---

#### 注意:

- ◆ 大文字や小文字は区別されません。[A]と[a]のどちらを入力しても同じ結果となります。
  - ◆ マクロを記録する場合は、リモート画面を選択しておいてください。「マクロ」ダイアログボックスを選択した状態では記録できません。
  - ◆ マクロとして記録できるのは直接入力のキーのみで、代替文字は使用できません。例えば、キーボードが中国語(繁体字)でデフォルト文字がAの場合、キーボード切り替えで取得した漢字は記録されません。
- 

5. 「表示」ダイアログを立ち上げていない場合は、「完了」をクリックして

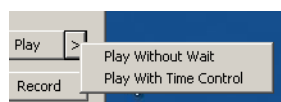
マクロの記録を終了してください。手順1で示した「マクロ」ダイアログに戻ります。



6. p.116「ホットキー」で示したように、各マクロに対して、ホットキーを設定することができます。

7. また、再生モードを割り当てて、「**すぐに再生**」または「**タイムコントロール再生**」のいずれかを選択することもできます。

このダイアログボックスからマクロを実行する場合、マクロの実行方法を指定するオプションがあります。



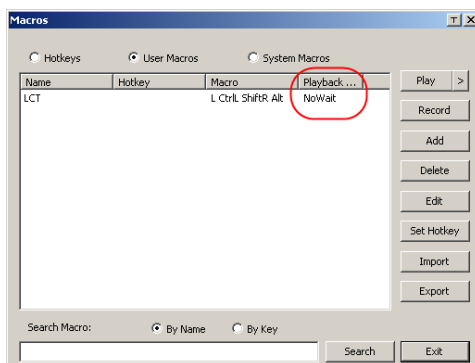
- ◆ 「すぐに再生」を選択した場合、マクロは入力キーの遅延時間なしで実行します。
- ◆ 「タイムコントロール再生」を選択した場合、マクロを記録した際のキー入力とその時のキー入力時間の間隔を再現しながら実行します。オプションを選択する場合は「再生」ボタンの隣にある矢印ボタンをクリックしてください。
- ◆ 一覧を開かずに「再生」ボタンをクリックすると、マクロはデフォルトの方法で実行されます。デフォルトの選択内容(「すぐに実行」または「タイムコントロール」)が「再生」列に表示されます。

8. 入力キーを変更する場合は、対象となるマクロを選択し、「編集」ボタンを

クリックしてください。これにより、「表示」を押した時と同様のダイアログボックスが表示されるため、入力キーの種類や順番を変更することができます。

9. 他のマクロを作成する場合も、上記の手順を繰り返してください。

作成したマクロは、下記3つの方法のいずれかで実行することができます。



1. ホットキーを使用する(ホットキーを割り当てている場合)。
2. コントロールパネルのマクロリストを開き、目的のマクロリストをクリックする。
3. このダイアログボックスを開いて、「再生」ボタンをクリックする。

---

#### 注意:

ユーザーマクロは、各ユーザーのローカルクライアントコンピューターに保存されます。

したがって、マクロの数、マクロ名のサイズ、またはそれら呼び出すホットキーの組み合わせの構成に制限事項はありません。

---

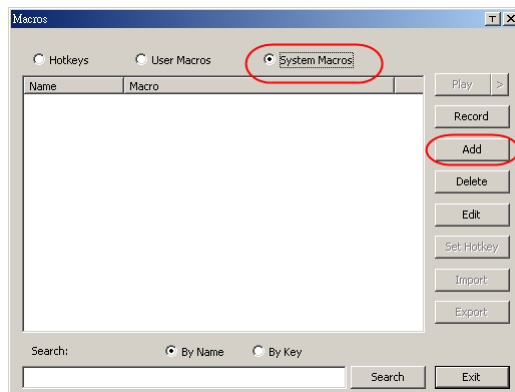
「検索」ボタンを使うと、上部の大きいパネルに表示されるマクロ一覧の内容をフィルタリングして再生や編集を行うことができます。フィルタリングの条件を名前にするかキーにするかをラジオボタンで選択し、検索に使用する文字列をテキストボックスに入力したら、「検索」ボタンをクリックしてください。この文字列に合致するものが、すべて上部パネルに表示されます。



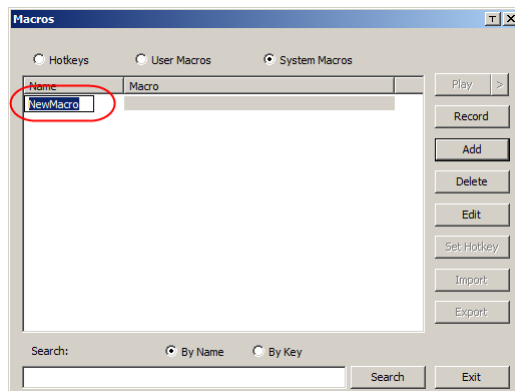
## システムマクロ

システムマクロはセッション終了時に実行される終了マクロを作成する際に使用します。例えば、[Windows] + [L]キーをログアウト時に実行するマクロを作成しておくと、ユーザーがその後にデバイスにアクセスした際には必ずリモートデバイスのログイン画面を表示することができるため、セキュリティを強化することができます。マクロを作成するには以下の手順に従って操作を行ってください。

1. 「システムマクロ」ラジオボタンを選択し、「追加」ボタンをクリックしてください。

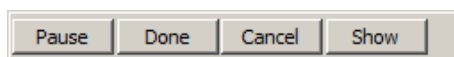


2. 新しいマクロはデフォルトで「New Macro」という名前で作成されますので、必要であれば、ダイアログボックスでこの名前を変更してください。



3. 「記録」をクリックしてください。

ダイアログボックスが終了すると、下図のような小さいパネルが画面左上に表示されます。



4. マクロのキーを押してください。

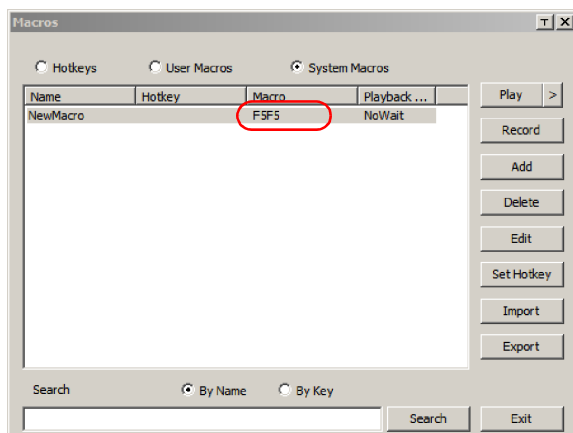
- ◆ マクロの記録を一時停止する場合は、「一時停止」ボタンをクリックしてください。再開するには、もう一度「一時停止」をクリックします。
- ◆ 「表示」をクリックすると、作成した各キー入力と、各入力に要した時間（p.119参照）がリストされたダイアログボックスが表示されます。

---

**注意:**

- ◆ 大文字や小文字は区別されません。[A]と[a]のどちらを入力しても同じ結果となります。
- ◆ マクロを記録する場合は、リモート画面を選択しておいてください。「マクロ」ダイアログボックスを選択した状態では記録できません。
- ◆ マクロとして記録できるのは直接入力のキーのみで、代替文字は使用できません。例えば、キーボードが中国語（繁体字）でデフォルト文字がAの場合、キーボード切り替えで取得した漢字は記録されません。

- 
5. 「表示」ダイアログを立ち上げていない場合は、「完了」をクリックしてマクロの記録を終了してください。「マクロ」ダイアログボックスに戻ると、リストには先程入力したシステム マクロキーが表示されます。



6. 入力キーを変更する場合は、対象となるマクロを選択し、「編集」ボタンをクリックしてください。これにより、「表示」を押した時と同様のダイアログボックスが表示されるため、入力キーの種類や順番を変更することができます。
7. 他のマクロを作成する場合も、上記の手順を繰り返してください。

システムマクロを作成したら、RCM KVM over IPからログアウトしたときに、それらのマクロのいずれかを実行するように選択できます（詳細については、p.96「カスタマイズ」を参照してください）。

---

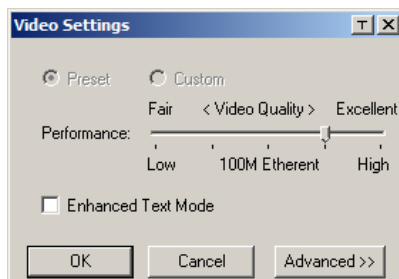
#### 注意:

1. 検索機能については、p.122を参照してください。
  2. システムマクロは、RCM KVM over IPに保存されるため、マクロ名は英数字64文字以内で、ホットキーの組み合わせは256バイト以下にする必要があります（通常、各キーには3～5バイトを使用します）。
-

## ビデオ設定



「ビデオ設定」ダイアログボックスでは、モニター上のリモート画面における表示位置および画質の調節を行います。



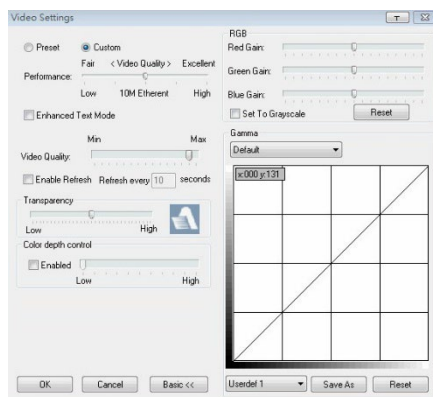
調節オプションは次のとおりです。

| オプション      | 使用方法                                                                                                                                                                                                                                                        |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|            | クリックすると、「ビデオ設定」ダイアログボックスの透明度を調節します。                                                                                                                                                                                                                         |
| パフォーマンス    | ローカルクライアントコンピューターとRCM KVM over IPの間に存在するインターネット接続のタイプを選択します。RCM KVM over IPは、その選択を使用して、ビデオ表示の品質を最適化するために、ビデオ品質と検出許容値設定を自動的に調整します。<br><br>ネットワークの状態が異なるため、プリセットのオプションでは不都合が生じるかもしれません。そのような場合には、「カスタマイズ」を選択し、「ビデオ画質」と「検出許容値」のスライダーを使って、お使いの環境に適した値に調節してください。 |
| テキストモードの強化 | この項目にチェックを入れると、一部のインターフェースシステム(例: Sun Blade1000サーバー)に影響するビデオ画面の解像度に関連するビデオ表示の問題を解決できます。                                                                                                                                                                     |
| 詳細設定       | 詳細はp.127を参照してください。                                                                                                                                                                                                                                          |

## ガンマ調節

操作を強化したり、リモート表示画面のガンマレベルを調整したりする必要がある場合は、「詳細」ボタンをクリックして、**詳細ビデオ設定のガンマ機能**を使用してください。

ガンマレベルには、10種類のプリセットと4種類のユーザー定義レベルがあり、そこから選択することができます。ドロップダウンメニューをクリックして、最適なものを選択してください。



詳細設定画面の追加オプションは次のとおりです。

| オプション | 使用方法                                                                                                                                                                                                                         |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| RGB   | スライダーバーをドラッグしてRGB（赤、緑、青）の値を調整します。RGBの値の増加に伴って、画像のRGB要素も増加します。<br>「グレースケールに設定」の項目を有効にすると、リモート画面をグレースケールで表示します。                                                                                                                |
| ガンマ   | このセクションでは、ビデオ表示のガンマレベルを調節できます。<br>満足いく表示出力が得られるよう、希望する数のポイントで対角線をクリックしてドラッグしてください。<br>上記の方法で変更した値をユーザー定義の設定として保存する場合は「名前をつけて保存」をクリックしてください。保存された値は、後でリストボックスから呼び出すことができます。<br>変更内容を破棄し、ガンマ線を元の状態に戻す場合は、「リセット」ボタンをクリックしてください。 |

| オプション     | 使用方法                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ビデオ品質     | スライダーバーをドラッグしてビデオ全体の画質を調整します。値が大きくなるにつれて、画像はより鮮明に、また、ネットワークに転送されるビデオデータの量はより大きくなります。ネットワークのバンド幅によっては、高い値を設定すると逆にレスポンス時間に影響を与える可能性があります。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| 再読込を有効にする | RCM KVM over IPは1～99秒ごとに画面を再描画し、画面から不要なブロックノイズなどを排除できます。<br><b>「再読込を有効にする」</b> の項目にチェックを入れて、再描画の時間間隔を1～99の整数で入力してください。<br>RCM KVM over IPは、指定した間隔で画面を再描画します。この機能はデフォルトでは無効です。この機能を有効にするには、「再読込を有効にする」の項目にチェックを入れてください。<br><b>注意:</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ユニットは、マウスの動作が止まったタイミングでインターバル時間の計測を開始します。</li> <li>2. この機能を有効にすると、ネットワーク経由で送信されるビデオデータの音量が増加します。設定するインターバル時間の値が小さくなるに従って、ビデオデータの転送頻度が高くなります。この値を小さくしすぎると処理全体のレスポンスに影響を与える可能性がありますので、ご注意ください。</li> </ol> |
| 透明度       | スライダーバーをドラッグして、コントロールパネルの透明度を調整します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 色深度コントロール | この設定は、色情報の量を調節することによって、ビデオ表示の豊かさを決定します。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

変更内容を保存し、ダイアログボックスを終了する場合は「OK」をクリックしてください。

変更内容を破棄し、ダイアログボックスを終了する場合は「キャンセル」をクリックしてください。

---

**注意:**

最適な結果を得るには、リモートコンピューターの画面を見ながら設定値の変更を行ってください。

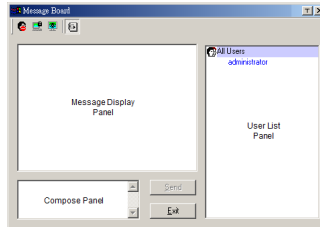
---

## メッセージボード



複数のユーザーによるログインに起因するアクセス競合の可能性を軽減するために、RCM KVM over IPにはメッセージボードが用意されています。

この機能はユーザー同士のコミュニケーションを可能にします：



## ボタンバー

ボタンバーにあるボタンはトグルボタンです。各ボタンとその機能は下表のとおりです。

| ボタン                                                                                 | アクション                                                                                                                                                                                                                          |
|-------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    | チャット機能を有効/無効にします。チャット機能が無効になっている場合、メッセージボードに投稿されたメッセージは表示されず、このボタンは網がけされた表示になります。ユーザーがチャット機能を無効にすると、ユーザーリストパネルのユーザーネームの横にこのアイコンが表示されます。                                                                                        |
|  | キーボード/ビデオ/マウスを占有/解放します。このボタンを使用して、KVMを占有することができます。あるユーザーがKVMを占有している場合、他のユーザーは画面の参照およびキーボード/マウスからの入力ができなくなり、このボタンは網がけされた表示になります。ユーザーがKVMを占有している場合、ユーザーリストパネルのユーザーネームの横にこのアイコンが表示されます。                                           |
|  | キーボード/マウスを占有/解放します。ポートが共有モード(p.81「動作モード」参照)に設定されている場合、このボタンを使用してKMを占有することができます。あるユーザーがKMを占有している場合、他のユーザーは画面の参照は可能ですが、キーボードやマウスからの入力ができなくなります。また、このボタンは網がけされた表示になります。ユーザーがキーボード/マウスを占有していると、ユーザーリストパネルのユーザーネームの横にこのアイコンが表示されます。 |



ユーザーリストを**表示/非表示**にします。ユーザーリストを非表示にすると、ユーザーリストパネルが終了します。また、ユーザーリストが表示されている時、このボタンは網がけされた表示になります。

## メッセージ表示パネル

ユーザーがメッセージボードに投稿したメッセージ(およびシステムメッセージ)は、このパネルに表示されます。ただし、チャットを無効にすると、ボードに投稿されたメッセージは表示されません。

## メッセージ編集パネル

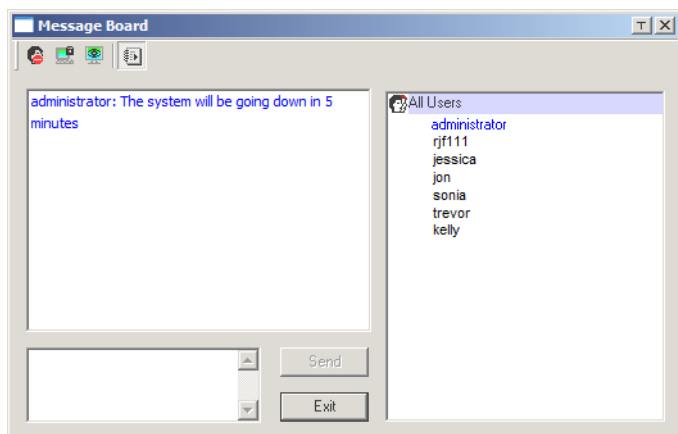
メッセージボードに送信したいメッセージをこのパネルで編集してください。「送信」をクリックするか、[Enter]キーを押して、メッセージをボードに投稿してください。

## ユーザーリストパネル

このパネルには、ログインしているすべてのユーザーの名前が表示されます。

- ◆ 自身の名前は青色で、その他のユーザーの名前は黒色でそれぞれ表示されます。
- ◆ デフォルトでは、メッセージはすべてのユーザーに宛に投稿されます。特定のユーザー宛にメッセージを送信したい場合は、宛先となるユーザーを選択してからメッセージを送信してください。
- ◆ 一旦、ユーザーの名前が選択された状態で再び全員宛にメッセージを送信したい場合は、「**すべてのユーザー**」を選択してからメッセージを送信してください。
- ◆ ユーザーがチャットを無効にした場合は、無効アイコンがユーザーの名前の前に表示され、そのことが示されます。
- ◆ ユーザーがKVMまたはKMを占有している場合は、ユーザーの名前の前に占有アイコンが表示され、そのことが示されます。





## バーチャルメディア



バーチャルメディア機能を使用すると、ローカルクライアントコンピュータ上のドライブ、フォルダー、イメージファイル、またはリムーバブルディスクを表示して、リモートサーバーにマウントされているかのように動作させることができます。この機能を有効にするには、あらかじめ「USB IO設定」にて、モードを「バーチャルメディア」に設定しておいてください（p.97参照）。

バーチャルメディアは、スマートカードリーダー機能もサポートしており、クライアントPCに接続されたリーダーを、リモートサーバーに接続されているかのように見せることができます。

### バーチャルメディアのアイコン

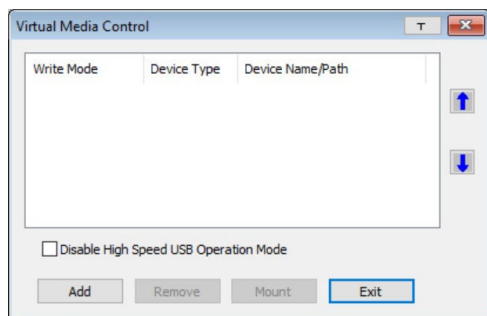
コントロールパネルのバーチャルメディアアイコンは、バーチャルメディア機能が利用可能かどうか、バーチャルメディアデバイスがリモートサーバーにマウントされたかどうかを表します。各アイコンが示す機能の詳細は下表のとおりです。

| アイコン                                                                                | 機能                                                                                              |
|-------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
|   | バーチャルメディア機能が無効または利用できない場合、このアイコンが表示されます。                                                        |
|  | バーチャルメディア機能が利用可能である場合、このアイコンが表示されます。このアイコンをクリックするとバーチャルメディアのダイアログボックスを表示します。                    |
|  | バーチャルメディアデバイスがリモートサーバー側にマウントされていると、このアイコンが表示されます。このアイコンをクリックすると、リダイレクトされているデバイスはすべてマウントが解除されます。 |

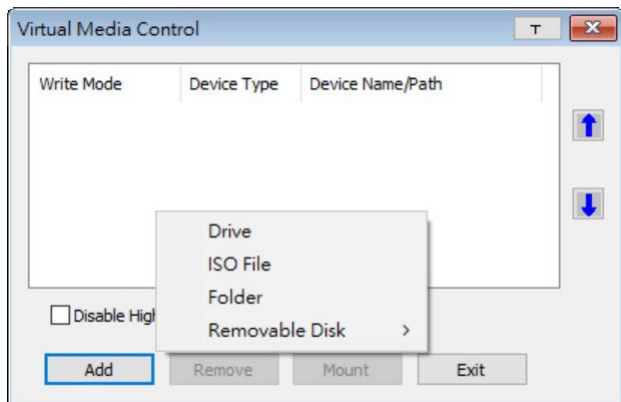
## バーチャルメディアのリダイレクト

バーチャルメディアのリダイレクト機能を実行する場合は、次の手順に従って操作を行ってください。

1. バーチャルメディアのアイコンをクリックして、「バーチャルメディア操作」ダイアログボックスを表示してください。



2. 「追加」ボタンをクリックし、ソースメディアを選択してください。

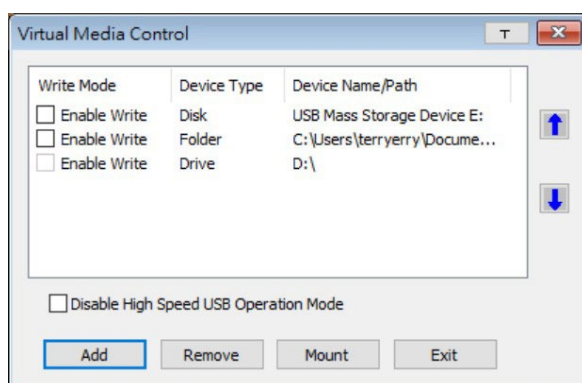


選択した項目によっては、ドライブ、ファイル、フォルダー、リムーバブルディスクを選択するダイアログボックスが追加で表示されます。各メディアのマウント方法の詳細については、p.198「対応バーチャルメディア」を参照してください。

3. ソースメディアを追加する場合は、「追加」ボタンをクリックして必要となるメディアをすべて選択してください。

最大3種類のバーチャルメディアをマウントできます。リストの上位3つの項目は、選択済みのものです。選択された項目の順番を入れ替える場合は、移動対象となるデバイスを選択し、上下の矢印ボタンをクリックしてリスト内で位置を移動させてください。

4. 「読み込み」はリモートサーバーにデータを送信することのできるリダイレクトされたデバイスを、また「書き込み」はリモートサーバーからのデータが書き込み可能な状態になっているリダイレクトされたデバイスをそれぞれ指しています。デフォルトでは、「書き込み」は有効になっていません(読み取り専用)。リダイレクトされたデバイスの読み取りと書き込みを同時に許可する場合は、「書き込みを有効にする」の項目にチェックを入れてください。

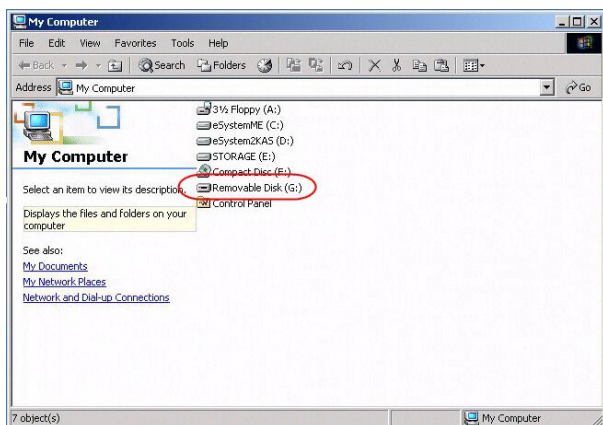


---

**注意:**

1. リダイレクトされたデバイスに書き込みができない場合、またはユーザーに書き込みの操作権限がない場合、リスト中ではグレーで表示され、選択不可になります。
  2. 本製品が対応しているバーチャルメディアの種類については、p.198「対応バーチャルメディア」を参照してください。
- 
5. リストから項目を削除する場合は、対象となる項目を選択してから、「削除」ボタンをクリックしてください。

6. ソースメディアの選択後に「マウント」ボタンをクリックすると、ダイアログボックスは終了します。選択されたバーチャルメディアのデバイスはリモートシステムにリダイレクトされ、リモートシステムのドライブ、ファイル、およびフォルダーとして表示されます。



マウントされると、バーチャルメディアを実際にリモートサーバー上にあるかのように扱うことができます。ファイルをリモートシステム上でドラッグ&ドロップしたり、編集用にファイルを開き、リダイレクトされたメディアなどに保存したりすることができます。

リダイレクトされたメディアに保存したファイルは、実際にはローカル側のファイルシステムに保存されます。また、リダイレクトされたメディアからドラッグしたファイルは、実際にローカルシステム側から取得することになります。

7. リダイレクトを終了するには、コントロールパネルを表示してバーチャルメディアのアイコンをクリックしてください。マウントされたデバイスはすべて自動的にマウントが解除されます。

## スマートカードリーダー

---

### 注意:

この機能はWinクライアントビューワーまたはWindowsクライアントAPの使用時にのみ利用可能です。

---

この機能を使用すると、ローカルクライアントコンピューターのUSBポートに接続されているスマートカードリーダーをリダイレクトし、リモートサーバーに接続されているかのように見せることができます。スマートカード(共通アクセスカードなど)の目的の一つは、ローカルクライアントからリモートサーバーへの認証を許可することです。

スマートカードリーダーがローカルクライアントコンピューターに接続されている場合、この項目は「バーチャルメディア」ダイアログボックスを起動し「追加」ボタンをクリックした時に表示されます。



メニューから適切なものを選択したら、「マウント」をクリックしてリダイレクトを完了させてください。

## ウィンドウサイズの拡大/縮小



ズームアイコンは、以下で説明するように、リモートビューウィンドウの表示倍率とそのサイズを制御します：

| 設定          | オプション                                                                             | 説明                                    |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|
| ウィンドウサイズの調整 | 100%                                                                              | 設定した割合でウィンドウのサイズを調整します。               |
|             | 75%                                                                               |                                       |
|             | 50%                                                                               |                                       |
|             | 25%                                                                               |                                       |
| ズーム         |  | サーバーのビデオ解像度に従って表示されるコンテンツの表示倍率を設定します。 |
|             |  | 表示されるコンテンツの表示倍率を、ウィンドウのサイズに合わせて設定します。 |
|             |  | 表示されるコンテンツの表示倍率を、ウィンドウの幅に合わせて設定します。   |
|             |  | 表示されるコンテンツの表示倍率を、ウィンドウの高さに合わせて設定します。  |

## オンスクリーンキーボード



RCM KVM over IPは、サポートされている各言語のすべての標準キーを備えた、複数の言語で使用可能なオンスクリーンキーボードをサポートしています。このアイコンをクリックすると、オンスクリーンキーボードがポップアップ表示されます。



オンスクリーンキーボードの主な利点の1つは、リモートシステムとローカルシステムのキーボード言語が同じでない場合、どちらのシステムの構成設定も変更する必要がないことです。ユーザーは画面上のキーボードを呼び出すだけで、アクセスしているポートでコンピューターが使用している言語を選択し、画面上のキーボードを使用して通信することができます。

---

### 注意:

オンスクリーンキーボードの操作はマウスで行ってください。

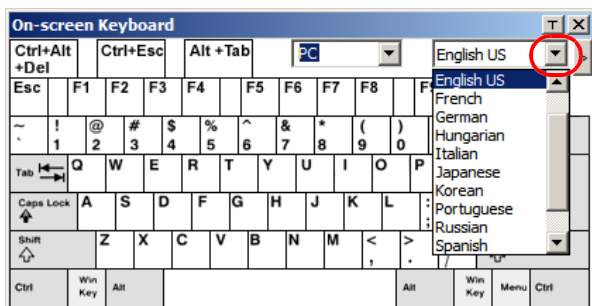
実際のキーボードで操作することはできません。

---

言語を変更するには、以下の手順で操作を行ってください。

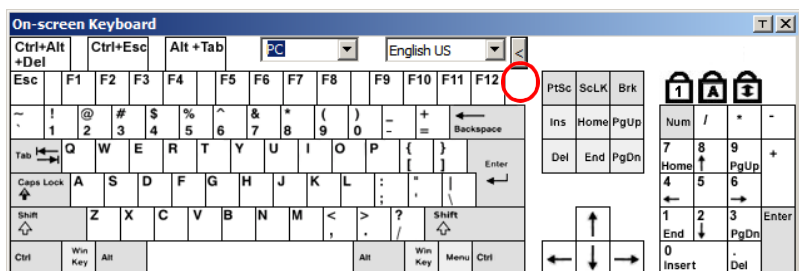
1. 現在選択されている言語の隣にある三角ボタンをクリックし、リストを展開してください。





2. リストから新しい言語を選択してください。

展開したオンスクリーンキーボードのキーの表示/非表示を切り替えるには、言語選択リストの右隣にある矢印ボタンをクリックしてください。



## マウスポインターの種類



RCM KVM over IPは、リモートディスプレイで作業する場合に、多数のマウスポインターのオプションを提供します。このアイコンをクリックして、操作に使用するタイプを選択してください：



---

### 注意：

1. ポートにアクセスする前にWindowsビューワーで利用できるポインターは、デュアルと十字のみです。ポートにアクセスすると、3種類のポインターが使用可能になります。
  2. シングルポインターは、JavaクライアントビューワーやJavaクライアントAPでは使用できません。
  3. シングルポインターを選択すると、マウスポインターは「マウス表示の切替」のホットキーを実行した時と同じ状態になります (p.117参照)。
  4. コントロールパネルのアイコンは、現在使用しているポインターの種類に応じて変わります。
-

## マウスダイナシクモード



このアイコンをクリックすると、ローカルとリモートのマウスポインターの同期を自動と手動のどちらで行うかを選択することができます。

ツールバーのアイコンは、同期モードの状態を次のように示します。

| アイコン | 機能                                                                             |
|------|--------------------------------------------------------------------------------|
|      | このアイコンの緑色のマークは、マウスダイナシク機能が使用可能で、かつ有効であることを示します。これは、マウスダイナシクが使用可能な場合のデフォルト設定です。 |
|      | このアイコンの赤いマークは、マウスダイナシク機能は使用可能ではあるものの、無効であることを示します。                             |

マウスダイナシクが使用可能な場合、アイコンをクリックすると有効または無効に切り替わります。マウスのダイナシクモードを無効にする場合は、次のセクションで説明する手動同期の手順を実行する必要があります。

### マウスの自動同期(ダイナシク)

マウスダイナシクは、リモートとローカルのマウスポインターを自動同期します。これにより、2つの動きを頻繁に再同期する必要がなくなります。

### 手動設定によるマウス同期

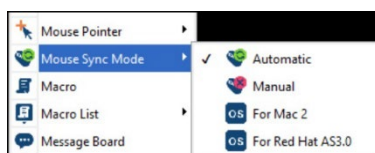
自動同期のマウスダイナシクではなく、手動のマウス同期を行い、かつローカルとリモートのマウスポインターが同期を失った場合、いくつかの方法で再同期することができます。

1. **マウス調整**ホットキーでマウス調整機能を起動してください(詳細はp.118「マウスの調整」参照)。
2. 画面の四隅にマウスポインターを動かしてください(動かす順序は問いません)。
3. 画面上のコントロールパネルをドラッグして別の位置に移動させてください。

4. 製品に接続されているコンピューターのうち、マウスの同期に問題あるものを対象に、マウスポインターのオプション(速度、精度)の設定を行ってください。手順の詳細はp.195「その他のマウス同期方法」を参照してください。

## Mac/Linuxの環境における注意事項

- Mac OS バージョン10.4.11以降をお使いの場合、マウスダイナシク機能が有効であれば、別の方法でダイナシク機能の設定を行うことができます。デフォルト設定の同期方法で十分な結果が得られなかった場合は、「**Mac 2**」の設定をお試してください。Mac2を選択するには、コントロールパネルのテキストエリアを右クリックし、「マウスシンクモード」>「Mac2用に自動同期」を選択してください。

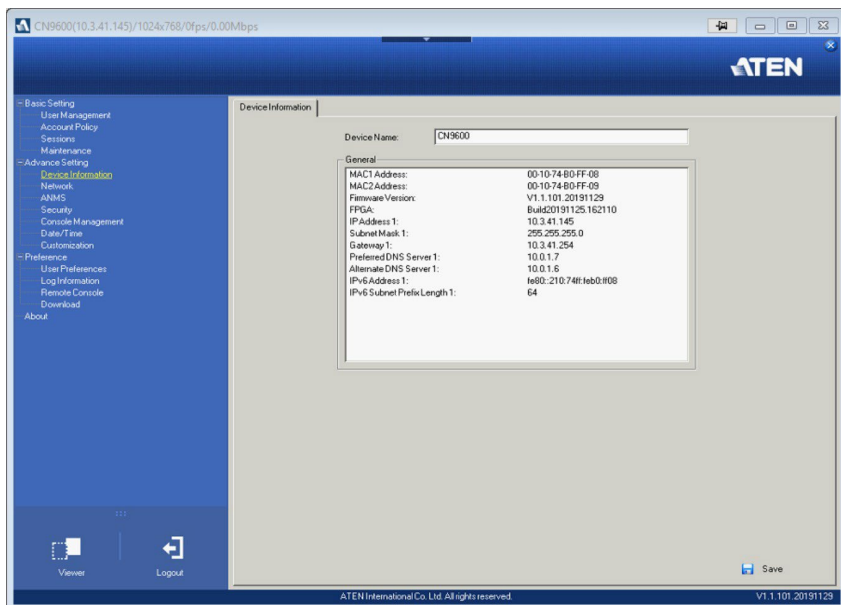


Linuxをお使いの場合、ダイナシクモードはサポートされませんが、マウスシンクモードメニュー(Red hat AS 3.0)の設定を行うことで同期が可能です。AS 3.0の環境でUSBタイプのコンピューターモジュール(前頁の注意書き参照)を使用し、デフォルトのマウス同期の方法では十分な結果が得られなかった場合は、Red hat AS3.0の設定をお試してください。ただし、上記のいずれの場合においても、次のセクション記載の手動によるマウス同期の方法で設定を行う必要があります。

## GUIを開く(設定)



ビューワベースで設定を行うには、「GUIを開く」のアイコンをクリックしてください。

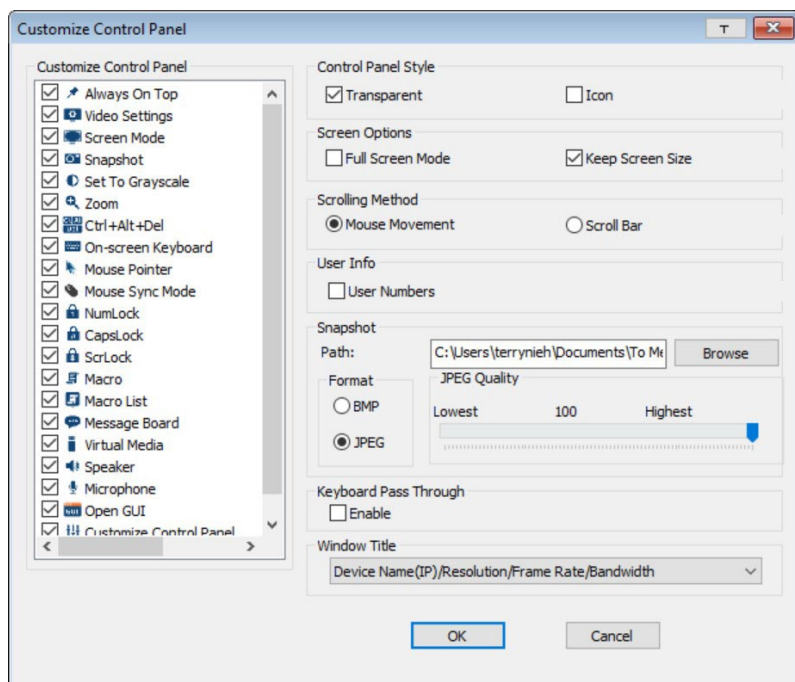


この画面で利用できるサイドバーのメニュー項目は、ユーザーの操作権限に基づいています。これらの機能の使用方法については、p.49「設定」を参照してください。

## コントロールパネルの設定



コントロールパネルのカスタマイズアイコンをクリックすると、グラフィカル設定とともに、次のようなコントロールパネルに表示される項目を設定できるダイアログボックスが表示されます。



ダイアログボックスは主に5つのセクションから構成されています。各部分の詳細は下表のとおりです。

| 項目               | 説明                                                                                                                                                                                                                |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| コントロールパネルのカスタマイズ | コントロールパネルに表示するアイコンを選択することができます。                                                                                                                                                                                   |
| コントロールパネルのスタイル   | <ul style="list-style-type: none"><li>◆「透明」の項目にチェックを入れると、コントロールパネルが半透明になり、下にあるオブジェクトを確認することができます。</li><li>◆「アイコン」の項目にチェックを入れると、コントロールパネルの上にマウスを置くまでコントロールパネルがアイコンとして表示されます。マウスをアイコンの上に置くと、パネル全体が表示されます。</li></ul> |

| 項目      | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 画面オプション | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆「フルスクリーンモード」の項目にチェックが入っている場合、リモート画面はお使いのモニターにフルサイズで表示されます。</li> <li>◆フルスクリーンモードが有効になっていない場合、リモート側の画面はクライアント側のデスクトップにウィンドウ形式で表示されます。リモート画面がウィンドウに収まりきらない大きさの場合は、スクロールバーが表示されます。</li> <li>◆「画面サイズを保持する」の項目にチェックが入っている場合、リモート画面のサイズは変更されません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ リモート側の画面の解像度がローカルモニターの画面の解像度より小さい場合、リモート側のデスクトップ画面はウィンドウ形式で画面の中央に表示されます。</li> <li>➤ リモート側の画面の解像度がローカルモニターの画面の解像度よりも大きい場合、リモート側のデスクトップ画面はローカルモニターの大きさに合わせてサイズ調整されます。</li> </ul> </li> <li>◆「画面サイズを保持する」の項目にチェックが入っていない場合、リモート側のデスクトップ画面はローカルモニターの解像度に合わせてサイズ変更されます。</li> </ul> |
| スクロール方法 | <p>リモート画面の表示がモニターよりも大きい場合、画面外の領域にスクロールする方法を選択することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆「マウスの動き」を選択すると、マウスポインターを画面の境界に移動したときに画面がスクロールします。</li> <li>◆「スクロールバー」を選択すると、画面の境界線の周りに表示されたスクロールバーを使用して画面外の領域にスクロールすることができます。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| ユーザー情報  | <p>「ユーザー数」を有効にすると、RCM KVM over IPにログインしたユーザーの総数が、コントロールパネルの2行目の解像度の横に表示されます（例については、p.112におけるコントロールパネルの図を参照してください）。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |

| 項目             | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| スナップショット       | <p>これらの設定により、ユーザーはRCM KVM over IPの画面キャプチャーにおけるパラメーターを構成できます (p.112「Win/Javaクライアントコントロールパネル」のスナップショットの説明を参照) :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「パス」は、キャプチャーした画面が自動的に保存されるディレクトリーを選択できます。「参照」ボタンをクリックし、対象となるフォルダーを「フォルダーの選択」ダイアログから選択して「OK」ボタンをクリックしてください。ここでディレクトリーを指定しない場合、スナップショットはデスクトップに保存されます。</li> <li>◆ キャプチャーした画面のイメージの保存形式 (BMP、JPEG) をラジオボタンで選択してください。</li> <li>◆ JPEGを選択した場合は、キャプチャーした画像の画質をスライダーバーで調整することができます。画質を上げるとより鮮明な画像になりますが、ファイルサイズが大きくなります。</li> </ul> |
| キーボード<br>パススルー | <p>これを有効にすると、[Alt]+[Tab]キーの押下がりモートサーバーに渡され、そのサーバーに影響します。この項目が有効になっていない場合は、[Alt]+[Tab]のキー操作がローカルクライアントコンピューター上で実行されます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| ウィンドウのタイトル     | <p>ドロップダウンメニューを使用して、ウィンドウのタイトルに表示させるリモートサーバー情報を選択してください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |



## Webクライアントのコントロールパネル

Webクライアントのコントロールパネルは、Winクライアントのコントロールパネルを、より簡易的にしたものです。詳細は下記のとおりです：

### 注意：

OSDホットキーは、Webクライアントではサポートされていません（p.99「ユーザー設定」参照）。



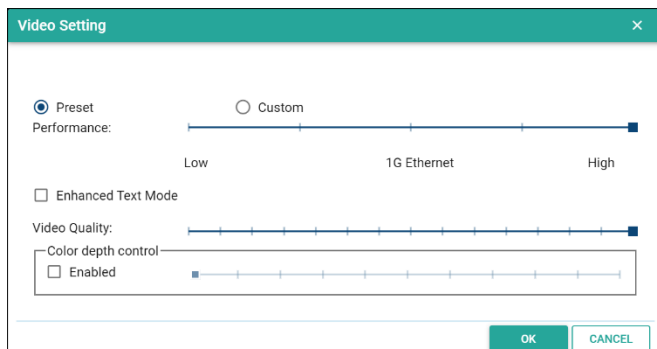
## 機能

| アイコン                                                                                | 機能                                                                              |
|-------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
|    | これはトグルボタンです。クリックしてコントロールパネルを固定します。つまり、常に他の画面要素の上に表示されます。もう一度クリックすると、通常の状態に戻します。 |
|    | 「ビデオ設定」ウィンドウをクリックします。（詳細についてはp.149「Webクライアントのビデオ設定」を参照してください）。                  |
|  | クリックすると、ビデオの自動同期操作が実行されます。                                                      |
|  | 「画面モード」ドロップダウンメニューを選択します。「フルスクリーンモード」と「ウィンドウに合わせる」のどちらかを選択します。                  |
|  | クリックして、リモートディスプレイをカラー表示とグレースケール表示の間で切り替えます。                                     |
|  | パネルアレイモードは、RCM KVM over IPには適用されません。                                            |
|  | 使用可能なオンラインポートのドロップダウンメニューをクリックし、接続するポートをクリックして選択します。                            |

| アイコン                                                                              | 機能                                                                                                                                             |
|-----------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|  | <p>クリックすると、[Ctrl] + [Alt] + [Delete]の信号がリモートシステムに送信されます。</p>                                                                                   |
|  | <p>オンスクリーンの英語キーボードをクリックしてください(詳細については p.150「Webクライアントのオンスクリーンキーボード」を参照してください)。</p>                                                             |
|  | <p>クリックすると、マウスポインターの種類を選択します。</p> <p><b>注意:</b></p> <p>このアイコンは、変更されているマウスポインターの種類によって変わります(詳細については、p.150「Webクライアントのマウスポインターの種類」を参照してください)。</p> |
|  | <p>マウス同期モードのメニューをクリックしてください(この機能の完全な説明については、p.152「Webクライアントの「マウス同期モード」を参照してください)。</p>                                                          |
|  | <p>クリックすると、「バーチャルメディア」ダイアログボックスを表示します。アイコンは、バーチャルメディア機能の状態に応じて変化します(詳細についてはp.151「バーチャルメディア」を参照してください)。</p>                                     |
|  | <p>クリックして、クライアントコンピューターのスピーカーで聞こえるようにリモートサーバーからの音声のON/OFFを切り替えます。スピーカーをOFFに切り替えると、アイコンに「禁止」マークが表示されます。</p>                                     |

## Webクライアントのビデオ設定

このアイコンをクリックすると、Webクライアントのビデオ設定が表示されます：

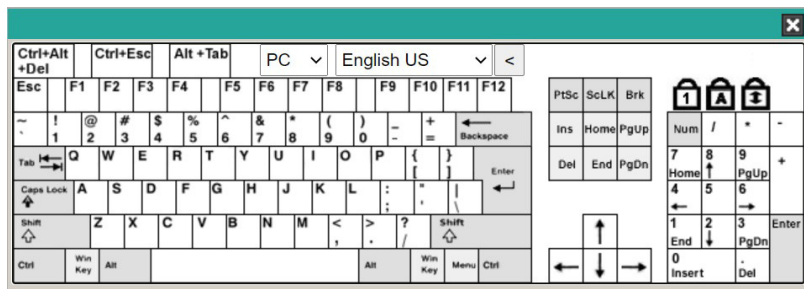


各選択とその機能は下表のとおりです。

| オプション      | 使用方法                                                                                                                                                                                                                      |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| パフォーマンス    | <p>スライダーを使用して、ローカルクライアントコンピューターが使用するインターネット接続のタイプを選択してください。本機はその選択を使用して、ビデオ表示の品質を最適化するためにビデオ品質設定を自動的に調整します。</p> <p>ネットワーク状態は様々であるため、プリセットの選択肢のいずれもうまく動作しないように見える場合は、「詳細」を選択し、「ビデオ品質」スライダーを使用して、条件に合わせて設定を調整することができます。</p> |
| テキストモードの強化 | <p>一部のインターフェースシステム（Sun Blade1000やその他のサーバーなど）に影響するビデオ画面解像度に関連するビデオ表示の問題を解決するには、これをONIにしてください。この設定により、一部の表示で画像の色を改善できます。</p> <p>デフォルトYUV: 4:1:1</p> <p>拡張テキストモードYUV: 4:4:4</p>                                              |
| ビデオ品質      | <p>スライダーバーをドラッグしてビデオ全体の画質を調節します。値が大きくなるにつれて、画像はより鮮明に、また、ネットワークに転送されるビデオデータの量はより大きくなります。ネットワーク帯域によっては、値を大きくすると応答時間が低下する場合があります。</p>                                                                                        |
| 色深度コントロール  | <p>この設定は、色情報の量を調節することによって、ビデオ表示の豊かさを決定します。</p>                                                                                                                                                                            |

## Webクライアントのオンスクリーンキーボード

このアイコンをクリックすると、オンスクリーン英語キーボードが表示されます：



## Webクライアントのマウスポインターの種類

RCM KVM over IPでは、リモートディスプレイでの作業時に、マウスポインターに関して複数のオプションを提供します。このアイコンをクリックして、使用したいタイプを選択してください：



### 注意：

1. 利用可能なオプションはブラウザによって異なります。例えば、Internet Explorerにはデュアルと十字タイプがあり、Chromeにはデュアル、十字、シングルカーソルがあります。
2. コントロールパネルのアイコンはポインターの選択に合わせて変化します。

## バーチャルメディア

バーチャルメディアデバイスをセットアップするには、次の手順に従って操作を行ってください：

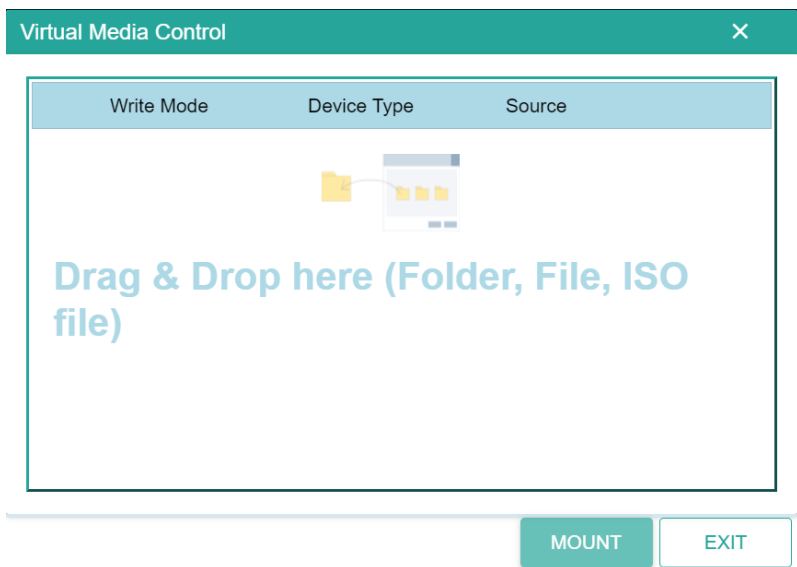
1. 「バーチャルメディア」アイコンをクリックして、バーチャルメディアコントロールを表示してください。

---

### 注意：

Internet Explorer Webブラウザの場合、ISOファイルのみがサポートされます (p.132「バーチャルメディア」を参照)。

---

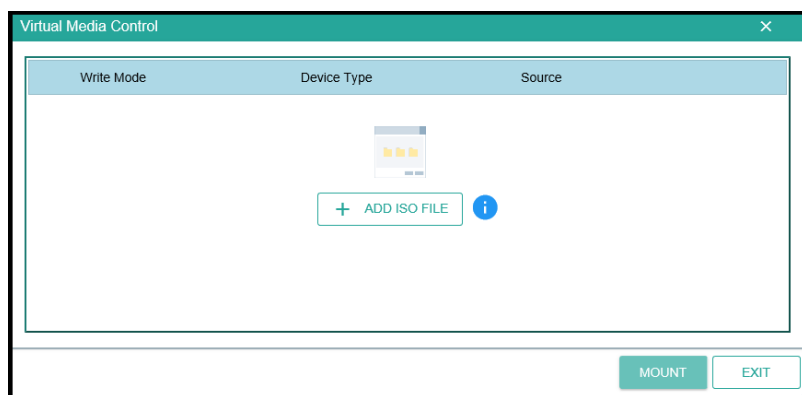


2. 選択したファイルを「バーチャルメディア制御」ダイアログボックスにドラッグ&ドロップして、「マウント」をクリックするだけです。
3. リダイレクトを終了するには、バーチャルメディアアイコンをクリックします。マウントされているすべてのデバイスが自動的にマウント解除されます。

## Internet Explorerを使用したバーチャルメディアの追加

Internet Explorerを使用してバーチャルメディアのデバイスをセットアップするには、次の手順を実行します：

1. 「バーチャルメディア」アイコンをクリックして、バーチャルメディアコントロールを表示してください。



2. **+ ADD ISO FILE** をクリックしてISOファイルを選択したら、「開く」をクリックしてください。
3. 「マウント」をクリックし、バーチャルメディアデバイスをマウントしてください。
4. リダイレクトを終了するには、バーチャルメディアアイコンをクリックしてください。そうすると、マウントされているすべてのデバイスのマウントが自動的に解除されます。

## Webクライアントのマウスダイナシクモード

ローカルマウスポインターとリモートマウスポインターの同期は、自動的に、または手動で行われます。詳細については、p.141「マウスダイナシクモード」を参照してください。

## 第8章

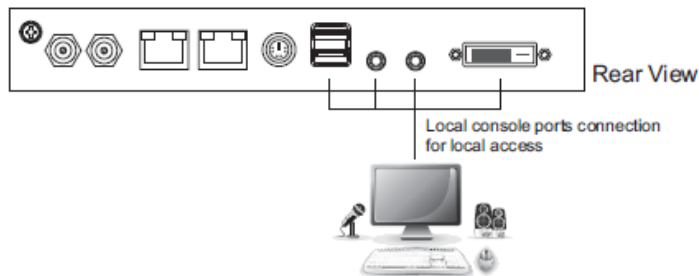
# ローカルアクセス

RCM KVM over IPは、ローカルコンソールのキーボード/マウス/モニターから直接、またはローカル側のラップトップ・アプリケーション (AP) プログラムを介してアクセスできます。

### ローカルコンソール

---

RCM KVM over IPのローカルコンソールポートにキーボード、マウス、モニターを接続すると、RCM KVM over IPが接続されているサーバー/コンピュータに直接アクセスできます。下図では、RCMDVI101を例として示します。

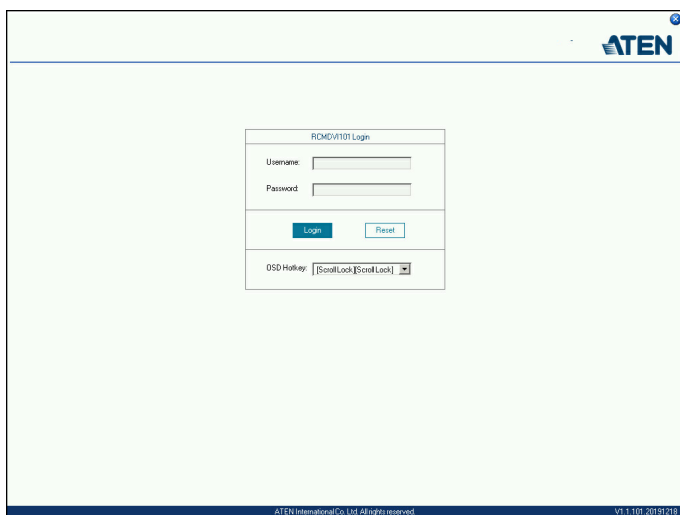


このアクセスは、サーバー/コンピュータを直接使用する場合と同様です。RCM KVM over IPは、ローカルコンソールとリモートコンソールの両方に信号を分割できます。

- ◆ デフォルトでは、ローカルコンソールが優先されます。
- ◆ ローカルコンソールユーザーとリモートコンソールユーザーの同時使用を設定するには、p.97「マルチユーザーモード」を参照してください。

RCM KVM over IPを設定する場合は、設定画面のOSDホットキー（デフォルトでは[Scroll Lock][Scroll Lock]）を押すことができます。

最初にログイン画面が表示されます。

The image shows a web-based login interface for the RCMD/V101 system. At the top right, the ATEN logo is displayed. The main content area is a light green rectangle. In the center, there is a white box titled "RCMD/V101 Login". Inside this box, there are two input fields: "Username" and "Password". Below these fields are two buttons: "Login" (in blue) and "Reset" (in light blue). At the bottom of the white box, there is a label "OSD Hotkey" followed by a dropdown menu showing "[ScrollLock][ScrollLock]". The footer of the page is a dark blue bar containing the text "ATEN International Co., Ltd. All rights reserved." on the left and "V1.1.101.20191218" on the right.

ユーザーネームとパスワードを入力すると、設定画面に進みます。

---

#### 注意:

アドミニストレーターで、初めてログインする場合は、デフォルトユーザーネーム (administrator) とデフォルトのパスワード (password) を使用します。セキュリティ上の理由から、ログインパスワードの変更を求めるプロンプトが表示されます。このパスワードは、ログインパスワードとは異なるものに設定してください。

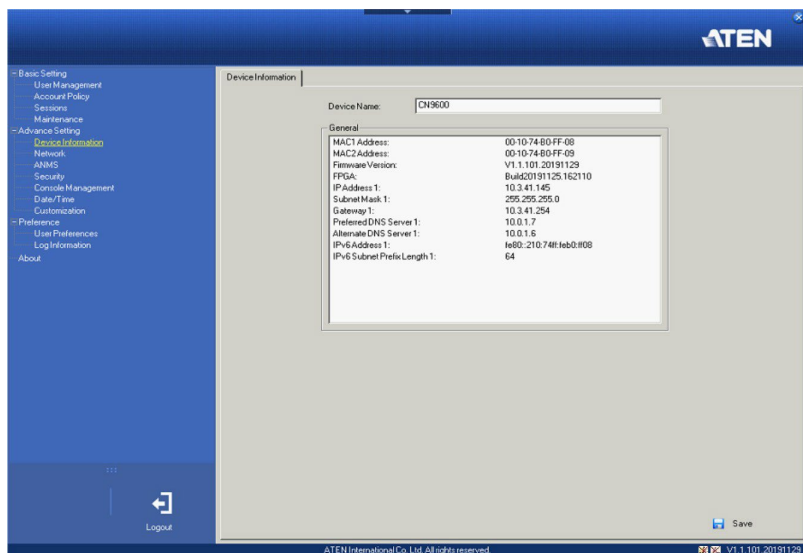
---



## ローカルOSD

設定画面はWebブラウザのバージョンと同じです。詳細については、p.49「設定」を参照してください。ローカルコンソールに接続されているスピー

ーカーとマイクを有効/無効にするには、OSDの右下隅にある   アイコンを押してください。



### 注意:

ローカルコンソールのマイクを有効にすると、ローカルマイクが優先されるため、すべてのリモートビューワーのマイク機能は機能しなくなります。

## ラップトップUSBコンソール(LUC)

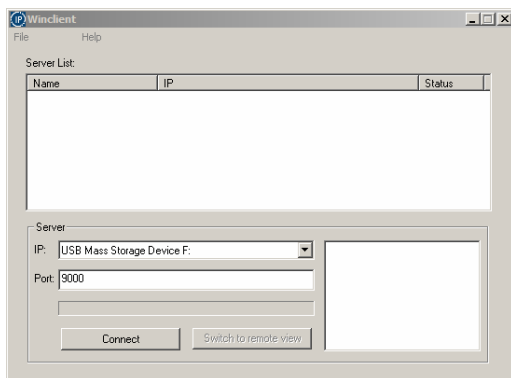
---

USB Mini-BポートはノートパソコンからアクセスするためのラップトップUSBコンソールポートとして使用できます。これにより、ノートパソコンをポートに接続するだけで、ローカル側から直接、RCM KVM over IPを簡単に設定することができます。ノートパソコンを使用すると、RCM KVM over IPアプリケーションにアクセスして編集できます。

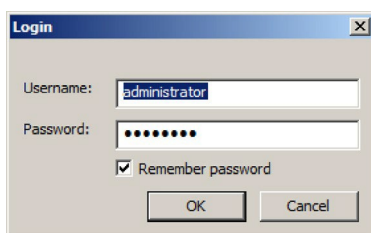
この機能を有効にするには、最初にRCM KVM over IPのUSB IO設定をLUCモードに設定する必要があります。RCM KVM over IPのブラウザー設定(設定の場所:「詳細設定」>「カスタマイズ」>「USB IO設定」>「モード」)のドロップダウンメニューをクリックし、「ラップトップUSBコンソール(LUC)ポート」を選択してください。

LUCを操作するラップトップ・アプリケーション(AP)プログラムは、RCM KVM over IPのファームウェアに組み込まれているため、ダウンロードの必要はありません。製品本体にアクセスするには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. パッケージに含まれているUSB2.0ケーブル(USB Type-A→USB Mini-B)を使用して、ノートパソコンをRCM KVM over IPのMini-USBポートに接続してください(p.25「セットアップ」参照)。
2. RCM KVM over IPは、ノートパソコンのファイルシステムにバーチャルドライブとして表示されます。ドライブに移動し、WinクライアントAPまたはJavaクライアントAPの場所を確認してください。希望するクライアントを選択し、アイコンをダブルクリックしてください。APの接続画面が表示されます。次に例を示します。

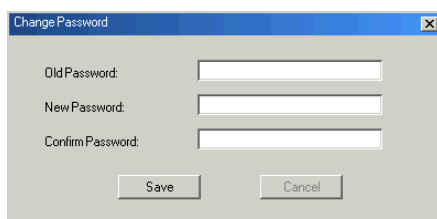


3. 「USB大容量記憶装置デバイス」を選択し、「**接続**」をクリックしてください。



4. ユーザーネーム (administrator) とパスワード (password) を入力し、「**OK**」をクリックしてください。
5. ログインに成功すると、「**リモート表示**」ボタンがアクティブになります。
6. 「**リモートビュー**」をクリックして、ラップトップコンソールのメイン画面を表示してください。

初めてシステムにログインすると、パスワードの変更を求めるプロンプトが表示されます。



7. 空欄に適切な値を入力し、「**保存**」をクリックして新しいパスワードを保存してください。

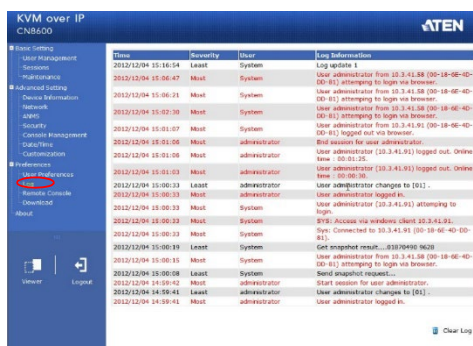
ラップトップコンソールのメイン画面は、Webブラウザー、Winクライアント、およびJavaクライアントのメイン画面と同様です。詳細については、p.108「WindowsクライアントAP」を参照してください。また、操作については本マニュアルの残りのアプリケーションGUIのセクションを参照してください。

# 第9章

## ログファイル

### ログファイル画面

RCM KVM over IPは、そのスイッチで発生したすべてのイベントをログに記録します。リセットすると、すべてのログがクリアされます。ログファイルの内容を表示するには、画面の左中央にあるログアイコンをクリックします。外観は下図のとおりです。



最大1024のイベントがログファイルに保持されます。新しいイベントが記録されると、リストの一番下には書き込まれます。ログファイルに1024件のイベントが記録された後に新しいイベントが記録されると、リスト内の最も古いイベントは破棄されます。

#### 注意:

(直近の1024件だけでなく)発生したすべてのイベントの記録を保持して参照するには、ログサーバーAPプログラムを設定してください。詳細はp.160「ログサーバー」を参照してください。

ログファイルを消去するには、画面の右下にある「ログのクリア」アイコンをクリックしてください。

# 第10章

## ログサーバー

ログサーバーは、選択したRCM KVM over IPユニットで発生したすべてのイベントを記録し、検索可能なデータベースに書き込むWindowsベースの管理ユーティリティです。

### セットアップ

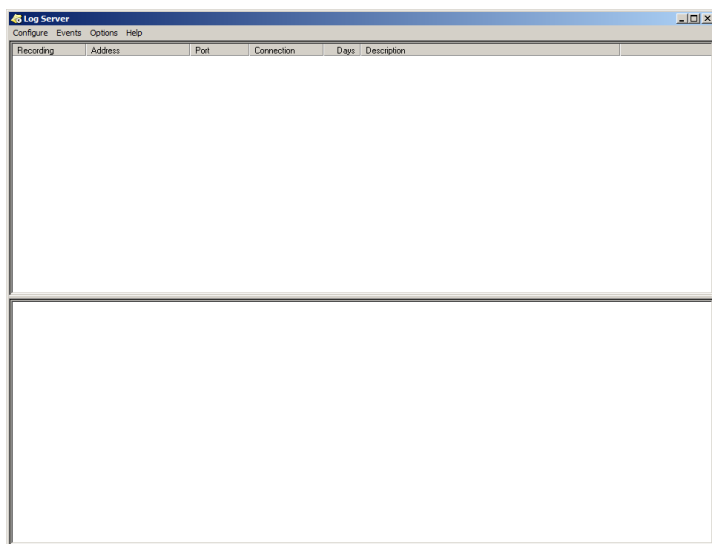
---

1. Web GUIで、ダウンロード画面に移動してください。詳細については、p.108「ダウンロード」を参照してください。
2. 「ログサーバーAPのダウンロード」ボタンをクリックしてください。
3. 画面の指示に従ってインストールを完了し、ログサーバープログラムアイコンをデスクトップに表示してください。

### 起動

---

ログサーバーのメイン画面を表示するには、プログラムアイコンをダブルクリックするか、コマンドラインからこのプログラムのフルパスを入力して実行してください。プログラムの初回起動時には、次のような画面が表示されます。



---

**注意:**

1. ログサーバーとして使用するコンピューターのMACアドレスは、ANMS設定で指定する必要があります。詳細については、p.69「ログサーバー」を参照してください。
2. ログサーバーにはMicrosoft Jet OLEDB 4.0ドライバーが必要です。プログラムが起動しない場合は、p.194「ログサーバー」を参照してください。

---

画面は3つのコンポーネントに分かれています。

- ◆ 上部のメニューバー
- ◆ 中央にRCM KVM over IPユニットのリストが表示されるパネル(詳細はp.167「ログサーバーのメイン画面」を参照)。
- ◆ 下部のイベントリストパネル

各コンポーネントについては、以降のセクションで説明します。

## メニューバー

---

メニューバーには4つの項目があります。

- ◆ 設定
- ◆ イベント
- ◆ オプション
- ◆ ヘルプ

これらについては、以降のセクションで説明します。

---

### 注意:

メニューバーが無効になっているように見える場合は、RCM KVM over IPリストウィンドウの中をクリックして有効にしてください。

---

## 設定

「設定」メニューには、「追加」、「編集」、および「削除」の3つの項目があります。これらは、RCM KVM over IPリストに新規デバイスユニットを追加したり、すでにリストにあるユニットの情報を編集したり、リストからデバイスユニットを削除したりするために使用されます。

- ◆ RCM KVM over IPをリストに追加するには、「**追加**」をクリックしてください。
- ◆ 列挙されているRCM KVM over IPを編集または削除するには、まず「一覧」ウィンドウで目的のRCM KVM over IPを選択してから、このメニューを開き、「**編集**」または「**削除**」をクリックしてください。



「追加」または「編集」をクリックすると、下図のようなダイアログボックスが表示されます。

各項目の説明は下表のとおりです。

| 項目                     | 説明                                                                                                                           |
|------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アドレス                   | これは、RCM KVM over IPのIPアドレスまたはそのDNS名前（ネットワーク管理者がDNS名前を割り当てている場合）のいずれかになります。ANMS設定のRCM KVM over IPに指定された値を入力します(p.67「ANMS」参照)。 |
| ポート                    | ANMS設定でログサーバーのサービスポート番号として指定されたポート番号を入力してください(p.69「ログサーバー」参照)。                                                               |
| 説明                     | この項目は、ユニットを識別するのに役立つ説明を入力できるように提供されたものです。                                                                                    |
| 期限                     | ここには、イベントが失効してクリアされる前にイベントをログサーバーのデータベースに保持する日数を指定します。                                                                       |
| *日おきに自動エクスポート<br>を実行する | この項目にチェックを入れると、サーバーは一定間隔(の日数)でログファイルを作成し、指定した場所に保存します。<br>「参照...」ボタンをクリックして、ログファイルを保存したいファイルフォルダーを指定してください。                  |

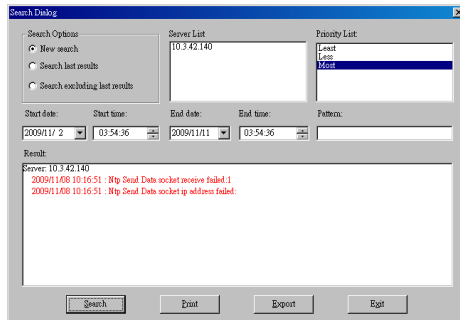
項目への入力や変更が完了したら、「OK」ボタンをクリックしてください。

## イベント

「イベント」メニューは「検索」と「メンテナンス」の2つのサブメニューから構成されています。

### 検索

「検索」メニューでは、特定の単語や文字列を含むイベントを検索することができます。この機能にアクセスすると、次のような画面が表示されます。



各項目の説明を下表に示します。

| 項目          | 説明                                                                                                                                      |
|-------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 新規検索        | これは、検索範囲を定義する3つのラジオボタンのうちの1つです。選択すると、選択したRCM KVM over IPのデータベース内のすべてのイベントで検索が実行されます。                                                    |
| 前回の結果から検索   | これが選択されると、前回の検索の結果として得られたイベントに対して2次検索を実行します。                                                                                            |
| 前回の結果以外から検索 | これは、最後の検索結果のイベントを除いて、選択したRCM KVM over IPのデータベース内のすべてのイベントに対して実行される二次検索です。                                                               |
| サーバーリスト     | RCM KVM over IPユニットは、IPアドレスに従って一覧表示されます。ログの検索対象となるユニットをリストから選択してください。複数のユニットを検索対象として選択することができます。ユニットが選択されていない場合は、すべてのユニットに対して検索が実行されます。 |

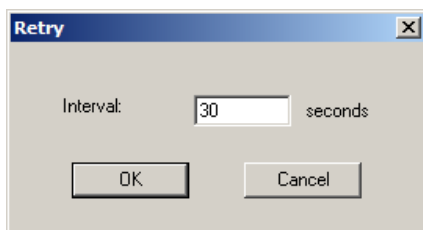
|        |                                                                                                                                     |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 優先度リスト | 検索結果をどの程度詳細に表示するかを設定します。「Least」を選択すると簡易版表示を、「Most」を選択すると詳細表示をそれぞれ行います。またレベルが「Least」の検索結果は黒色で、「Less」の結果は青色で、「Most」の結果は赤色でそれぞれ表示されます。 |
| 開始日    | 検索を開始する日付を選択します。「YYYY/MM/DD」の形式で入力してください。<br>2009/11/04                                                                             |
| 開始時刻   | 検索を開始する時刻を選択します。                                                                                                                    |
| 終了日    | 検索を終了する日付を選択します。                                                                                                                    |
| 終了時刻   | 検索を終了する時間を選択します。                                                                                                                    |
| パターン   | パターン検索を行う場合の文字列を入力してください。任意の文字列を表すワイルドカード(*)を使用することができます。例:h*dsという検索条件で、「hands」と「hoods」という文字列にヒットします。                               |
| 結果     | 検索条件に一致したイベントが一覧表示されます。                                                                                                             |
| 検索     | このボタンをクリックすると検索が開始します。                                                                                                              |
| 印刷     | このボタンをクリックすると検索結果を印刷します。                                                                                                            |
| エクスポート | このボタンをクリックすると、検索結果がtxtファイルに書き込まれます。                                                                                                 |
| 終了     | このボタンをクリックすると「検索」ダイアログボックスを終了します。                                                                                                   |

## メンテナンス

この機能を使うことで、ユニットの管理者は「編集」機能の「期限」の項目で設定した保管期限を過ぎていないログの内容を手動で削除することができます(p.163参照)。

## オプション

「ネットワークの再試行」では、前回の接続試行が失敗した場合に、ログサーバーが接続を試行するまでに待機する秒数を設定できます。この項目をクリックすると、次のようなダイアログボックスが表示されます。



待機秒数を入力したら「OK」ボタンをクリックし、操作を完了してください。

## ヘルプ

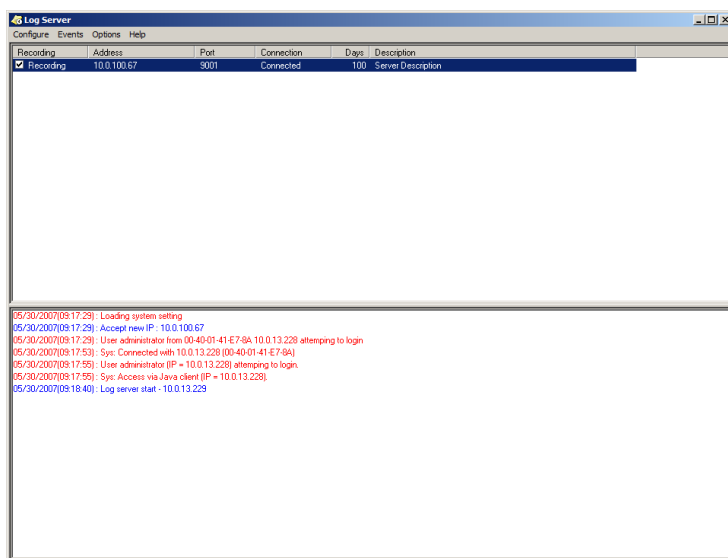
オンラインのWindowsヘルプファイルにアクセスするには、このメニューから「コンテンツ」をクリックしてください。ヘルプファイルには、ログサーバーのセットアップ、操作、およびトラブルシューティングの各方法が記載されています。

## ログサーバーのメイン画面

### 概要

ログサーバーのメイン画面は大まかに次の2つのパネルから構成されています。

- ◆ 上部(リスト)パネルには、ログサーバーが追跡するために選択されているRCM KVM over IPユニットが一覧表示されます (p.162「設定」参照)。
- ◆ 下部(イベント)パネルには、現在選択されているRCM KVM over IPのログイベント(複数ある場合は強調表示されているもの)が表示されます。リスト内のRCM KVM over IPユニットを選択するには、そのユニットをクリックしてください。



## リストパネル

リストパネルには6つの項目があります。

| 項目   | 説明                                                                                                                                                                                                                                                |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 記録中  | ログサーバーがこのRCM KVM over IPのログイベントを記録するかどうかを決定します。「記録中」の項目にチェックを入れると、この欄に「記録中」と表示され、ログイベントの記録を行います。項目からチェックを外すと、この欄に「一時停止」と表示され、ログイベントの記録は行われません。<br><b>注意:</b><br>RCM KVM over IPは現在選択されているスイッチではありませんが、「記録」チェックボックスが選択されている場合、ログサーバーはログイベントを記録します。 |
| アドレス | これは、RCM KVM over IPがログサーバーに追加されたときに付与されたIPアドレスまたはDNS名です (p.162「設定」参照)。                                                                                                                                                                            |
| ポート  | これは、RCM KVM over IPがログサーバーに追加されたときに割り当てられたポート番号です (p.162「設定」参照)。                                                                                                                                                                                  |
| 接続   | ログサーバーがRCM KVM over IPに接続されている場合、このフィールドには「接続」と表示されます。<br>接続していない場合は、この欄に「待機中」と表示されます。これはログサーバーのMACアドレスまたはポート番号が正しく設定されていないことを表しています。「AMNS」メニュー (p.67参照) および「設定」ダイアログボックス (p.162参照) で正しい値を設定する必要があります。                                            |
| 日数   | この欄には、RCM KVM over IPのログイベントが期限切れまでにログサーバーのデータベースに保持される日数が表示されます (p.162「設定」参照)。                                                                                                                                                                   |
| 説明   | この項目には、RCM KVM over IPがログサーバーに追加されたときに表示される説明情報が表示されます (p.162「設定」参照)。                                                                                                                                                                             |

## 選択ユニットのログ表示パネル

下部パネルには、現在選択されているRCM KVM over IPのチェック情報が表示されます。お使いの環境で複数台のユニットを使用している場合、そのユニットが現在選択されていなくても、「記録中」のチェックボックスにチェックが入っていれば、ログサーバーはログの変動情報を記録し、データベースに保持します。

## 安全にお使いいただくために

---

### 全般

- ◆ 本製品は、屋内での使用に限ります。
- ◆ 製品に同梱されるドキュメントは全てお読みください。またドキュメント類は全て保存してください。
- ◆ また、弊社Webサイトに掲載のオンラインユーザーマニュアルもご確認ください。
- ◆ 落下による事故・製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面(台車、簡易的なスタンドやテーブル等)を避けるようにしてください。装置が落下すると、深刻な損傷が生じます。
- ◆ 製品が水に濡れるおそれのあるような場所で使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、またはその熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 製品のケースには必要に応じて通気口が設けられています。通気口のある製品は、安定した運用を行うため、また製品の過熱を防ぐために、開口部を塞いだり覆ったりしないでください。
- ◆ 製品をベッドやソファ、ラグなどの柔らかいものの上に置かないでください。開口部が塞がれ、適切な通気が確保できずに製品が過熱するおそれがあります。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ 電源プラグを電源コンセントから抜く場合は、乾いた雑巾でプラグ周りのホコリを掃除してください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。お手入れには、湿らせて固く絞った布を使用してください。
- ◆ 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。

- ◆ お使いの装置への損傷を避けるためにも、すべての装置を適切に接地するようにしてください。
- ◆ 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。人が通行するような場所を避けて電源コードを設置してください。
- ◆ システムケーブルや電源ケーブルは丁寧に扱ってください。これらのケーブル類の上には何も置かないようにしてください。
- ◆ ホットプラグ対応パワーサプライの取り付け、または取り外しする場合は、以下の注意事項に従ってください。
  - 電源ケーブルを接続する前に、パワーサプライのセットアップを行ってください。
  - パワーサプライを取り外す前に電源ケーブルを抜いてください。
  - お使いのシステムが複数のパワーサプライをお使いである場合、パワーサプライからすべての電源ケーブルを抜いてお使いのシステムから切り離してください。
- ◆ 危険な電源ポイントへの接触やショートによって、発火したり感電したりするおそれがありますので、キャビネットの空きスロット等に押し込まないようにしてください。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、ご不明な点がございましたら技術サポートまでご相談ください。すべての保守については、適格な保守担当者に問い合わせてください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントからはずして技術サポートに修理を依頼してください。
  - 電源コードが破損した。
  - 装置の上に液体をこぼした。
  - 装置が雨や水にぬれた。
  - 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
  - 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
  - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。他のコントロールの不適切な調整は、修理する資格のある技術者による広範な作業を必要とする損傷をもたらす可能性があります。



す。

- ◆ ソケットコンセントは装置の近くに設置し、容易にアクセスできるものとする。
- ◆ インレット電源コードの選択：取り外し可能、長さ最大2.0m、18AWG、フレキシブルコード(125V、10A、3C、NEMA5-15P)。または、0.75mm<sup>2</sup>、3G、フレキシブルコード(例：H05VV-F、250V10A)。

## ラックへのマウント

- ◆ ラックでの作業を始める前に、スタビライザーがラックに固定され床に接していること、また、ラック全体が安定した場所に置かれていることを確認してください。作業する前に、シングルラックにフロントとサイドのスタビライザーを取り付けるか、結合された複数のラックにフロントスタビライザーを取り付けてください。
- ◆ ラックには下から上に向かって、一番重いアイテムから順番に取り付けてください。
- ◆ デバイスを拡張する前にラックが水平で安定していることを確認してください。
- ◆ デバイスレールのリリース用ラッチを押しながらデバイスをスライドさせてラックに出し入れする際にはスライドレールに指を挟まないようにご注意ください。
- ◆ デバイスがラックに挿入されたら、慎重にレールをロックする位置までスライドしてください。
- ◆ ラックに供給するAC電源の分岐回路が過剰供給にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は分岐回路の80%を越えないように設定する必要があります。
- ◆ ラックにマウントされたデバイスは、電源タップも含め、すべて正しく接地されていることを確認してください。
- ◆ ラックへの通気を十分に確保してください。
- ◆ 本製品で定められている保管温度を超えないように、ラックが設置されている場所の室温を調節してください。
- ◆ ラックに設置されているデバイスが動作している際に、デバイスを踏んだりデバイスにより登ったりしないでください。

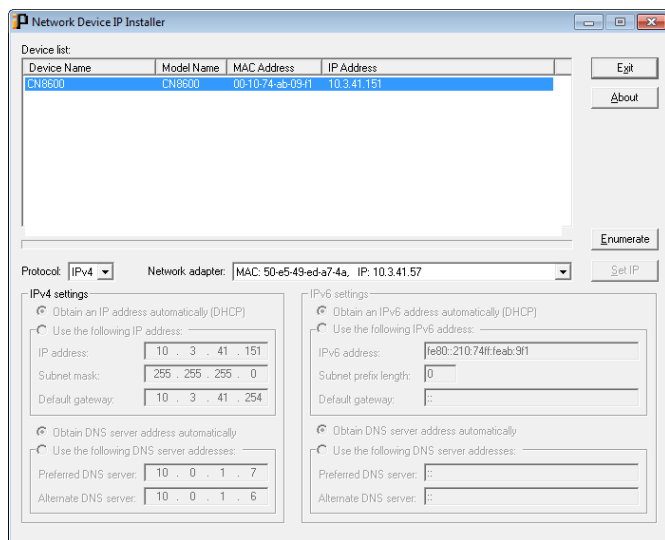
## IPアドレスの設定

管理者として初めてログインする場合は、ユーザーが接続できるIPアドレスを付与するために、RCM KVM over IPにアクセスする必要があります。設定方法はいくつかありますが、いずれの場合も、コンピューターはRCM KVM over IPと同じネットワークセグメント上になければなりません。接続してログインすると、RCM KVM over IPに固定ネットワークアドレスを与えることができます。(p.62「ネットワーク」参照)

### IPインストーラー

Windowsがインストールされているコンピューターであれば、IPインストーラーというツールを使用してIPアドレスを割り当てることができます。

1. RCM KVM over IP ATENのWebサイトで、「サポートとダウンロード」タブにある**IPインストーラー**をダウンロードしてください。
2. ダウンロードしたファイル(IPInstaller.exe)を実行してください。次のようなダイアログボックスが表示されます。



3. デバイスリストでRCM KVM over IPを選択してください。

---

**注意:**

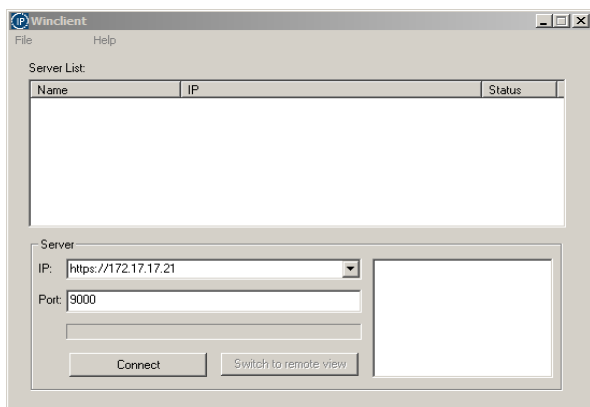
1. リストに何も表示されない、また、対象となるユニットが表示されない場合は、「**一覧表示**」をクリックして、デバイスリストを更新してください。
  2. リストに複数のデバイスがある場合は、MACアドレスを使用して目的のデバイスを選択します。RCM KVM over IPのMACアドレスは、下部パネルにあります。
- 
4. DHCPを使ってIPアドレスを自動的に取得する場合は「IPアドレスを自動取得する」を、固定IPアドレスを設定する場合は「IPアドレスを指定する」をそれぞれ選択してください。後者を選択した場合は、製品がセットアップされているネットワークで有効なIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイをそれぞれ該当欄に入力してください。
  5. 「**IPの設定**」ボタンをクリックしてください。
  6. IPアドレスが「**デバイス一覧**」に表示されたら、「**終了**」ボタンをクリックしてください。

## **ブラウザー**

1. お使いのコンピューターのIPアドレスを「192.168.0.XXX」に設定してください。  
  
ここで、XXXは60以外の任意の番号または番号を表します(192.168.0.60はRCM KVM over IPのデフォルトアドレスです)。
2. Webブラウザーのアドレスバーに、ユニットのデフォルトIPアドレス(192.168.0.60)を指定すると、接続できるようになります。
3. RCM KVM over IPに、存在するネットワークセグメントに適した固定IPアドレスを割り当ててください。
4. ログアウトしたら、手順1で設定を変更したコンピューターのIPアドレスを元の値に戻しておいてください。

## AP Windowsクライアント

Windowsを実行しているコンピューターの場合、RCM KVM over IPのIPアドレスは、Windows APプログラムで確認できます(p.108「Windows クライアント AP」参照)。プログラムを実行すると、RCM KVM over IPデバイスのネットワークセグメントが検索され、次のようなダイアログボックスが表示されます：



これで、このネットワークアドレスを使用することができます。あるいは、「ネットワーク」メニューで変更することもできます。詳細はp.64を参照してください。

現在、RCM KVM over IPは、リンクローカルIPv6アドレスとIPv6ステートレス自動設定の2つのIPv6アドレスプロトコルをサポートしています。

### リンクローカルアドレス

電源投入時に、RCM KVM over IPは自動的にリンクローカルIPv6アドレス(fe80::210:74ff:fe61:1efなど)で設定されます。リンクローカルIPv6アドレスの内容を確認するには、RCM KVM over IPのIPv4アドレスでログインし、「基本設定」アイコンをクリックしてください。アドレスは、基本設定画面の下部に表示されます(p.50参照)。

IPv6アドレスの内容が確定すると、ブラウザやWindows、Javaの各クライアントソフトウェアからログインする際にこのアドレスを使うことができます。

次に例を示します。

ブラウザからログインする場合には、URLバーにアドレスを次のように入力します。

```
http://[fe80::2001:74ff:fe6e:59%5]
```

また、クライアントソフトウェアからログインする場合には、「サーバー」パネルの「IP」欄(p.109参照)にアドレスを次のように入力してください。

```
fe80::2001:74ff:fe6e:59%5
```

---

#### 注意:

1. リンクローカルIPv6アドレスでログインするには、クライアントコンピューターがRCM KVM over IPと同じローカルネットワークセグメントにセットアップされていなければなりません。
2. %5は、クライアントコンピューターで使用される%インターフェースです。クライアントコンピューターのIPv6アドレスを確認する場合は、コマンドラインから下記のコマンドを実行してください。

```
ipconfig /all
```

「%」値はIPv6アドレスの最後に現れます。

## IPv6ステートレス自動設定

RCM KVM over IPのネットワーク環境に、IPv6ステートレス自動設定機能をサポートするデバイス(ルーターなど)が含まれている場合、RCM KVM over IPスイッチは、IPv6アドレスを生成するためにそのデバイスからプレフィックス情報を取得できます。例えば、2001::74ff:fe6e:59。

先に述べたように、アドレスは「基本設定」メニューの下部に表示されます。

IPv6アドレスの内容が確定すると、ブラウザやWindows、Javaの各クライアントソフトウェアからログインする際にこのアドレスを使うことができます。

次に例を示します。

ブラウザからログインする場合には、URLバーにアドレスを次のように入力してください。

`http://[2001::74ff:fe6e:59]`

また、クライアントソフトウェアからログインする場合には、「サーバー」パネルの「IP」欄(p.109参照)にアドレスを次のように入力します。

`2001::74ff:fe6e:59`

サーバーパネルのIP項目については(「Windowsクライアントの接続画面」を参照)、以下に示します。各コンポーネントについては、p.109の表を参照してください。

## ポートの転送

---

デバイスがルーターの内側にセットアップされている場合、特定のポート経由で特定のデバイス宛に送信されたデータをルーターが転送できるように、ルーター側でポート転送の設定をする必要があります。ポート転送に必要なパラメーターを設定することで、ルーターが特定のポートに送信されたデータをどのデバイスに転送するかを定義します。

例えば、特定のルーターに接続されているRCM KVM over IPのIPアドレスが192.168.1.180の場合、ルーターのセットアッププログラムにログインし、ポート転送（バーチャルサーバーと呼ばれることもあります）設定画面にアクセスします。先ほどのIPアドレス「192.168.1.180」および開放したいポート（例えばインターネットアクセスでは9000番を使用）を設定します。

ルーターの設定方法は、製品ごとに異なりますので、ポート転送の詳細についてはお使いのルーターのユーザーマニュアルを参照してください。



## キーボードエミュレーション

PC互換性(101/104キー)キーボードは、SunおよびMacキーボードの機能をエミュレートできます。エミュレーションマッピングは下表のとおりです。

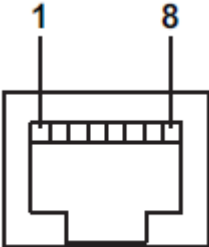
| PC用キーボード                                                                            | Sunキーボード                                                                                                                                                            | PC用キーボード                                                                                   | Macキーボード                                                                          |
|-------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| [Ctrl][T]                                                                           | Stop                                                                                                                                                                | [Shift]                                                                                    | Shift                                                                             |
| [Ctrl][F2]                                                                          | Again                                                                                                                                                               | [Ctrl]                                                                                     | Ctrl                                                                              |
| [Ctrl][F3]                                                                          | Props                                                                                                                                                               |           |  |
| [Ctrl][F4]                                                                          | Undo                                                                                                                                                                | [Ctrl][1]                                                                                  |  |
| [Ctrl][F5]                                                                          | Front                                                                                                                                                               | [Ctrl][2]                                                                                  |  |
| [Ctrl][F6]                                                                          | Copy                                                                                                                                                                | [Ctrl][3]                                                                                  |  |
| [Ctrl][F7]                                                                          | Open                                                                                                                                                                | [Ctrl][4]                                                                                  |  |
| [Ctrl][F8]                                                                          | Paste                                                                                                                                                               | [Alt]                                                                                      | Alt                                                                               |
| [Ctrl][F9]                                                                          | Find                                                                                                                                                                | [Print Screen]                                                                             | F13                                                                               |
| [Ctrl][F10]                                                                         | Cut                                                                                                                                                                 | [Scroll Lock]                                                                              | F14                                                                               |
| [Ctrl][1]                                                                           |   |           | =                                                                                 |
| [Ctrl][2]                                                                           |                                                                                    | [Enter]                                                                                    | Return                                                                            |
| [Ctrl][3]                                                                           |                                                                                  | [Backspace]                                                                                | Delete                                                                            |
| [Ctrl][4]                                                                           |                                                                                  | [Insert]                                                                                   | Help                                                                              |
| [Ctrl][H]                                                                           | Help                                                                                                                                                                | [Ctrl]  | F15                                                                               |
|  | Compose                                                                                                                                                             |                                                                                            |                                                                                   |
|  |                                                                                  |                                                                                            |                                                                                   |

### 注意:

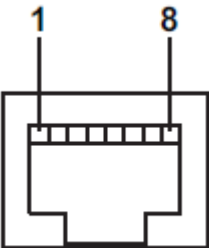
キーの組み合わせを使用する場合は、最初のキー(Ctrl)を押して指を離し、次にアクティベーションキーを押して指を離してください。

## シリアルポートのピンアサイン

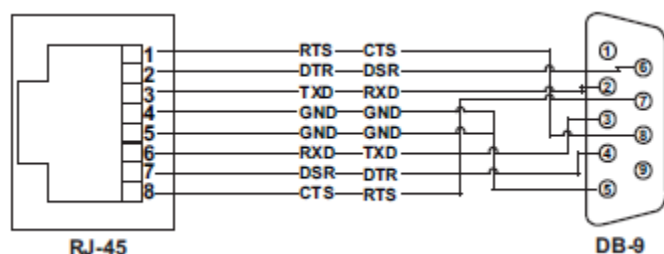
CPU COM(RS-232C DTE)ポートのピン割り当てを下表に示します:

| ピン | アサイン |                                                                                                       |
|----|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | RTS  |  <p>RJ-45 Female</p> |
| 2  | DTR  |                                                                                                       |
| 3  | TXD  |                                                                                                       |
| 4  | CTS  |                                                                                                       |
| 5  | GND  |                                                                                                       |
| 6  | RXD  |                                                                                                       |
| 7  | DCD  |                                                                                                       |
| 8  | DSR  |                                                                                                       |

ローカルコンソールCOM(RS-232C DCE)ポートのピン割り当てを下表に示します:

| ピン | アサイン |                                                                                                        |
|----|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1  | CTS  |  <p>RJ-45 Female</p> |
| 2  | N/A  |                                                                                                        |
| 3  | RXD  |                                                                                                        |
| 4  | GND  |                                                                                                        |
| 5  | GND  |                                                                                                        |
| 6  | TXD  |                                                                                                        |
| 7  | N/A  |                                                                                                        |
| 8  | RTS  |                                                                                                        |

## RJ-45→DB-9ケーブルのピン配列



---

### 注意:

Ciscoコンソールケーブルを使用してDCEポートに接続する場合は、ヌルモデムケーブルまたはヌルモデムコンバーターが必要です。

---

## 信頼された証明書

---

### 概要

ブラウザ経由で製品にログインすると、以下のような「セキュリティの警告」ダイアログが表示され、デバイスの証明書が信頼できるものではないため、操作を続行するかどうかを問うメッセージが表示されます。



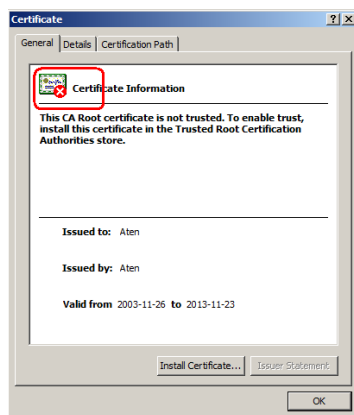
この証明書は信頼できるものですが、証明者の名前がMicrosoftの信頼された認証局のリストに存在しないため、このようなダイアログボックスが表示されます。これに対応するには、次の2つの方法があります。

- ◆ 別の場所のコンピューターで作業している場合は、「はい」をクリックして、このセッションのみの証明書を受け入れます。
- ◆ 自分のコンピューターで作業している場合は、証明書をコンピューターにインストールしてください（詳細は以下を参照）。証明書がインストールされると、信頼できる証明書として認識されます。

## 証明書のインストール

証明書のインストールは下記の手順に従ってください。

1. 「セキュリティの警告」ダイアログボックスで、「**証明書の表示**」ボタンをクリックしてください。「証明書」ダイアログボックスが表示されます。



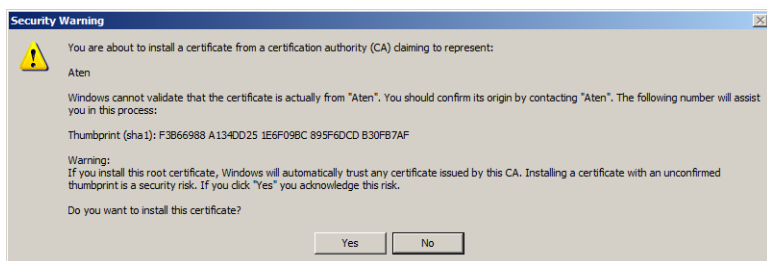
---

### 注意:

証明書の上に赤い枠で囲まれている「×」の印は、この証明書が信頼できないと認識されていることを表しています。

---

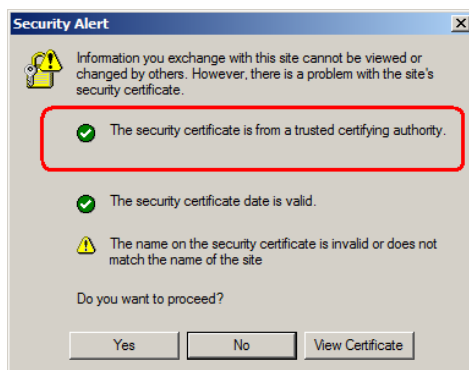
2. 「**証明書のインストール**」をクリックしてください。
3. インストールウィザードの指示に従って、インストールを進めてください。特に不都合がない場合は、デフォルト値でインストールしてください。
4. ウィザードに警告ダイアログが表示されたら、「はい」をクリックしてください。



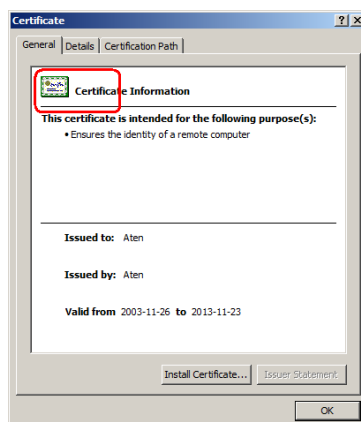
5. 「完了」ボタンを押してインストール作業を完了してください。「OK」ボタンを押すとダイアログボックスが終了します。

## 証明書のインストール完了

証明書は信頼できるものに変更されました。



「証明書の表示」ボタンをクリックすると、赤と白色の「×」の印が消え、証明書が信頼できるものであるというメッセージが表示されます：



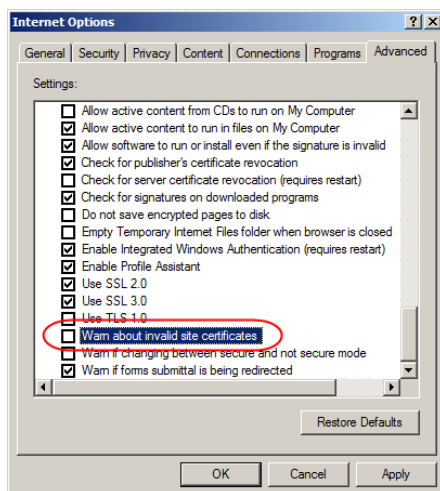
## アドレス不整合に関する注意事項

証明書の生成に使用されたサイト名またはIPアドレスがRCM KVM over IPの現在のアドレスと一致なくなると、不一致の警告が発生します：



「はい」ボタンをクリックして継続することも、不整合のチェックを無効にすることもできます。不整合のチェックを無効にする場合は、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. ログイン画面が表示されたら、ブラウザーのツールメニューを開き、「インターネットオプション」>「詳細設定」を選択してください。
2. リストの下部にスクロールして、「証明書のアドレスの不一致について警告する」の項目についているチェックを外してください。



3. 「OK」ボタンをクリックしてください。ここで変更された設定は、ブラウザの再起動後に有効になります。



## 自己署名(プライベート)証明書

---

独自の自己署名暗号化キーと証明書を作成する場合は、無料ユーティリティ「openssl.exe」をWebサイト「[www.openssl.org](http://www.openssl.org)」からインターネット経由でダウンロードできます。独自のプライベートキーや証明書を作成する場合は、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. ダウンロードして解凍したopenssl.exeのディレクトリーに移動してください。
2. 以下のパラメーターを指定してopenssl.exeを実行してください。

```
openssl req -new -newkey rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509 -keyout CA.key  
-out CA.cer -config openssl.cnf
```

---

### 注意:

1. 上記のコマンドは1行で入力してください。パラメーターの入力途中で[Enter]キーを押さないでください。
  2. 入力値にスペースが含まれている場合は、その値をダブルクォートで囲んでください(例: "ATEN International")。
- 

以下のパラメーターを使用して、作成時に入力するキーを少なくすることも可能です。

```
/C /ST /L /O /OU /CN /emailAddress
```

### 例

```
openssl req -new -newkey rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509  
-keyout CA.key -out CA.cer -config openssl.cnf -subj  
/C=yourcountry/ST=yourstateorprovince/L=yourlocationor  
city/O=yourorganization/OU=yourorganizationalunit/  
CN=yourcommonname/emailAddress=name@yourcompany.com  
  
openssl req -new -newkey rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509  
-keyout CA.key -out CA.cer -config openssl.cnf -subj  
/C=CA/ST=BC/L=Richmond/O="ATEN International"/OU=ATEN  
/CN=ATEN/emailAddress=eservice@aten.com.tw
```

## ファイルのインポート

openssl.exeの後にプログラムが完了すると、プログラムを実行したディレクトリーにCA.key(プライベートキー)とCA.cer(自己署名SSL証明書)の2つのファイルが作成されます。これらのファイルは、「セキュリティー」タブの「プライベート証明書」メニュー(p.82参照)でアップロードします。

# トラブルシューティング

## 操作全般

| 問題                                                | 解像度                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|---------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 動作が不安定である。                                        | <p>RCM KVM over IPは、KVMスイッチの前に起動する必要があります。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>RCM KVM over IPがKVMスイッチに接続されている場合は、KVMスイッチの電源を入れる前にKVM over IPユニットに電源を入れてください。</li><li>RCM KVM over IPの前にKVMスイッチが起動された場合は、KVMスイッチをリセットまたは再起動してください。</li></ol> <p>RCM KVM over IPをリセットする必要があります(p.55「メインファームウェアのアップグレード」のポイント1参照)。</p>                                                                                                                                                                                                                 |
| IPアドレスとポート番号を正しく指定していても、RCM KVM over IPにアクセスできない。 | <p>RCM KVM over IPがルーターを超えた先にある場合は、ルーターのポート転送(バーチャルサーバーとも呼ばれます)機能を設定する必要があります。詳細はp.178「ポートの転送」を参照してください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| マウスポインターの表示で混乱する。                                 | <p>2つのマウスポインター(ローカルポインターとリモートポインター)の表示が分かりにくい場合は、マウス表示の切替機能を使用して、機能していないポインターを縮小できます。詳細はp.117を参照してください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| マウスの動きが同期していない。                                   | <p>PS/2制御(RCMVGA101)を使用して接続したPC/サーバーのマウスポインターの動きが、リモートマウス操作と同期していない場合は、次の操作を実行できます:</p> <ol style="list-style-type: none"><li>接続したPC/サーバーで、マウス設定の「ポインターの精度を高める」をOFFにしてください。問題が解決しない場合は、手順2に進みます。</li><li>RCMVGA101のWebブラウザで、マウス遅延時間を'n'ミリ秒単位で設定するには、ターミナルコマンドで“setportatt 1 &lt;n&gt;”を実行してください。n=10から始めて、必要に応じて調整できます。p.58「ターミナル」を参照してください。<ol style="list-style-type: none"><li>この問題は、製品に接続されたPC/サーバーで、絶対座標がサポートされていないUSBマウス制御を使用した場合でも発生する可能性があります。</li><li>マウス遅延時間をデフォルトにリセットするには、ターミナルコマンド“setportatt 1 0”を実行します。</li></ol></li></ol> |

| 問題                                                                                                              | 解像度                                                                                                                                                                                                                                            |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| マウスの動作が極端に遅い。                                                                                                   | 転送されるデータ量が多いため、マウスの表示が動作に追いつかないことが考えられます。ビデオ品質を下げて、ビデオ転送に使用されるデータを減らしてください(p.126「ビデオ設定」参照)。                                                                                                                                                    |
| マウス同期モードを手動に変更すると、RCM KVM over IPがクラッシュする。                                                                      | RCM KVM over IPはクラッシュしていません。通常の操作が再開されるまで約5分間待つことも、RCM KVM over IPをリセットしてすぐに取得することもできます(p.55「メインファームウェアのアップグレード」のポイント1を参照)。                                                                                                                    |
| Webブラウザのセッションで設定を変更している時にタイムアウトになると、その時に設定していた内容が破棄されている。                                                       | 「適用」をクリックしない場合、RCM KVM over IPは作業中であることを認識せず、タイムアウトします。<br>「適用」をクリックしない限り、変更内容は反映されません。RCM KVM over IPに設定を保存するには、実行中に「適用」をクリックする必要があります。                                                                                                       |
| Firefoxを使ってログインすると、リモートコンソールディスプレイにWindowsクライアントと起動用のリンクが表示されない。                                                | Windowsクライアントをご利用いただくにはInternet Explorerと専用のActive Xコントロールをインストールすることが必須条件です。FirefoxはActive Xに対応していませんので、Javaアプレットをお使いください。                                                                                                                    |
| Fedoraがインストールされているリモートサーバーにアクセスすると、アクセスしているのがリモートコンソールからであっても、また、ローカルクライアントコンピューターからであっても、リモートサーバー側のマウスが動かなくなる。 | リモートサーバーがPS/2ケーブルで接続されている場合は、ブラウザでRCM KVM over IPにログインしてください。そうしたら、ビューワーを開き、コントロールパネルでマウスダイナシクを「手動」に設定してください。詳細はp.141を参照してください。                                                                                                                |
| IPインストーラーのデバイスリストに、ATEN over IPのユニットが一覧表示されない。                                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 自動検出を正常に機能させるには、ブロードキャスト機能が有効になっていることを本機またはルーターから確認してください。</li> <li>◆ オーディオ検出が正常に機能するように、ファイアウォールやウィルス対策ソフトウェアを一時的に無効にしてください。</li> <li>◆ ATEN over IPユニットとPCが同じネットワークセグメント下にあることを確認してください。</li> </ul> |

## Windows

| 問題                                                                  | 解決度                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ログインすると、ブラウザからCAルート証明書が信頼できないという内容のメッセージが表示されたり、証明書エラーの応答が返って来たりする。 | <ol style="list-style-type: none"> <li>これは証明書の名前がMicrosoftの信頼された認証局のリストに存在しないことに起因します。この証明書は信頼できるものですので、受け入れても問題ありません。<br/>詳細はp.182「信頼された証明書」を参照してください。</li> <li>このメッセージは、認識されているサードパーティー認証局によって発行された証明書をインポートすることによって非表示にすることができます (p.82「CA署名済みSSLサーバー証明書の取得」参照)。</li> </ol>                                             |
| 証明書をインポートしても、ログインサイトに関する警告メッセージが依然として表示される。                         | 証明書セキュリティチェックで証明書アドレスの不一致が検出されたとしても、証明書は信頼できます。Webサイトで「続行する」をクリックして操作を進める(推奨しません)か、不整合のチェック機能を無効にすることができます。この操作に関する詳細はp.185「アドレス不整合に関する注意事項」を参照してください。                                                                                                                                                                    |
| リモートとローカルのマウスポインターが同期していない。                                         | <ol style="list-style-type: none"> <li>マウスダイナシクモードの設定内容を確認してください (p.141参照)。もし、自動設定ようになっている場合は、手動設定にしてください。</li> <li>手動モードの場合は、自動同期機能 (p.126「ビデオ設定」参照)を使用して、ローカルモニターとリモートモニターを同期してください。</li> <li>上記の方法で解決しない場合、マウス調整機能 (p.118参照)を使用してください。</li> <li>上記の手順で問題が解決しない場合は、その他のマウス同期方法 (p.195)を参照して、実行する手順を確認してください。</li> </ol> |
| リモートモニターでローカルディスプレイの一部分しか表示されない。                                    | 自動同期機能 (p.126「ビデオ設定」参照)を使ってローカルとリモートのモニターの同期を取ってください。                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| バーチャルメディア機能が使用できない。                                                 | 製品本体に古いコンピューターを接続してお使いの際にこの現象が見られる場合があります。この場合は、お使いのマザーボードの製造元から最新ファームウェアバージョンを入手し、マザーボードのアップグレードを行ってください。                                                                                                                                                                                                                |

|                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>ブラウザでRCM KVM over IPにアクセスし、Windowsクライアントビューワーを開くと、使用しているアンチウィルスプログラムからトロイの木馬があると報告される。</p> | <p>WindowsクライアントビューワーはActive Xプラグイン(windows.ocx)を使用しており、アンチウィルスソフトの中にはこれをウィルスまたはトロイの木馬に感染していると誤認するものがあります。弊社はファームウェアを広範囲にわたって検査し、ウィルスやトロイの木馬に感染していないことがわかっています。プラグインをご使用のアンチウィルスプログラムのホワイトリストに追加すれば、ビューワーを安全に使用できます。しかし、それでもWindowsクライアントビューワーの使用をためらう場合は、代わりにJavaクライアントビューワーをご使用ください。</p> |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## Java

マウス同期に関する問題についてはp.116「マクロ」、p.141「マウスダイナシクモード」、p.197「Sun/Linux」の内容を参照してください。その他の問題については下表を参照してください。

| 問題                                                                  | 解像度                                                                                                                                                                                                            |
|---------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| JavaアプレットがRCM KVM over IPに接続しない。                                    | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. お使いのコンピューターにJava 6 Update 3以降がインストールされている必要があります。</li> <li>2. RCM KVM over IPのIPアドレスを指定するときは、正しいログイン文字列を含めてください。</li> <li>3. Javaアプレットを一度終了させて、再試行してください。</li> </ol> |
| 最新のJREをインストールしたにもかかわらず、パフォーマンスと安定性に問題がある。                           | 本製品のJavaクライアントビューワーの開発以降にリリースされたバージョン(特に最新版など)のJavaをお使いの場合、Java側の新機能に対応していないなどの理由でパフォーマンスが悪いことが考えられます。最新版よりも1～2つほど古いバージョンのJREを使用してみてください。                                                                      |
| Javaクライアントビューワーのパフォーマンスに問題がある。                                      | プログラムを一度終了させて、再起動してください。                                                                                                                                                                                       |
| 英語以外の言語の文字が表示されない。                                                  | RCM KVM over IPのオンスクリーンキーボードを使用し、ローカルコンピューターとリモートコンピューターが同じ言語に設定されていることを確認してください(p.138「オンスクリーンキーボード」参照)。                                                                                                       |
| ログインすると、ブラウザからCAルート証明書が信頼できないという内容のメッセージが表示されたり、証明書エラーの応答が返ってきたりする。 | これは証明書の名前がMicrosoftの信頼された認証局のリストに存在しないことに起因します。この証明書は信頼できるものですので、受け入れても問題ありません。詳細はp.182「信頼された証明書」を参照してください。                                                                                                    |

## Sunシステム

| 問題                                                                    | 解像度                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| HDB15インターフェースシステム<br>のビデオ表示の問題(例:<br>Sun Blade1000サーバー)。 <sup>1</sup> | <p>ディスプレイの解像度は1024×768に設定する必要があります。テキストモードの場合:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>OKモードに移動し、次のコマンドを実行してください:<br/> <pre>setenv output-device screen:r1024x768x60 reset-all</pre> </li> </ol> <p>XWindowの場合:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>コンソールを開き、以下のコマンドを実行してください。<br/> <pre>m64config -res 1024x768x60</pre> </li> <li>ログアウトしてください。</li> <li>ログインしてください。</li> </ol>         |
| 13W3インターフェースシステム<br>(例:Sun Ultra Server)を使用すると、ビデオ表示の問題が発生する*。        | <p>ディスプレイの解像度は1024×768に設定する必要があります。テキストモードの場合:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>OKモード</b>に移動し、次のコマンドを発行します:<br/> <pre>setenv output-device screen:r1024x768x60<br/>reset-all</pre> </li> </ol> <p>XWindowの場合:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>コンソールを開き、以下のコマンドを実行してください。<br/> <pre>m64config -res 1024x768x60</pre> </li> <li>ログアウトしてください。</li> <li>ログインしてください。</li> </ol> |
| ローカルとリモートのマウスポインターが同期しない。                                             | <p>デフォルト設定では、ローカルとリモートのマウスポインターは、接続時に自動的に同期されます。ただし、自動マウス同期の実行は、WindowsまたはMac(G4以降)でUSBマウスを使用した時のみ限ります。マウスダイナシクで「手動」を選択し、ポインターを手動で同期させてください。詳細については、p.141「マウスダイナシクモード」を参照してください。</p>                                                                                                                                                                                                               |

\* Sun VGAカードに関するトラブルの多くは、上記の方法で解決することが可能です。問題が解決しない場合は、Sun VGAカードのマニュアルを参照してください。

## Macシステム

| 問題                                            | 解像度                                                                                                                                                              |
|-----------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ローカルとリモートのマウスポインターが同期しない。                     | Macには、Mac1とMac2の2つのUSB I/O設定があります (p.96「カスタマイズ」参照)。一般的に「Mac 1」は古いOSバージョン用であるのに対し、「Mac 2」は新しいOSバージョン用ですが、逆の場合が当てはまることもあります。ポインターの同期に問題がある場合は、もう一方のモードを選択してみてください。 |
| Safariブラウザで製品にログインしてスナップショット機能を使用すると、応答なしになる。 | Safariを強制終了した後で、再起動してください。スナップショット機能は今後使用しないようにしてください。<br>Safariでスナップショット機能を使用するには、Mac OSは10.4.11に、Safariは3.0.4にそれぞれアップグレードしてください。                               |

## ログサーバー

| 問題                 | 解像度                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ログサーバープログラムが起動しない。 | ログサーバーでデータベースにアクセスするにはMicrosoft Jet OLEDB 4.0ドライバーが必要です。<br>このドライバーはWindows ME、2000、XPで自動的にインストールされています。<br>Windows 98またはNTの場合、Microsoftの以下のダウンロードサイト<br>( <a href="http://www.microsoft.com/data/download.htm">http://www.microsoft.com/data/download.htm</a> )に移動してドライバーファイル(MDAC 2.7 RTM Refresh (2.70.9001.0))を取得してください。<br>このドライバーはWindows Office Suiteで使用されるため、Windows Office Suiteをインストールする方法もあります。ドライバーファイルまたはWindows Office Suiteがインストールされると、ログサーバーが動作するようになります。 |



## その他のマウス同期方法

---

本マニュアルに記載されているマウスの同期の設定を適用したにもかかわらず、お使いのコンピューターでマウスポインターの問題が解決しない場合は、下記の手順を試してみてください。

### Windows:

---

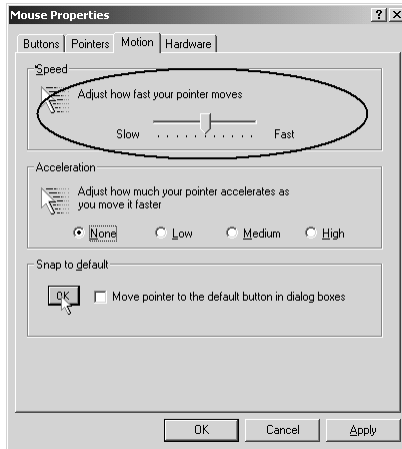
#### **注意:**

ローカルマウスとリモートマウスを同期するには、MSオペレーティングシステムに付属の汎用マウスドライバを使用する必要があります。サードパーティー製のドライバー(例: マウスの製造元から提供されたドライバーなど)を使用している場合は、そのドライバーを削除してください。

---

#### 1. Windows 2000:

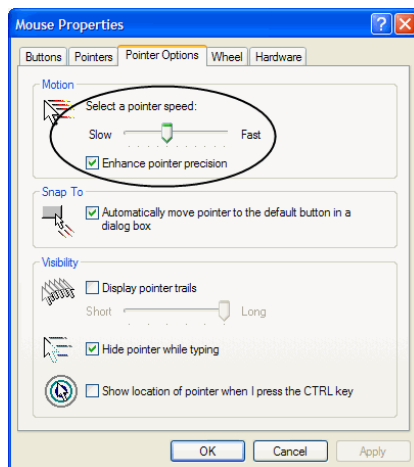
- a) マウスのプロパティダイアログボックスを開いてください(「コントロールパネル」>「マウス」>「マウスのプロパティ」)。
- b) 「動作」タブをクリックしてください。
- c) マウスの速度のスライダーバーを中央の位置(左から6目盛り目)に移動させてください。
- d) 「ポインターの加速」で、「いいえ」のラジオボタンを選択してください。



## 2. Windows XP/Windows

Server2003/Windows7/Windows8/Windows10:

- a) 「マウスのプロパティー」ダイアログボックスを開いてください(「コントロールパネル」>「マウス」)(Windows 10 の場合は、「スタート」>「デバイス」>「マウス」>「追加のマウスオプション」をクリックします)。
- b) 「マウスのプロパティー」ダイアログボックスから、「ポインターオプション」タブをクリックしてください。
- c) マウスの速度のスライダーバーを中央の位置(左から6目盛り目)に移動させてください。
- d) 「ポインターの精度を高める」の項目からチェックを外して、この機能を無効にしてください。



3. Windows ME:

マウスの速度を中間に設定し、マウスの加速機能を無効にしてください  
(この設定を行う場合は、ダイアログから「詳細. . .」ボタンをクリックしてください)。

4. Windows NT/Windows98/Windows95: マウスの速度を最も低い設定にしてください。

## Sun/Linux

ターミナルセッションを開き、以下のコマンドを実行してください。

Sun: `xset m 1`

Linux: `xset m 0` または `xset m 1`

(一方がうまくいかない場合は、もう一方を試してみてください)

## 対応バーチャルメディア

---

### Windowsクライアント Active Xビューワー/WinクライアントAP

- ◆ IDE CDROM/DVD-ROMドライブ – 読み取り専用
- ◆ IDE ハードディスクドライブ – 読み取り専用
- ◆ USB CD ROM/DVD-ROMドライブ – 読み取り専用
- ◆ USBハードディスクドライブ – 読み取り/書き込み対応\*
- ◆ USBフラッシュメモリー – 読み取り/書き込み対応\*
- ◆ USBフロッピードライブ – 読み取り/書き込み対応

---

\* これらのドライブは、ドライブとリムーバブルディスクのどちらの方法でもマウントすることができます (p.132「バーチャルメディア」参照)。  
リムーバブルディスクとしてマウントした場合、そのディスクにブート可能なOSが含まれていれば、そこからリモートサーバーを起動することができます。さらに、そのディスクが複数のパーティションに分かれている場合は、リモートサーバーはすべてのパーティションにアクセスすることができます。

---

- ◆ ISOファイル – 読み取り専用
- ◆ フォルダー – 読み取り/書き込み対応
- ◆ スマートカードリーダー

### Javaアプレットビューワー/JavaクライアントAP

- ◆ ISOファイル – 読み取り専用
- ◆ フォルダー – 読み取り/書き込み対応

---

#### 注意:

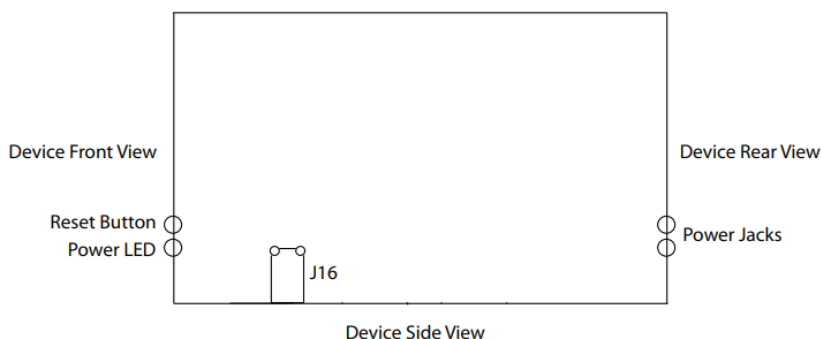
1. Javaクライアントは、Winクライアントと同じ方法でバーチャルメディアをサポートしますが、アカウントには管理者レベルの権限が必要です。
  2. フォルダーマッピングではFAT16ファイルシステムが使用されるため、2GBの制限事項があります。
-

## アドミニストレーターでログインできない場合

(ユーザーネームとパスワードの情報が破損している、忘れてしまったなどの理由で)アドミニストレーターのログイン実行できない場合、システムデータベースの情報を消去するために使用できる手順があります。

システムのデータベース情報を消去するには、次の手順に従って操作を行ってください:

1. RCM KVM over IPの電源を切り、電源ケーブルをコンセントから抜いて、ケースを取り外してください。
2. ジャンパーキャップを使用して、J16とラベルされたメインボードのジャンパーをショートさせてください。



3. 製品本体に電源を入れてください。
4. 前面パネルのLEDが点滅したら、製品本体の電源を切ってください。
5. J16からジャンパーキャップを取り外してください。
6. ケースを閉じ、RCM KVM over IPの電源を入れてください。

システムデータベースをクリアしてリセットしたら、デフォルトのユーザーネームとパスワード(p.46およびp.109を参照)を使用してログインできます。

# 仕様

## RCMVGA101

| コネクター            |                                                                                                               |
|------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| コンソールポート         | USB Type-A メス × 2 (White)<br>D-sub15ピン メス × 1 (Blue)<br>ステレオミニジャック メス × 1 (Green)<br>ステレオミニジャック メス × 1 (Pink) |
| KVMポート           | SPHD/VGA メス × 1 (Yellow)<br>ステレオミニジャック メス × 1 (Green)<br>ステレオミニジャック メス × 1 (Pink)                             |
| LANポート           | RJ-45 メス × 2                                                                                                  |
| バーチャルメディア        | USB Mini-B メス × 1                                                                                             |
| 電源               | DC電源ジャック × 2                                                                                                  |
| シリアルポート          | RJ-45 メス × 2                                                                                                  |
| 制御ポート            | PS/2 メス × 1                                                                                                   |
| スイッチ             |                                                                                                               |
| リセット             | ピンホール型スイッチ × 1 (Black)                                                                                        |
| エミュレーション         |                                                                                                               |
| キーボード/マウス        | PS/2、USB                                                                                                      |
| LED              |                                                                                                               |
| 電源               | 2 (Green)                                                                                                     |
| ビデオ              |                                                                                                               |
| ローカルコンソール&リモート   | 最大1920 × 1200@60 Hz                                                                                           |
| 消費電力             |                                                                                                               |
| DC5V:7.46W:39BTU |                                                                                                               |
| 動作環境             |                                                                                                               |
| 動作温度             | 0～50℃(RCMVGA101)<br>0～40℃(電源アダプター)                                                                            |
| 保管温度             | -20～60℃                                                                                                       |
| 湿度               | 0～80%RH、結露なきこと                                                                                                |

| ケース        |          |                                                                     |
|------------|----------|---------------------------------------------------------------------|
| ケース材料      |          | メタル                                                                 |
| 重量         |          | 0.86kg(1.90 ポンド)                                                    |
| サイズ(W×D×H) |          | 20.00×15.41×2.85cm(7.87×6.07×1.12インチ)                               |
| 制御ターミナル    |          |                                                                     |
| リレー        | 接点<br>容量 | 最大開閉電圧:30W、37.5VA<br>最大開閉電圧:220V DC、250V AC<br>最大開閉/通電電流:1A         |
|            | 負荷       | 30 V DC、1A(20°C、1Hzの環境で動作した場合)<br>125 V AC、0.3A(20°C、1Hzの環境で動作した場合) |
| デジタル入力     |          | 5～24V                                                               |

## RCMDVI101

| コネクタ      |                                                                                                |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| コンソールポート  | USB Type-A メス×2(White)<br>DVI-D メス×1(White)<br>ステレオミニジャック メス×1(Green)<br>ステレオミニジャック メス×1(Pink) |
| KVMポート    | USB Type-B メス×1(White)<br>DVI-D メス×1(White)<br>ステレオミニジャック メス×1(Green)<br>ステレオミニジャック メス×1(Pink) |
| LANポート    | RJ-45 メス×2                                                                                     |
| バーチャルメディア | USB Mini-B メス×1                                                                                |
| 電源        | DC電源ジャック×2                                                                                     |
| シリアルポート   | RJ-45 メス×2                                                                                     |
| 制御ポート     | PS/2 メス×1                                                                                      |
| スイッチ      |                                                                                                |
| リセット      | ピンホール型スイッチ×1(Black)                                                                            |
| エミュレーション  |                                                                                                |

|                  |                                                |
|------------------|------------------------------------------------|
| キーボード/マウス        | USB                                            |
| <b>LED</b>       |                                                |
| 電源               | 1 (Green)                                      |
| <b>ビデオ</b>       |                                                |
| ローカルコンソール & リモート | 1920 × 1200@60Hz                               |
| <b>消費電力</b>      |                                                |
| DC5V:5.55W:30BTU |                                                |
| <b>動作環境</b>      |                                                |
| 動作温度             | 0～50℃ (RCMDVI101)<br>0～40℃ (電源アダプター)           |
| 保管温度             | -20～60℃                                        |
| 湿度               | 0～80%RH、結露なきこと                                 |
| <b>ケース</b>       |                                                |
| ケース材料            | メタル                                            |
| 重量               | 0.84kg (1.85 ポンド)                              |
| サイズ (W × D × H)  | 20.00 × 15.49 × 2.85cm (7.87 × 6.1 × 1.12 インチ) |

## **RCMDP101U**

|             |                                                                                                                  |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>コネクタ</b> |                                                                                                                  |
| コンソールポート    | USB Type-A メス × 2 (White)<br>DisplayPort メス × 1 (Black)<br>ステレオミニジャック メス × 1 (Green)<br>ステレオミニジャック メス × 1 (Pink) |
| KVMポート      | USB Type-B メス × 1 (White)<br>DisplayPort メス × 1 (Black)<br>ステレオミニジャック メス × 1 (Green)<br>ステレオミニジャック メス × 1 (Pink) |
| LANポート      | RJ-45 メス × 2                                                                                                     |



|                  |      |                                                                |
|------------------|------|----------------------------------------------------------------|
| バーチャルメディア        |      | USB Mini-B メス × 1                                              |
| 電源               |      | DC電源ジャック × 2                                                   |
| シリアルポート          |      | RJ-45 メス × 2                                                   |
| 制御ポート            |      | 6ピン ミニDIN メス × 1 (Purple)                                      |
| スイッチ             |      |                                                                |
| リセット             |      | ピンホール型スイッチ × 1 (Black)                                         |
| エミュレーション         |      |                                                                |
| キーボード/マウス        |      | USB                                                            |
| LED              |      |                                                                |
| 電源               |      | 2 (Green)                                                      |
| ビデオ              |      |                                                                |
| ローカルコンソール & リモート |      | 4096 × 2160@30Hz                                               |
| 消費電力             |      |                                                                |
| DC5V:9.76W:50BTU |      |                                                                |
| 動作環境             |      |                                                                |
| 動作温度             |      | 0～50℃ (RCMDP101U)<br>0～40℃ (電源アダプター)                           |
| 保管温度             |      | -20～60℃                                                        |
| 湿度               |      | 0～80%RH、結露なきこと                                                 |
| ケース              |      |                                                                |
| ケース材料            |      | メタル                                                            |
| 重量               |      | 0.85kg                                                         |
| サイズ(W×D×H)       |      | 20.00 × 14.93 × 2.85cm                                         |
| 制御ターミナル          |      |                                                                |
| リレー              | 接点容量 | 最大開閉電源:30W、37.5V A<br>最大開閉電圧:220V DC、250V AC<br>最大開閉/通電電流:1A   |
|                  | 負荷   | 30 V DC、1A(20℃、1Hzの環境で動作した場合)<br>30 V DC、1A(20℃、1Hzの環境で動作した場合) |
| デジタル入力           |      | 5～24V                                                          |

## RCMHD101U

| コネクタ                |                                                                                                           |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| コンソールポート            | USB Type-A メス × 2 (White)<br>HDMI メス × 1 (Black)<br>ステレオミニジャック メス × 1 (Green)<br>ステレオミニジャック メス × 1 (Pink) |
| KVMポート              | USB Type-B メス × 1 (White)<br>HDMI メス × 1 (Black)<br>ステレオミニジャック メス × 1 (Green)<br>ステレオミニジャック メス × 1 (Pink) |
| LANポート              | RJ-45 メス × 2                                                                                              |
| バーチャルメディア           | USB Mini-B メス × 1                                                                                         |
| 電源                  | DC電源ジャック × 2                                                                                              |
| シリアルポート             | RJ-45 メス × 2                                                                                              |
| 制御ポート               | 6ピン ミニDIN メス × 1 (Purple)                                                                                 |
| スイッチ                |                                                                                                           |
| リセット                | ピンホール型スイッチ × 1 (Black)                                                                                    |
| エミュレーション            |                                                                                                           |
| キーボード/マウス           | USB                                                                                                       |
| LED                 |                                                                                                           |
| 電源                  | 2 (Green)                                                                                                 |
| ビデオ                 |                                                                                                           |
| ローカルコンソール & リモート    | 4096 × 2160@30Hz                                                                                          |
| 消費電力                |                                                                                                           |
| DC5V: 10.07W: 48BTU |                                                                                                           |
| 動作環境                |                                                                                                           |
| 動作温度                | 0～50℃ (RCMHD101U)<br>0～40℃ (電源アダプター)                                                                      |
| 保管温度                | -20～60℃                                                                                                   |
| 湿度                  | 0～80%RH、結露なきこと                                                                                            |

| ケース        |      |                                                                  |
|------------|------|------------------------------------------------------------------|
| ケース材料      |      | メタル                                                              |
| 重量         |      | 0.84kg                                                           |
| サイズ(W×D×H) |      | 200×150.5×28.4mm                                                 |
| 制御ターミナル    |      |                                                                  |
| リレー        | 接点容量 | 最大開閉電源:30W、37.5V A<br>最大開閉電圧:220V DC、250V AC<br>最大開閉/通電電流:1A     |
|            | 負荷   | 30 V DC、1A(20℃、1Hzの環境で動作した場合)<br>30 V DC、0.3A(20℃、1Hzの環境で動作した場合) |
| デジタル入力     |      | 5～24V                                                            |